

令和2年度使用小学校教科用図書 採択地区調査研究報告書

令和元年7月31日

令和2年度使用小学校教科用図書調査研究の報告について

1. 教科用図書調査研究の観点

観点1 基礎・基本の定着

教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る上で、内容の精選及び創意工夫がなされているか。

観点2 主体的に学習に取り組む工夫

問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れ、児童生徒の興味関心を生かし、自ら学び、自ら考える力の育成を図る工夫がなされているか。

観点3 内容の構成・配列・分量

学習指導を効果的にすすめる上で、適切な内容の構成・配列・分量となっているか。

観点4 内容の表現・表記

さし絵・地図・図表などの資料等が有効に使われるよう配慮されているか。

観点5 言語活動の充実

基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動の充実や、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整えることに配慮されているか。

《参考》 【小学校教科用図書の種目】

| |
|-----|
| 全種目 |
|-----|

2. 調査研究・報告にあたっての留意点

- (1) 全発行者の教科用図書について調査研究し、報告する。
- (2) 1発行者の教科用図書について、必ず複数の調査員で調査研究をする。
- (3) 教科用図書調査研究の観点に基づく各教科・各種目別の具体的な調査研究の視点については、各調査員（会）において定める。
- (4) 報告書及び要約の作成については、発行者の長所だけでなく、課題と思われる点についても報告すること。

目 次

| | ページ |
|--------------------|-----------|
| 国 語 | 1 ~ 7 |
| 書 写 | 8 ~ 14 |
| 社 会 | 15 ~ 25 |
| 地 図 | 26 ~ 36 |
| 算 数 | 37 ~ 53 |
| 理 科 | 54 ~ 65 |
| 生 活 | 66 ~ 90 |
| 音 楽 | 91 ~ 103 |
| 図画工作 | 104 ~ 111 |
| 家 庭 | 112 ~ 121 |
| 保 健 | 122 ~ 127 |
| 外国語 | 128 ~ 141 |
| 特別の教科 道徳 | 142 ~ 153 |

種 目 名 (国 語)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 単元・題材の目標の示し方
- ② 学習の手引きやまとめの示し方
- ③ 伝統と文化に関する内容の記述
- ④ 情報の扱い方や示し方

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ⑤ 問題解決的な学習を実施するための工夫
- ⑥ 興味・関心を高めるための工夫
- ⑦ 自ら学び、自ら考える力の育成を図る工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

- ⑧ 単元・題材や資料等の配列
- ⑨ 単元・題材ごとの分量

(4) 内容の表現・表記

- ⑩ 言語活動の内容
- ⑪ 巻末資料の示し方

(5) 言語活動の充実

- ⑫ 発展的な学習の扱い方
- ⑬ 学校図書館機能の活用

様式1-2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 単元・題材の目標の示し方
- ② 学習の手引きやまとめの示し方
- ③ 伝統と文化に関する内容の記述
- ④ 情報の扱い方や示し方

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の冒頭に、その学年で身に付ける「言葉の力」の一覧を設置しており、1年間の見通しをしっかりと国語の学習が行えるようになっている。 ○単元の導入ページがあり、「何ができるようになるか」という言葉の力を明示し、単元末では、学習で身に付けておくべき力をおさえている。 ○単元末では、単元を通した「大きな問い」が書かれている。また、思考の手立てとしてのノートのメモ、カードや図表の例、思考の流れとしてキャラクターの吹き出しがあり、多様な見方・考え方を働かせて学びを深められるようになっている。 ○伝統的な言語文化に親しむ教材が各学年一教材、自然や風物を表現した詩歌に触れる「季節の足音」が配置されている。 ○情報を整理したり関連付けたりする思考操作をメモやノート、思考ツールで可視化するなどして、目的や課題に応じて情報を扱う力が身に付くようにしている。イラストの吹き出しで、思考の流れを示している。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○見開きのページは、各単元で身に付ける思考スキル（比較・分類・関係付け等）が示されている。 ○見開きのページに、各学年で学ぶ知識・技能、思考・判断・表現、学びに向かう人間性の指導事項や目標が示されている。 ●単元導入の際に、児童に学ぶ意欲や課題意識をもたせにくい。 ○単元名では着眼点が、めあては二つの項目にして焦点化し、明確に示されている。 ○学習のてびきでは、読む目的が示されており、言語活動を自覚しながら読み進められるようになっている。 ○伝統的な言語文化に親しむ教材が各学年一または二教材、「季節のたより」として詩歌も配置されている。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の活動の中に、図化・表化・イメージマップなどさまざまな思考ツールとしての表し方を取り入れ、情報を視覚的にとらえて整理する力が育つよう配慮している。思考スキルや思考ツールを意識して取り入れている。 |

| | |
|----------------|---|
| <p>教 出</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●単元の扉には単元のめあてが簡潔に書かれているが、目的や必然性については書かれていない。 ○単元末には、「①確かめよう②考えよう③深めよう④広げよう」と学習過程が示され、多面的な見方・考え方ができるように思考を深めるための主発問の例などがある。 ○単元末に、「ここが大事」として、深い学びにつながる思考の手立てが書かれている。 ○各学年に原則として、古典作品にふれる系統の二つの教材と、季節の風物や言葉遊びなどの言語文化に目を向ける教材を系統的に配置してある。高学年には、言葉の変化や由来についての教材も配している。 ○情報の整理の仕方では、「ここが大事」で全体と中心を読み取るポイントを提示したり、高学年の説明文で、原因と結果の述べ方を学び、巻末の「言葉のまとめ」で要点を確認できるようにしたりしている。 ○説明文の読みにおいて、情報を取り出し、情報と情報との関係を捉える学習活動を設定している。さらに、付録「言葉のまとめ」と連携し、情報の扱い方をまとめることができるようになっている。 |
| <p>光 村</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○単元の扉のページに学びの着眼点を示し、これまでの学習の振り返りが分かるようになっており、既習事項の確認ができる。 ○単元末のページでは、学習の見通しがもてるように学習過程と活動が書かれている。 ○単元末の「見通しをもとう」では、知識・技能、思考・判断・表現の2つの観点がかかっている。また、振り返りで2つの観点に加えて主体的な学びの態度についての観点でも書かれている。 ○二学年以上の全学年に「季節の言葉」を配置している。また、説明的文章の活動や話題としても、日本文化や郷土に関することを取り上げている。 (3年・6年) ○「情報の扱い方」に特化した「情報教材」を系統化しており、巻頭に、分類や比較など、思考の手がかりがかかっている。また、引用や情報収集、様々な本での調べ方について説明しているページがある。付録には、自分の考えを論理的に表現するための手立てとして思考ツールが示されている。 |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ⑤ 問題解決的な学習を実施するための工夫
- ⑥ 興味・関心を高めるための工夫
- ⑦ 自ら学び、自ら考える力の育成を図る工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元全体の中心的な課題となる「単元の問い」を提示し、解決に取り組む課題を明確にし、思考・判断を促す発問や「言葉の力の問い」を設置し、児童が課題意識をもって取り組めるようになっている。 ○ 1年生の入門期では、絵本を意識したカラフルなページになっており、無理なく教科書を楽しむことができる工夫がある。 ○ 単元の導入では、既習事項や日常の言語生活とつなげられるように、キャラクターの話し合いを参照しながら、自分たちの話し合いや学習をよりよいものにするためにはどうすればよいか等を考えられるようになっている。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「読むこと」の手引きでは、全体から部分へと学習を進めていけるように学習過程の構造化を図っている。 ○ 「言葉をつないで文を作ろう」や「言葉で遊ぼう」では、学年で習った漢字を使って作文をしたり、分類したりして楽しみながら語彙を深めることができるようになっている。 ○ 各学年に「読書に親しもう」というページがあり、絵を見てみんなで語り合ったり、物事を分析的にとらえたりすることのできる言語活動が設定されている。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「確かめよう」「考えよう」「深めよう」と学習過程を明確にし「ここが大事」で、単元目標の達成のポイントが示されている。 ○ 他社と比べると、色が鮮やかで写真も多い。キャラクターも多く登場する。 ○ 単元末では、深い学びにつながるように、キャラクターの会話から課題を見つけ、どのように解決していけばよいかの道筋が書かれている。 |
| 光村 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の見開きのページで既習事項の確認ができる。また、学習過程が示され、「たいせつ」「いかそう」で、他単元や他教科、日常生活に生かせるような問いがある。 ○ 池上彰さんや森絵都さんなど、多彩な著者による作品が充実している。 ○ 上巻巻頭に、「言葉の準備運動」が設置されており、心と体の緊張を解きほぐす教材となっている。 ○ 「読むこと」の単元の扉では、内容を予感させるリード文があり、「これまでの学習」において、既習の学習が確認できるようになっている。そのため、児童はつけたい力を意識しながら新しい学習に臨むことができる。また、「書くこと」の単元では、簡単な単元計画が示され、学びのゴールが明確になっている。 |

(3) 内容の構成・配列・分量

⑧ 単元・題材や資料等の配列

⑨ 単元・題材ごとの分量

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <p>○各学年共，ほぼ同時期に同領域の単元が配置されている。</p> <p>○第5・6学年においては，上下が1冊になっている。</p> <p>○ローマ字の指導については，第3学年上（6ページ）と下（2ページ）で扱っている。</p> <p>○全学年で上の教科書「読むこと」の指導の例にノートの書き方を示している。</p> |
| 学図 | <p>○各学年共，ほぼ同時期に同領域の単元が配置されている。</p> <p>○全学年上下巻の2冊になっている。</p> <p>○ローマ字の指導については，第3学年上（4ページ）と下（2ページ）で記載されている。</p> <p>○「読むこと」の単元に言語活動を行う上で大切なヒントが書かれている。</p> <p>○説明文の単元で写真等の資料が多い。（第3学年上の説明文の単元において他社より3つ多い。）</p> |
| 教出 | <p>○各学年共，ほぼ同時期に同領域の単元が配置されている。</p> <p>○全学年上下巻の2冊になっている。</p> <p>○ローマ字の指導については，第3学年上（6ページ）で扱っている。</p> <p>○第3学年で初めて説明文を学習する単元において，はじめに練習部分が記載されている。</p> <p>●説明文の単元数が他社より1単元少ない学年がある（第3学年）。</p> |
| 光村 | <p>○各学年共，ほぼ同時期に同領域の単元が配置されている。</p> <p>○第5・6学年においては，上下が1冊になっている。</p> <p>○ローマ字の指導については，第3学年上（5ページ）で扱っている。</p> <p>○「読むこと」の単元の中に「見通しをもとう」のコーナーがあり，どのように学習していくか明確に示されている。</p> <p>○第3学年で初めて説明文を学習する単元において，はじめに練習部分が記載されている。</p> |

(4) 内容の表現・表記

⑩言語活動の内容

⑪巻末資料の示し方

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <p>○巻末の「言葉の広場」において話す時や文を書く時に使う言葉がまとめられている。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の単元において感想や意見を述べあったり、自分の考えを書いたりする活動が設定されている。</p> |
| 学図 | <p>○巻末の「国語のカギ」で学習する際に大切な事柄についてまとめられている。</p> <p>○第2学年「知らせたいことをはがきに書こう」、第3学年「あんないじょうを書こう」、第4学年「お礼状を書こう」、第5学年「手紙の書き方」第6学年「電子メールで質問しよう」等、相手や目的を意識した言語活動の内容の統一が図られている。</p> |
| 教出 | <p>○巻末に学習する際に必要な手立てについての記載が各学年共見られる。</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の単元において意見を述べあったり説明する文章を書いたりする等、言語活動の設定がされている。</p> <p>○巻末の資料、内容が多い。</p> <p>●取り上げられている言葉の数が少ない。</p> |
| 光村 | <p>○巻末に「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの学習の進め方がまとめられている。</p> <p>○「読むこと」の単元において自分の生き方を考えさせたり感想を述べあったりする等、また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元においても文章を利用して書く等、言語活動の設定がされている。</p> |

(5) 言語活動の充実

⑫ 発展的な学習の扱い方

⑬ 学校図書館機能の活用

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <p>○身に付けたい言葉の力に即した言語活動を設定している。</p> <p>○全学年に学校図書館機能の活用に関する単元がある。</p> <p>○「こんな本も一緒に」を随所に設け、本に親しむ習慣・態度を育めるようになっている。</p> <p>●「○年生の本棚」紹介されている図書には、本の内容についての説明が書かれているが、単元ごとに紹介されている図書は題名だけである。</p> |
| 学図 | <p>○読みもの単元のあとに関連した言語活動の単元を設けている。</p> <p>○学習の手引きや国語のカギで、言語活動を進めるヒントをまとめている。</p> <p>○全学年に学校図書館機能の活用に関する単元がある。</p> <p>○全学年に「読書の部屋」で図書の紹介をしている。</p> <p>●「読書の部屋」で紹介されている図書には本の内容についての説明が書かれているが、単元ごとに紹介されている図書は、題名だけである。</p> |
| 教出 | <p>○読むことの単元ごとに、「広げよう」で言語活動が行えるようになっている。また、読みもの単元のあとに関連した言語活動の単元を設けてある部分がある。</p> <p>○全学年、発展的に学習できるような付録がのせてある。</p> <p>●学校図書館機能の活用に関する単元のない学年がある。(5, 6年)</p> <p>○全学年、単元末に付録「本を読もう」で多くの本を紹介している。</p> <p>○「○年生で読みたい本」で紹介されている図書にも、単元ごとに紹介されている図書にも、本の内容についての説明が書かれている。</p> |
| 光村 | <p>○国語で学習したことを他教科や日常生活の場面と結び付けて発展的に学習していくことができる構成になっている。</p> <p>○「読むこと」と「書くこと」を複合的に扱った単元があり、単元を貫いた言語活動ができるようになっている。</p> <p>○全学年に学校図書館機能の活用に関する単元がある。</p> <p>○「読むこと」の単元末や巻末に本の紹介をしている。</p> <p>●付録「本の世界で広げよう」「この本読もう」で紹介されている図書には本の内容についての説明が書かれているが、単元ごとに紹介されている図書には、題名だけで本の内容についての説明が書かれていない学年がある。(1, 2年)</p> |

種 目 名 (書 写)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 単元・題材の目標の示し方
- ② 伝統と文化に関する内容の記述

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ③ 興味・関心を高めるための工夫
- ④ 自ら学び、自ら考える力の育成を図る工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

- ⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

(4) 内容の表現・表記

- ⑥ 巻頭・巻末資料の示し方

(5) 言語活動の充実

- ⑦ 発展的な学習の扱い方

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

① 単元・題材の目標の示し方

② 伝統と文化に関する内容の記述

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元や題材の目標を示している。 ○ 「見つけよう」→「確かめよう」→「生かそう」の「生かそう」が目標にあたるようになっている。 ○ 「見つけよう」の問いかけが具体的である。 ○ 必要な知識・技能を「書写のかぎ」とし、巻末には下学年までの「書写のかぎ」が掲載されている。 ○ 書くための用具に関するコラムがある。 ○ 全学年、文字に関する知識や古典作品のなぞり書き教材「書いて味わおう」がある。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元や題材の目標を示している。 ○ 題材の目標を「鉛筆マーク」で示している。 ○ 書けるようになるための見方・考え方を「書き方のカギ」として示している。 ○ 伝統的な硯・筆などの製造工程を解説したコラムがある。 ○ 3年以上に、童謡・短歌・俳句等の古典が題材としてある。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元や題材の目標を示している。 ○ 題材の目標を「めあて」として示している。 ○ 3年生以上は、学習のポイントを「ここが大切」として示している。6年生の巻末には、「六年間で学習したこと」のまとめがある。 ○ 2年以上に、昔話・短歌・俳句・古文等の古典が題材としてある。 ○ 全学年「知りたい文字の世界」として文字の成り立ち等のコラムがある。 |
| 光村 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元や題材の目標を示している。 ○ 学習のポイントを「たいせつ」として示している。巻末にも「たいせつ」のまとめがある。 ● マーク等がなく、「めあて」がやや分かりづらい。 ○ 1年は教科書教材、2年以上にいろは歌・短歌・俳句などのなぞり書き教材「言葉を楽しもう」を位置づけている。 ○ 漢字の成り立ちを「漢字図鑑」としてコラムで掲載している。 |
| 日文 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元や題材の目標を示している。 ○ 題材の目標は、ページの最初に「マーク」で示している。 ○ 「考える」→「たしかめる」→「いかす」の段階を踏みながら学習できるようにしている。 ○ 「考える」の問いかけが具体的である。 ○ 3年以上に、短歌・俳句・古文等の古典が題材としてある。 ○ 5・6年には、「平仮名のもとになった漢字」や「平仮名と片仮名ができるまで」を表したコラムがある。 |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

③興味・関心を高めるための工夫

④自ら学び、自ら考える力の育成を図る工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none">○デジタルコンテンツにより、インターネットを使用した映像やアニメーションなどを見ることができる。○点画の書き方の特徴をキャラクターの動きや擬態語を使って理解できるようにしている。○穂先が筆の顔や言葉で書いてあり、筆づかいが分かりやすくなっている。○「文字のいずみ」として、書写に興味・関心をもつことができるコラムがある。○水筆用紙1・2年がある。○3年以上には、学習要素を分類してインデックスに示し、児童自身が系統性を意識した学習ができるようになっている。○教材ごとに「見つけよう」→「確かめよう」→「生かそう」という学習過程を提示し、「書写のかぎ」を生かして学べるようにしている。○関連した「書写のかぎ」を参照できるようにページ数が示されている。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none">○「えんぴつ先生」「ふでじい先生」や子供のキャラクターを登場させ、児童の立場からの疑問や気付きなどを示し、親しみやすくしている。○「二次元コード」による動画資料を見ることができる。●キャラクターがやや目立ち過ぎている。●水筆用紙がない。○見通しをもって学習できるよう4ページを使い「学習の進め方」が示されている。○教材ごとに「たしかめて書こう」→「考えて書こう」→「生かして書こう」という学習過程を示している。○「ふり返り」では、実際に学習したことを生かして硬筆で書いて確かめられるようになっている。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none">○あいことばを使って、効率のよい鉛筆の持ち方を示している。○イラストや「とん・すうっ・びた」などの共通した音声を使って、運筆をイメージしやすくしている。○学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。○水筆用紙1年がある。○全学年に「学習の進め方」がある。活動写真も掲載されていて、イメージしやすい。「学習の進め方」に「見つける・比べる」→「書く・たしかめる」→「ふり返る・伝え合う」→「広げる」の学習過程が示されている。○「試し書き」と「まとめ書き」を書き込む欄があり、自分の学びを確認できるようになっている。 |

| | |
|----------------|---|
| <p>光 村</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○キャラクター（ねこ）の動きや擬態語・擬音語を活用して、直感的に筆づかいを理解できるようにしている。 ○「二次元コード」による動画資料を見ることができる。 ○「たしかめようシール」をつけて自己評価や相互評価に活用できるようにしている。 ○「もっと知りたい」として、書写に興味・関心をもつことができるコラムがある。 ○水筆用紙1年がある。 ○3年以上の巻頭に「学習の進め方」がある。 ○教材ごとに「考えよう」→「たしかめよう」→「生かそう」の学習過程が示されている。 ○6年生に1年生から6年生までに学習した内容をまとめた「書写ブック」が綴じてある。 |
| <p>日 文</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○穂先の向きや動きなどが筆の顔の表情や言葉で表現しており、筆づかいが分かりやすくなっている。 ○キャラクターの発言が、子どもたちの気付きを促すようになっている。 ○デジタルコンテンツによる動画資料を見ることができる。 ○水書きシート1・2年がある。 ○巻頭に「教科書の使い方」や「書写学習の進め方」がある。 ○教材ごとに「考える」→「たしかめる」→「いかす」の段階を踏みながら学習できるようにしている。 ○学年のまとめでは、今まで学習した内容が題材とともに示されていて、立ち返られるようにページ数が示されている。 ○自分の文字の課題を知るための「自分の文字と向き合って」のページがある。（5年・6年） |

(3) 内容の構成・配列・分量

⑤ 単元・題材や資料等の配列・分量

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ページ数 45～57 ページ。 ・ 毛筆教材数 4・5・6年9, 3年10 ・ 硬筆教材数 3～15, 硬筆記入欄 8～27 ページ ・ 5・6年に小筆教材あり。4年組み立て方「土地」「竹笛」 ○ワイドな紙面 (横長) |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ページ数 47～59 ページ。 ・ 毛筆教材数 6年5, 4・5年6, 3年7 ・ 硬筆教材数 10～14, 硬筆記入欄 13～26 ページ ● 3～6年の硬筆教材がない。 ・ 3年にカタカナ「ビル」あり。4年組み立て方「明星」 ● 1ページあたりの情報量が多い。 ○学習したことを生かす場として、硬筆書き込み欄が充実。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ページ数 41～61 ページ。 ・ 毛筆教材数 6年7, 5年9, 4年10, 3年9 ・ 硬筆教材数 2～19, 硬筆記入欄 2～11 ページ ・ 6年に小筆教材あり。4年文字の組み立て方「林」「笛」→選択制「土地」「岩山」 ○毛筆の学習の後「硬筆の学習」として1ページある。 ●手本がやや小さい。 |
| 光村 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ページ数 41～57 ページ。 ・ 毛筆教材数 6年11, 5年9, 3・4年10 ・ 硬筆教材数 2～20, 硬筆記入欄 8～21 ページ ・ 6年に小筆教材あり。4年組み立て方「林」「原」「雲」 ○書き初めやまとめ教材に選択数が多い。(長半紙用と半紙用両方あり) ●硬筆書き込み欄が数教材まとめて1ページとなっている。 |
| 日文 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ページ数 40～56 ページ。 ・ 毛筆教材数 6年10, 3～5年11 ・ 硬筆教材数 5～20, 硬筆記入欄 2～16 ページ ・ 6年に小筆教材あり。3年にカタカナ「ビル」あり。4年組み立て方「土地」「竹笛」 ●硬筆記入欄のなぞる字が濃い。 |

(5) 内容の表現・表記

⑥ 巻頭・巻末資料の示し方

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <p>○巻頭の「書写の学び方」は、学習の流れが円上に書かれており、何を学ぶか、どのように学ぶかをサイクル状に示すことで、ひと目で学習過程がわかるよう工夫がされている。</p> <p>○目次と合わせて、1年間の学びを見通すイラストマップが書かれている。</p> <p>○左手で鉛筆を持つ写真や、「えんぴつをもたないほうの手で、紙をおさえよう。」という記述があることなど、左利きの児童への配慮がある。</p> <p>○文字を書く姿勢の写真が大きい。姿勢の合言葉が大きく、色や書体を変えてわかりやすく示されている。</p> <p>○1, 2年生の巻末に水書用紙が付属している。</p> |
| 学図 | <p>○前学年の学習内容の復習後に「学習の進め方」が、4ページに渡って示されている。書写学習プロセスについて、児童の立場からの気付きが詳しい解説を交えながら示されている。</p> <p>○正しい姿勢や筆記具の持ち方を写真とイラストを用いて解説している。</p> <p>○硬筆・毛筆共に同一の書き手の文字であり、統一性がある。</p> <p>●姿勢見本の写真がやや小さく、扱っている児童の写真が1, 3, 5年は男児, 2, 4, 6年は女児となっている。</p> <p>●水書用紙は添付されていない。</p> |
| 教出 | <p>○巻頭に「学習の進め方」が、子どもの書字例や活動写真例と共に簡潔な表現で示されている。</p> <p>○「字を書く姿勢」について写真を用いて要点をまとめている。</p> <p>○小筆の持ち方と鉛筆の持ち方が写真と解説入りで比較されている。</p> <p>○1年生の巻末に水書用紙が付属している。</p> <p>●写真がやや小さい。</p> |
| 光村 | <p>○巻頭に「学習の進め方」を設け、書写の時間に「何を、どう学ぶか」がひと目でわかるように写真と簡潔な説明で示されている。</p> <p>○「字を書く姿勢」は、見開きで大きく示され、正しい姿勢や鉛筆や毛筆の正しい動かし方が確認できるようになっている。</p> <p>○1年生の巻末に水書用紙が付属している。</p> |
| 日文 | <p>○巻頭の「書写学習の進め方」は、学年に応じた示し方がされている。</p> <p>○「書く姿勢」の写真が大きく掲載され、説明も大きい字で簡潔に書かれている。</p> <p>○1, 2年生の巻末に水書用紙が付属している。</p> <p>○書き込み欄を手本文字の下に配置することで、右利きでも左利きでも、手本を見ながら視写することができるレイアウトになっている。</p> |

(6) 言語活動の充実

⑦ 発展的な学習の扱い方

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○国語の教科書に掲載されている文章を取り上げて、書写の学びを国語科の中でも生かせるように工夫されている。 ○国語や他教科の学習、生活の中で扱う書式や内容に関連した題材を年間3か所設定し、ノートや新聞、手紙の書き方など国語と連動させた言語活動を取り上げて、生活に活用できるようにしている。 ○友達や先生との対話を通して深まりのある評価（振り返り）ができるように導いている。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○資料として、手紙やはがきの書き方、ローマ字表など、実用性の高いものをまとめ、相手や目的を意識して書くことに留意することができる。 ○友達やグループで筆使いや組み立て方などについて話し合ったり、意見交換したりして自らの課題と解決方法を発見・理解して練習できる。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ○全学年に手紙やはがきの書き方を収録することで、学年の発達段階にふさわしい伝える力を育むことができる。 ○友達と伝え合う活動のために必要な語彙が言葉の例として豊富に掲載されており、比較したり活用したりする活動を支える学習材となっている。 ○国語科で学習した文学教材を視写することで内容をより深く味わうとともに、豊かな言語感覚を養うことができる。 ○身につけた書写力が、学校生活や学習活動の「どの場面」で生かせるのかがすぐにわかるように構成されている。 |
| 光村 | <ul style="list-style-type: none"> ○なぞり書きや空書きなど、体感を通して理解を深める教材を積極的に取り入れ、キャラクターの動きや擬態語・擬音語を活用して直感的に筆使いを理解できる。 ○観察や比較を通して、児童が主体的に対話し、学習が深められるような活動が積極的に取り入れられている。 ○国語の教科書に掲載された物語や短歌・俳句のなぞり書き教材を全学年に位置付けている。 ○各学年に国語との関連教材を2か所以上設け、言語活動を通して、日常生活に生きて働く書写の知識・技能を習得できるよう工夫されている。 |

種 目 名 (社 会)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 単元・題材の目標の示し方
- ② 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
- ③ 現代社会，地域社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能，思考力・判断力・表現力を身に付けさせるための工夫

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ④ 興味・関心を高めるための工夫
- ⑤ 問題解決的な学習及び作業的・体験的な学習を実施するための工夫
- ⑥ 見通しを立てたり振り返ったりするなど，自ら学び，自ら考える力を育むための学習の構成上の工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

- ⑦ 単元・題材や資料等の配列
- ⑧ 単元・題材ごとの分量や問題数

(4) 内容の表現・表記

- ⑨ 本文以外の記述の工夫

(5) 言語活動の充実

- ⑩ 話し合いや考えを深めるための資料の活用
- ⑪ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

① 単元・題材の目標の示し方

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <p>○見開きごとに、冒頭に「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習過程と本時の目標に関する学習問題を併せて示している。</p> <p>●めあての語尾が、「～でしょうか。」「～ましょう。」と統一されていない。</p> <p>○大單元では「めあて」として目標をカラー枠囲みで表示していて分かりやすい。</p> |
| 教出 | <p>○本単元の間いを「みんなでつくった学習問題」として示している。</p> <p>○各単位時間ごとに、「この時間の間い」として見開き左ページ下に示し、「次につなげよう」で、次時の「この時間の間い」につなげるようにしている。</p> <p>●単元の目標、めあてが明記されていない。</p> |
| 日文 | <p>○見開きごとに、本文の初めに、どのような学習活動をするかが書かれ授業の流れをつかむようにしている。</p> <p>●單元名に統一感は見られない。</p> <p>○「わたしたちの学びを生かそう」では、漫画を使ったり資料を提示したりして、興味関心を高めてより深く学習内容を調べたり考えたりしていけるようになっている。</p> |

(1) 基礎・基本の定着

②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---|--------|---------------|------|-------------|------|----|------|------------|------|----|--------|---------------|-----|-----|------|--|-----|----|--|--|
| 東書 | <p>○領土について「多くの島からなる日本」で取り上げ、「領土をめぐる問題」として見開きで、上巻 p12~15 に渡って本文・地図・写真で取り扱っている。</p> <p>p12~13 写真：与那国島 最西端碑，沖ノ島島 俯瞰写真・コンクリートブロック防波，択捉島 散布山，南鳥島 俯瞰写真</p> <p>地図：領土・排他的経済水域</p> <p>p14~15</p> <table border="0"> <tr> <td>竹島</td> <td>写真</td> <td>周辺地図</td> <td>日本は抗議を続けている</td> </tr> <tr> <td>尖閣諸島</td> <td>写真</td> <td>周辺地図</td> <td>領土問題は存在しない</td> </tr> <tr> <td>歯舞諸島</td> <td>写真</td> <td>北方領土地図</td> <td>日本政府は交渉を続けている</td> </tr> <tr> <td>西之島</td> <td>コラム</td> <td>写真あり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ことば</td> <td>領土</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | 竹島 | 写真 | 周辺地図 | 日本は抗議を続けている | 尖閣諸島 | 写真 | 周辺地図 | 領土問題は存在しない | 歯舞諸島 | 写真 | 北方領土地図 | 日本政府は交渉を続けている | 西之島 | コラム | 写真あり | | ことば | 領土 | | |
| 竹島 | 写真 | 周辺地図 | 日本は抗議を続けている | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 尖閣諸島 | 写真 | 周辺地図 | 領土問題は存在しない | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 歯舞諸島 | 写真 | 北方領土地図 | 日本政府は交渉を続けている | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 西之島 | コラム | 写真あり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ことば | 領土 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|----------------|---|
| <p>教出</p> | <p>○領土について「日本の国土はどこまで？」で取り上げ、「領土をめぐる問題」として見開きで、上巻 p12～15 に渡って本文・地図・写真で取り扱っている。 p 12～13 領土・排他的経済水域地図 日米中の領土と排他的経済水域の比較表 北方領土 択捉・国後写真 日本は1日も早い返還を求め続けている 竹島 写真 韓国が不法な占拠を続けている 尖閣諸島 写真 領土問題はないというのが日本の立場 写真キャプションで「日本固有の領土」の表記 コラム 沖ノ鳥島 写真 船着き場工事の様子 対馬 写真 マグロ水揚げ キーワード 領土 p 16 日本固有の領土、竹島と尖閣諸島 両島の周辺地図 海上保安庁の警戒と取り締まりの強化 写真 海上保安庁の訓練の様子</p> |
| <p>日 文</p> | <p>○領土について「日本の位置とはんい」で取り上げ、「日本の領土をめぐる、どのような問題があるのだろうか？」と学習課題を提示し、p14～17 に渡って本文・地図・写真で取り扱っている。 ●領土に準ずる排他的経済水域がつかめず、領土問題がつかみにくい。 p 14～15 写真：与那国島 最西端碑、沖ノ鳥島 俯瞰写真 択捉島 ロシア住宅、南鳥島 俯瞰写真 領土地図 キーワード 領土 p 16 竹島 写真 周辺地図 韓国にくり返し抗議を続けている 尖閣諸島 写真 周辺地図 領土問題はないにも関わらず中国が自国の領土であると主張 北方領土地図 ロシアにはたらきかけ、話し合いを続けている これらの島々が1日も早く帰って来ることを願っている</p> |

(1) 基礎・基本の定着

③現代社会，地域社会で主体的に生きていくための基礎となる知識・技能，思考力・判断力・表現力を身に付けさせる工夫

| 新編 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|----|---|
| 東書 | <p>○「まとめる」場面では，かべ新聞にまとめる，関係図にまとめる，年表にまとめる，表にまとめて話し合うなどの表現活動を提示している。</p> <p>6年歴史編（歴史上の人物の取り扱い）</p> <p>○学習指導要領に示されている42名全員を取り上げている。</p> <p>○卑弥呼，小野妹子，中大兄皇子，中臣鎌足以外は肖像画か像の写真が紹介されている。</p> <p>○42名以外に掲載されている人物名 20名 棚田嘉十郎，北条政子，竹崎季長，シャクシャイン，前野良沢，大塩平八郎，坂本竜馬，津田梅子，与謝野晶子，夏目漱石，樋口一葉，新渡戸稲造，田中正造，平塚らいてう，市川房枝，山田少年，高木兼寛，ナイチンゲール，昭和天皇，大隅良典</p> |
| 教出 | <p>○「社会的な見方・考え方」を子どもの問いや発言のかたちで例示したコーナーを設け，意識して学習を進められるようにしている。</p> <p>○問題を解決していくうえで必要な学習技能を「学びのてびき」で紹介している。</p> <p>6年（歴史上の人物の取り扱い）</p> <p>○学習指導要領に示されている42名全員を取り上げている。</p> <p>○卑弥呼，小野妹子，中大兄皇子，中臣鎌足，紫式部，清少納言，北条時宗，明治天皇，東郷平八郎以外は，肖像画か像の写真が紹介されている。</p> <p>○42名以外に掲載されている人物名 28名 北条政子，竹崎季長，伊東マンショ，シャクシャイン，松尾芭蕉，大塩平八郎，徳川吉宗，坂本竜馬，青木昆陽，山口尚芳，岩倉具視，津田梅子，渋沢栄一，楠瀬喜多，与謝野晶子，田中正造，北里柴三郎，志賀潔，新渡戸稲造，山田孝野次郎，平塚らいてう，後藤新平，石川倉次，南方熊楠，杉原千畝，オバマ大統領，湯川秀樹，山中伸弥</p> |
| 日文 | <p>○「わたしたちの問題」「学習問題」「さらに考えたい問題」を設定し，問題を追究する中でより問題意識を発展させていくようにしている。</p> <p>○「キーワード」「やってみよう」「学び方・調べ方」等のコーナーで，基礎的・基本的な知識や観察・資料活用力を育成するための学習技能を提示している。</p> <p>6年（歴史上の人物の取り扱い）</p> <p>○学習指導要領に示されている42名全員を取り上げている。</p> <p>○小野妹子，中大兄皇子，中臣鎌足，東郷平八郎以外は，肖像画か像の写真が紹介されている。</p> <p>○42名以外に掲載されている人物名 21名 阿倍仲麻呂，菅原道真，北条政子，竹崎季長，シャクシャイン，雨森芳洲，前野良沢，大塩平八郎，岩倉具視，坂本竜馬，徳川慶喜，山口尚芳，与謝野晶子，田中正造，北里柴三郎，津田梅子，平塚らいてう，山田孝野次郎，斎藤隆夫，マッカーサー，山中伸弥</p> |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

④興味・関心を高めるための工夫

| 発行者 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-----|--|
| 東書 | <p>○キャラクターたちは、資料の説明やポイントを吹き出しの中で、話し言葉で述べている。親しみをもって学習に臨める。</p> <p>○「ひろげる」や「いかす」のページでより興味関心に応じて、発展や補充ができるようになっている。</p> <p>○D マークのある教材から、QR コードかアドレスを使ってインターネットを使った学習をすることができる。</p> |
| 教出 | <p>○「まなびリンク」ウェブサイトで情報が得られることを紹介している。</p> <p>○興味や関心に応じて活用する「ひろげる」コーナーでは、地図や地図記号に関する知識を広げたり理解を深めたりするようにしている。</p> |
| 日文 | <p>○デジタルマークで、ウェブページのデジタル資料を使用できる教材を示し、学習をより深めていくことができるようになっている。</p> <p>○キャラクターたちは、資料の説明やポイントを吹き出しの中で、話し言葉で述べている。</p> <p>●p90～91実際に起こった火事や交通事故の写真を掲載している。目に留まりやすいが、心理的な負担が気になる。</p> |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

⑤問題解決的な学習及び作業的・体験的な学習を実施するための工夫

| 発行者 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-----|--|
| 東書 | <p>○主体的・対話的で深い学びを進めることができるように問題解決的な学習の充実を図っている。</p> <p>「まとめる」…学習したことを振り返り、最後に自分の考えを書く活動を位置づけている。→表にまとめ意見文を書く、かべ新聞にまとめる など</p> <p>○「まなび方コーナー」で「見る・聞く・ふれる」「読み取る」「表す・伝える」など学習場面に応じた学び方を示している。</p> <p>●形式を丁寧に示しているがゆえに、それをこなしていく授業形態に陥って主体的な学びにつながらない可能性がある。</p> |

| | |
|----|--|
| 教出 | <p>○小単元の末尾「まとめる」では調べたことを整理し、対話的な学習を通して定着を図り深い学びにつながるようにしている。 →調べて書いたふせんを地図にはり、それをもとに表に整理する など</p> <p>○資料活用をつけるための「学びのてびき」として「集める」「読み取る」「表す」の項目で場面に応じた学習方法を示している。</p> <p>●形式を丁寧に示しているがゆえに、それをこなしていく授業形態に陥って主体的な学びにつながらない可能性がある。</p> |
| 日文 | <p>○見方・考え方コーナーで、どの視点で思考すれば課題が解決できるか博士マークで示している。</p> <p>○「学び方・調べ方コーナー」で、「見る・調べる」「読み取る」「表現する」の項目で場面に応じた学習方法を示している。</p> <p>●ふり返りが話し合い中心でバリエーションが少ない。</p> |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

⑥見通しを立てたり振り返ったりするなど、自ら学び、自ら考える力を育むための学習の構成上の工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 東書 | <p>○巻末に「どのように学んだか振り返ろう」を設け、どのような方法を用いて学習したか振り返るようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比べて考える ・関係をさがす ・比べて考える ・関連づける ・総合する <p>●「まとめる」では、まとめ方の示唆が掲載されている。書き込む枠はあるが、色付の紙面は使用しにくさがある。</p> |
| 教出 | <p>○巻末では、各学年の学習内容や学習過程、「社会科の見方・考え方」について振り返るようにしている。</p> |
| 日文 | <p>○ふり返りシートは、教科書に直接書き込める程度の面積を確保してあって、使いやすい。</p> <p>●巻末に3年生の学習の振り返りが無い。</p> |

(3) 内容の構成・配列・分量

⑦ 単元・題材や資料等の配列

| 発行名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-----|---|
| 東書 | <p>5年上 上巻のページ数126ページ ・わたしたちの国土58ページ <地域事例> 6 岐阜, 群馬, 長野, 沖縄, 北海道, 秋田 ・わたしたちの生活と食料生産58ページ <地域事例> 6 山形, 長崎, 福井, 茨城, 福島, 鹿児島</p> <p>5年下 下巻のページ数164ページ ・わたしたちの生活と工業生産54ページ ・情報化した社会と産業の発展42ページ ・わたしたちの生活と環境42ページ</p> <p>6年 (歴史編) 歴史編のページ数: 158 ページ ・原始・古代～近世: 100 ページ ・近代～現代: 58 ページ</p> <p>6年 (政治・国際編) 政治国際編のページ数: 114 ページ ・わたしたちの生活と政治: 56 ページ ・世界の中の日本: 48 ページ</p> |
| 教出 | <p>5年 ・日本の国土とわたしたちの暮らし54ページ <地域事例> ※△は選択と表示されている地域 沖縄, 長野, △北海道, △千葉, ・未来を支える食料生産62ページ <地域事例> ※△は選択と表示されている地域 新潟, 北海道, 鹿児島, △徳島, △高知, △岩手, △山梨, △熊本, 宮城, 兵庫, 大阪 ・未来をつくり出す工業生産52ページ ○地域の郷土料理について記載されている。 <地域事例> 福岡, 東京都 (大田区) 大阪, 岩手 ・未来とつながる情報32ページ <地域事例> 福岡, 熊本, 佐賀 ○災害地域と日本地図を関連づけて表記している。 ・国土の自然とともに生きる42ページ <地域事例> 岩手, 高知県土佐町, 北九州市 ○日本にある世界遺産の地図を最後に付け加えている。</p> <p>6年 政治・国際分野のページ数 100 ページ</p> |

| | |
|--------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ともに生きる暮らしと政治：58 ページ ・世界の中の日本：42 ページ <p>歴史分野のページ数：168 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原始・古代～近世：102 ページ ・近代～現代：66 ページ |
| 日 文 | <p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の国土と人々の暮らし60ページ ○日本の火山と災害を関連づけた表記がある。 ○つゆと台風と災害を関連づけた表記がある。 <p><地域事例></p> <p>海津市，群馬県嬭恋村，沖縄，北海道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの食生活を支える食料生産66ページ <p><地域事例></p> <p>鶴岡市，都城市，有田市，銚子市，安芸市，山形県庄内平野，佐賀，えびの市，</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本の伝統的な食文化，和食についての記載がある。 ・工業生産とわたしたちの暮らし56ページ ○食料品工業についての選択単元がある。 <p><地域事例></p> <p>鈴鹿市，たつの市，君津市，知多市，神戸市，東大阪市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報社会に生きるわたしたち48ページ <p><地域事例></p> <p>福岡市，豊岡市，久留米市</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土の環境を守る44ページ <p><地域事例></p> <p>四日市市，大和川（奈良県・大阪府），狭山丘陵（埼玉県・東京都），東京都多摩地区，小笠原諸島，神奈川県小田原市</p> <p>6年</p> <p>政治・国際分野のページ数：82 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わが国の政治のはたらき：44 ページ ・世界のなかの日本とわたしたち：38 ページ <p>歴史分野のページ数：180 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原始・古代～近世：110 ページ ・近代～現代：70 ページ |

(3) 内容の構成・配列・分量

⑧ 単元・題材ごとの分量や問題数

| 発行者 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|--------|---|
| 東 書 | <p>6年（歴史編）</p> <p>「学び方コーナー」が13か所ある。</p> <p>（「見る・聞く・ふれる」3 「読み取る」7 「表す・伝える」3）</p> <p>○「ことば」が52カ所ある。</p> <p>6年（政治・国際編）</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>○「まなび方コーナー」が7か所ある。 （「見る・聞く・ふれる」1 「読み取る」3 「表す・伝える」3）</p> <p>○「ことば」が31カ所ある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちのくらしと日本国憲法（16） ・国の政治のしくみと選挙（10） ・子育て支援の願いを実現する政治（選択）（12） ・震災復興の願いを実現する政治（選択）（18） ・日本とつながりの深い国々（34）（アメリカ6 中国6 韓国6 サウジアラビア6 ひろげる ブラジル1・インド1） ・世界の未来と日本の役割（12） |
| 教出 | <p>6年歴史分野 「学びのてびき」が16か所ある。 （「集める」4 「読み取る」10 「表す」2） 「キーワード」が42カ所ある。</p> <p>6年政治・国際分野</p> <p>○「学びのてびき」が6か所ある。（「集める」4 「読み取る」1 「表す」1）</p> <p>○「キーワード」が18カ所ある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法とわたしたちの暮らし（22） ・わたしたちの暮らしを支える政治（16） ・災害からわたしたちを守る政治（選択）（6） ・雪とともに生きる暮らしを支える政治（選択）（5） ・日本とつながりの深い国々（24）（アメリカ4 中国4 ブラジル4 サウジアラビア4 ひろげる 韓国2） ・地球規模の課題の解決と国際協力（14） |
| 日文 | <p>6年歴史分野</p> <p>○「学び方・調べ方コーナー」が2か所ある。 （「見る・調べる」1 「読み取る」1 「表現する」0）</p> <p>○「キーワードコーナー」が28カ所ある。</p> <p>6年政治・国際分野</p> <p>「学び方・調べ方コーナー」が7か所ある。 （「見る・調べる」3 「読み取る」3 「表現する」1）</p> <p>○「キーワードコーナー」が10カ所ある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法と政治のしくみ（20） ・わたしたちの願いと政治のはたらき（10） ・自然災害からの復旧や復興の取り組み（選択）（6） ・経験をむだにしないまちづくり（選択）（4） ・日本とつながりの深い国々（22）（アメリカ4 中国4 ブラジル4 さらに調べる 韓国2） ・国際連合と日本の役割（12） |

(4) 内容の表現・表記

⑨ 本文以外の記述の工夫

| 発行名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-----|--|
| 東書 | <p><u>トピックの記述の工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会科における具体的な学習活動の方法を記述した「まなび方コーナー」が掲載されている。〈見る・聞く・ふれる〉〈読み取る〉〈表す・つたえる〉 ○実際の授業での典型的な学習の流れが「まなびのポイント」として緑色の鳥のキャラクターとともに明示され、地域の実態を生かした学習指導に活用できるようになっている。 ○青いカナリアのイラストの付された囲みには、補助的な発問や指示、説明や既習内容の掲載ページが記述されている。 ○写真やイラスト等のキャプションの文頭に見開きごとの通し番号と矢印が挿入されている。 |
| 教出 | <p><u>トピックの記述の工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会科における問題解決に必要な技能を記述した「学びのてびき」が掲載されている。〈集める〉〈読み取る〉〈表す〉 ○実際の授業での典型的な学習活動が「活動」として記載され、地域の実態を生かした学習指導に活用できるようになっている。 ○写真やイラスト等のキャプションの文頭に見開きごとの通し番号と矢印が挿入されている。 |
| 日文 | <p><u>トピックの記述の工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会科における問題解決に必要な技能を記述した「学び方・調べ方コーナー」が掲載されている。 〈見る・調べる〉〈読み取る〉〈表現する〉 ○社会的事象の見方・考え方を示す「見方・考え方コーナー」が挿入されている。〈空間〉〈時間〉〈かんけい〉 ●実際の授業で行う学習活動や作業を促す「やってみよう」が記載されているが、ページ中段にあり、挿入頻度も低いので、必要な学習過程として認知されにくい。 ○写真やイラスト等のキャプションの文頭に見開きごとの通し番号が挿入されている。 |

(5) 言語活動の充実

⑩話し合いや考えを深めるための資料の活用

| 発行者 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-----|--|
| 東書 | ○「まなび方コーナー」に対話的・協働的な活動につながる具体的な手法や正しく情報得るための技法が例示されている。 |
| 教出 | ○「学びのてびき」にて、対話的な活動にするための具体的な技法が示されている。 ●調べたことを活用することが、例示されていない。 |
| 日文 | ○「学び方・調べ方コーナー」にて、対話的・協働的な活動につながる具体的な手法や正しく情報を得るための技法が例示されている。 |

(5) 言語活動の充実

⑪調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

| 発行者 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-----|---|
| 東書 | ○「まとめる」で調べた内容を多様な表現方法でまとめることが説明されている。 ○各学習内容の終わりに「まとめる」のページがあり、①地図にまとめる ②ノートにまとめる ③表 (キャッチコピー) にまとめる ④プレゼンテーションソフトを使ってまとめる ⑤話し合い→意見文にまとめる などの点から調べたことや考えたことを適切に表現するための方策が示されている。 |
| 教出 | ○単元末のページで、調べた内容のまとめ方の例示が掲載されている。 |
| 日文 | ○単元末のページで、調べた内容のまとめ方の例示が掲載されている。 |

種 目 名 (地 図)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 題材や活動の取り扱い，説明の示し方
- ② 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
- ③ 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能，表現力・思考力・判断力を身に付けさせるための工夫

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ④ 興味・関心を高めるための工夫
- ⑤ 自ら学び，自ら考える力を育むための学び方・調べ方の題材や手順の示し方

(3) 内容の構成・配列・分量

- ⑥ 単元・題材や資料等の配列

(4) 内容の表現・表記

- ⑦ 適切な関連付けがなされた図表の活用

(5) 言語活動の充実

- ⑧ 資料の活用や工夫
- ⑨ 調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

様式1-2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

① 題材や活動の取り扱い，説明の示し方

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 東書 | <p>○3年生の地図帳使用を想定したページには、「～しよう」という見出しが多い。</p> <p>●タイトルは、日本はオレンジ色をメインとしたカラーの四角枠内に、世界は青をメインとしたカラーの四角枠にそれぞれ記載されているが、ページごとの場所が違って探しにくい。</p> <p>○「日本の歴史 世界とのかかわり」では時代ごとの世界の地図をのせている。</p> <p>○「くらべてみよう日本と世界」で山・川・島・建物・気温・降水量などをイラスト入りで見ることができる。</p> <p>○「日本の貿易」で、貿易額や貿易品を円グラフやイラストで示していてわかりやすい。</p> <p>●巻頭の絵本的な世界地図に国名がのっていない。各国の特色だけイラストでのっているのが国名と結びつきにくい。</p> <p>●地図の地形の色分けの色が濃く、文字が読みにくい。</p> <p>○左ページにインデックスがある。地図学習、日本、世界、資料・統計、索引</p> <p>○縮尺の見方を（実際の距離の調べ方）各ページで示している。</p> |
| 帝国 | <p>○タイトルは、左上に統一されて記載され、探しやすい。</p> <p>○「地図のやくそく」、「地図の使い方」では、「～してみよう」、「～しよう」と、児童に訴えかける目標となっている。</p> <p>○「広く見わたす地図（3年生からの易しい地図）」と「くわしく見る地図（主に4年生から）」と発達段階に合わせて掲載している。</p> <p>○巻頭に「地図って何だろう」「地図のやくそく」「地図帳の使い方」を12ページにわたって丁寧に扱い、地図帳を使いこなす基礎力を育むようにしている。</p> <p>○学習上大切な地名は太く大きく示している。</p> <p>○日本の各地名には地名の種類がわかるように記号を付けている。</p> <p>○字が大きくて見やすい。</p> <p>○右ページにインデックスがある。地図のやくそく・地図帳の使い方、日本、世界、資料、索引、統計</p> <p>○縮尺の見方を（実際の距離の調べ方）各ページで示している。</p> |

(1) 基礎・基本の定着

② 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫

| 新着 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|----|---|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○「日本とそのまわり」では、地形図に排他的経済水域、東京からの距離を示す同心円を入れて国土の最端を示している。近隣諸国として、東南アジアはフィリピン、カンボジア、ラオス、ベトナムが挙げられている。 ○「日本とそのまわり」では、最端の4島の写真と説明がある。竹島と尖閣諸島は、地図内のみ記述 ○領土領空領海、排他的経済水域を立体的断面図で表示。大陸棚と排他的経済水域の関係が分かりやすい。 ○「日本の工業の分布」で、北九州工業地域と記載。 ○「日本の歴史」で、世界との関わりを時代ごとに年表で対応させ、歴史地図も掲載し、6年歴史学習に役立つよう配慮してある。 8世紀遣唐使 13世紀後半 元帝国 16世紀大航海時代 19世紀後半 黒船来航のころの世界 20世紀前半 昭和の初めごろの世界 明治初期の日本の領土 第二次世界大戦後の日本の領土 ○「日本の文化と歴史」では、旧国名、世界遺産の写真と場所、歴史的名所や祭りなどをイラストで記載。 ○京都、奈良は見開きで拡大地図を掲載し、歴史的建造物や名所をイラストで紹介。金閣・銀閣・東大寺大仏の写真を掲載。 ○自然と防災ページの具体的詳述・先人の津波石碑 ○主な歴史の舞台(青い枠囲み)世界遺産、ラムサール条約や世界ジオパークの登録地などを個別の記号で注目させている ○人々のくらしが読み取れるように、土地の高さによる色分けに、市街地、田・畑など土地の使われ方による色分けを組み合わせた地図表現をしている。 ○各地で守り伝えられてきた祭り、伝統行事、伝統的工芸品、歴史的建造物、自然をイラストや絵記号で全編にわたって掲載している。 ○歴史地名や世界文化遺産を示している。日本の歴史と世界文化遺産を取り上げたページを設けている。 ○「日本の世界遺産」を全て写真入りで紹介している。 ○イラスト日本地図を47都道府県と並べて学習できるようにしている。 |
| 帝国 | <ul style="list-style-type: none"> ○「日本の領土とそのまわり」では、地形図に排他的経済水域、東京からの距離を示す同心円を入れて国土の最端を示している。近隣諸国として、東南アジアはフィリピン、カンボジア、ラオス、ベトナム、タイ、ミャンマー、インドネシア、マレーシア、シンガポールが挙げられている。 ○「日本とそのまわり」では、最端の4島の写真と説明、竹島と尖閣諸島の写真と説明がある。北方領土、竹島、尖閣諸島は右端に縦に並べて「日本固有の領土」とひとまとまりにしてある。 ●領土領空領海、排他的経済水域を鳥瞰図で表示。説明の字が小さい。 |

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ○工業の分布で、北九州工業地帯と記載。 ○「日本の歴史と世界文化遺産」で、世界との関わりを時代ごとに年表で対応させている。 ○「日本の文化と歴史」では、旧国名、旧国名の付いた産物、鎌倉の地図を掲載。 ○京都、奈良は見開きで拡大地図を掲載し、歴史的建造物や名所をイラストで紹介。奈良公園の鹿、京都市街俯瞰写真を掲載。 ○歴史地名や世界文化遺産をそれぞれ青と緑の反転文字で示している。 ○人々のくらしが読み取れるように、土地の高さによる色分けに、市街地、田・畑など土地の使われ方による色分けを組み合わせた地図表現をしている。 ○各地で守り伝えられてきた祭り、伝統行事、伝統的工芸品、歴史的建造物、自然をイラストや絵記号で全編にわたって掲載している。 ○歴史地名や世界文化遺産を示している。日本の歴史と世界文化遺産を取り上げたページを設けている。 |
|--|---|

(1) 基礎・基本の定着

(ア) 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能、表現力・思考力・判断力を身に付けさせるための工夫

| 発行名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-----|--|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○アフリカの動物や世界の料理などの写真を掲載し、関心を引く。 ●地形図に国境線が引いてあるが、小さい国が判別しにくい。 ○巻頭に世界と日本のイラスト地図「地図のぼうげんに出発」を載せている。 ○世界地図のページには、世界の動物や食事についてのコラムを掲載している。 ○「世界のおもな国の統計」ページに、オリンピックとワールドカップの開催地がのった世界地図を掲載している。 ○「くらべてみよう日本と世界」のページで日本と世界各地の山・川・湖・島・建物・気温と降水量をイラストや表などで比べている。 ●世界地図のページでは、各国の文化や特徴を表す写真があるページとないページがある。 ○巻頭の見開きの世界地図。それぞれの国の特徴や文化など表すイラストを多く掲載し、世界の国々に興味を持てる。 |
| 帝国 | <ul style="list-style-type: none"> ○主要国は、写真とその国の首都・人口・言語・豆知識と暮らしぶりの説明を記載していて、関心を引く。 ○地形図に薄く国別に色をつけているので、詳しい地形のようすは分かりにくいですが、国別の形は分かりやすい。小学校で使用するには使いやすい。 ○世界の地域別地図は、地球儀のどの方向から見たものかの対応図が掲載されている。 ○巻頭の世界地図では主な国の挨拶やイラストを入れている。 ○巻末の世界地図には197か国の国名と国旗を掲載している。 |

- 主要な国名と首都名に英語表記を付けている。
- アメリカ合衆国の地図では国名だけでなく州名や主要都市名にも英語表記を付けている。
- 世界地図に、産業・文化・世界遺産に関わるイラストなどを入れている。
- 世界地図に、国語科や音楽科で活用できる要素「物語の舞台になったところ」「音楽の舞台になったところ」を掲載している。
- 「集まれ！世界のこどもたち」コーナーでいくつかの国を取り上げ、首都・人口・おもな言語・豆知識・写真を掲載している。
- 「日本と世界の結びつき」で「日本と外国の人を通じた結びつき」の項目をあげ、日本を訪れる外国人についてグラフや写真を示している。
- 世界地図のページでは、それぞれの国の文化や特徴が分かる写真を掲載している。
- 巻頭の見開きの世界地図では、それぞれの国の特徴や文化を表すイラストだけでなく、言語（あいさつの言葉）も明記している。
- 奈良・京都のページに外国人観光客が訪れることを写真で紹介している。

(3) 主体的に学習に取り組む工夫

④ 興味・関心を高めるための工夫

| 発行者 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-----|--|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭では、絵本的な世界・日本地図が、地図への興味関心を高め、地図の世界に入りやすい工夫がされている。 ○3年生導入時には、ページを多く割いて見開き鳥瞰図から見開き地図への変換する視覚効果、そこから市の学習へと続く流れが効果的。 ○鳥瞰図でキャラクターを探させる工夫で、地図を使う楽しさを味わえるようになっている。 ●鳥瞰図から地図への変換の必要性は、見開き地図のページにあるが鳥瞰図の場面で考えさせるようにはなっていない。 ○巻頭近くに47都道府県のクイズや形を動物に例えて覚えられる工夫が掲載されている。 ○デジタルコンテンツとして2次元コードやアドレスが提示され、使用上の注意もp96で提示。 ○巻頭の世界地図と日本地図のイラストマップで、世界や日本のさまざまな事物を紹介し、地図帳で調べてみたいという意欲を喚起している。 ○男女の児童キャラクターのほかにはかせや冒険船の船長を置き、地図活用の手がかりを児童の言葉で提示するようにしている。 ○世界地図のページに各国の動物や食べ物の写真が大きく掲載され、興味を引く。 |
| 帝国 | <ul style="list-style-type: none"> ●鳥瞰図から地図への変換が2ページしかなく、鳥瞰図がページの折り目に入っていて見づらい。 ○学校の横からの写真、斜め上からの写真、真上からの写真、地図へと変換する流れが、地図化していくことへの必要性を感じさせるキャラクターの台詞と合わせてみていくことで分かりやすい。 ○「広く見わたす地図」として、中学年用に情報量を少なくし、イラストも多用した日本の各地方の地図を、10ページに渡って日本の各地方を掲載している。 ○巻末近くに47都道府県のクイズや形を動物に例えて覚えられる工夫、手話での都道府県の表し方が掲載されている。 ●47都道府県のクイズは、巻頭の3年生使用を想定したページに入れた方が使いやすい。 ○2次元コードやアドレスが提示され、タブレットパソコンなどを用いて内容を深められるコンテンツがある。ドローン空撮や動画が見られる。 ○「地図マスターへの道」として、世界地図のページに問題が出してあり、地図を見て解くことで地図に親しんでいけるよう、工夫がしてある。 ○手話による都道府県名の表し方を示したコーナー「手話で話す都道府県」を掲載している。 ○協力する態度を育成することができるよう、キャラクターどうしが教え合いながら学習している場面を示している。 ○防災意識を高めることができるよう、日本列島でおこった自然災害の事例を載 |

| | |
|--|--|
| | <p>せ、自分たちでできることを考える防災マップづくりを示している。</p> <p>○子どもたちが親しみやすく興味をもって読み取りをすることができるよう絵記号を大きく示している。</p> <p>○「地図マスター」というコーナーがあり、そのページの地図を使って答える問題がある。</p> |
|--|--|

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

⑤ 自ら学び、自ら考える力を育むための学び方・調べ方の題材や手順の示し方

| 発行者 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-----|--|
| 東書 | <p>○修学旅行を想定し、京都、奈良は見開きで拡大地図を掲載し、歴史的建造物や名所をイラストで紹介。金閣・銀閣・東大寺大仏の写真を掲載。</p> <p>○日本の自然の様子 (2) 気候 年間降水量ごとに色を変えた日本地図に、海流を入れて関係を図示している。雨温図では、年平均最高、最大降水量を数字で記載。降水量グラフは1月ごとに色を変えて記載。</p> <p>○地図の仕組みをわかりやすく解説した「まちを上からながめてみよう」「真上から見ると地図になるよ」「市を見わたしてみよう」で地図学習の仕方を示している。</p> <p>●学び方を示すページが少ない。</p> <p>○地球儀の使い方を大きな写真で紹介している。</p> |
| 帝国 | <p>○修学旅行を想定し、京都、奈良は見開きで拡大地図を掲載し、歴史的建造物や名所をイラストで紹介。奈良公園の鹿、京都市街俯瞰写真を掲載。</p> <p>○防災マップの具体的な作り方・備えの具体的図・防災、減災に取り組む人々の努力を地域事例として取り上げている。</p> <p>○日本の自然 気候、地形 冬と夏の気温、降水量の違いを4枚の日本地図で表し、列島の断面図で季節風との関係を図示している。 雨温図では、月別平均最高・最低温度、最大・最小降水量を数字で記載。降水量グラフは色を変えて記載。</p> <p>○全編にわたって、主体的な学びを促すように発問を示している。</p> <p>○地図活用能力を育むように、地図帳の導入から地図帳の使い方までを丁寧に大きく扱っている。「地図って何だろう」「地図のやくそく」「地図帳の使い方」で地図の必要性や有用性を示し、おさえるべき約束を身に付けるようにしている。</p> <p>○「地図マスターへの道」を設け、必要な地図活用のスキル、社会科の知識や見方・考え方が身に付くようにしている。</p> <p>○キャラクターが地図を見る視点を示唆したり活用を促す発言をしたりしている。</p> <p>○タブレットやパソコンを使って学習を深めるクイズや資料などが活用できるようになっている。</p> <p>○地球儀の使い方を活動ごとに枠で囲んで説明しているので分かりやすい。</p> |

(3) 内容の構成・配列・分量

⑥ 単元・題材や資料等の配列

| 新着 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|----|--|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地図のきまりは、「市を見わたしてみよう」の見開き中にあるが、説明が少なく、特にきまりとしてまとめられていない。 ● 「地図帳の使い方」で、地図記号や地名検索の方法などを手順を明確に記載して説明しているが、1ページで説明しているのでは情報を詰め込みすぎていて見づらい。 ○ 「世界全図と地球儀」では、地球儀の使い方が大きな写真を使って簡潔に説明してある。(緯度、経度はページ内の別項に記載) 方位を調べよう きよりを調べよう 大きさ、形を調べよう。 ○ すべての都道府県を切れ目なく見られるように構成している。 ○ 用途に応じて使い分けられるように、「広く見る地図」→「地方別に見る地図」「くわしく見る地図」→「世界地図」と配列している。 ○ 巻頭 (p5～p6) に「日本の47都道府県」が配置されている。 ○ 「沖縄島」 (p17) が単独で配置されている。 ○ 近畿地方に「大阪府とそのまわり」「京都市・奈良市・斑鳩町」が挿入されている。 ○ 巻末資料に「日本の歴史～世界とのかかわり～①」 (p75～p76) 「日本の歴史～世界とのかかわり②」 (p77～p78) が配置されている。 ● 日本と関わりの深い国々の地理的特徴を、単独で紹介する内容がない。 |
| 帝国 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 地図のきまりは、「地図のやくそく (1)～(3)」として、6ページに渡って構成を考えてまとめてあり、書き込み欄も設けながら余裕ある紙面で説明している。 ○ 「地図帳の使い方 (1)～(2)」で、地名検索の方法などを手順を明確に記載して説明している。 ○ 「世界と地球儀」では、地球儀の使い方が写真と順を追った説明で記載されている。 位置を表す 緯度と経度 方位を調べる きよりを調べる 面積、形を調べる ○ すべての都道府県を切れ目なく見られるように構成している。 ○ 発達段階における活用頻度の高い順に、「広く見わたす地図」→「都道府県を見る地図」→「世界の地図」と配列している。 ○ 四国地方に「瀬戸内海周辺」、近畿地方に「京阪神 (京都・大阪・神戸)」「奈良市中心部・京都市中心部」、中部地方に「中部地方南部」「自動車産業のさかんな愛知県」、関東地方に「関東地方南部」、北海道地方に「北海道地方南部」が挿入されている。 ○ 「新潟県」, 「アメリカ合衆国」 (世界地図) が単独で挿入されている。 ○ 巻末に「都道府県の名前と位置」 (p118～p120) が配置されている。 ● 意図的に単独で挿入したページでは、単元の目標や題材の特徴に応じた具体的なテーマが示されていない。 |

(4) 内容の表現・表記

⑦適切な関連付けがなされた図表の活用

| 発行者 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-----|--|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○「日本とそのまわり」において竹島と尖閣諸島について詳しく記述している。(p15~p16) ○地図中では、土地の高さによって色わけしている。 ○ゴシック系のUD書体を使用している。 ○主な地名には、赤字に白の縁取りをしている。 ○道徳の学習教材に取り上げられることが多い人物のイラストを地図上の関連する場所に掲載している。植村直己 (p57) マザーテレサ (p59) 野口英世 (p61) 杉原千畝 (p63) ○日本の自然災害のページでは、日本列島全体の自然災害地図と主な災害の写真を掲載し、ハザードマップの例を示して、防災意識を高めることを狙っている。(p97~p99) ○世界地図では、国名の欧文表記を併記している。(p57~p68) ○2020年東京オリンピック・パラリンピックの会場予定地を地図上に示している。(p45~p49) ○これまでの夏季・冬季オリンピックとサッカーワールドカップの開催地を一覧できる地図を設けている。(p85) ○ヨーロッパの地図のページに、半ページ分ほど「ヨーロッパのいろいろな料理」「世界のいろいろな料理」の欄を設けている。(p64) ○日本のラムサール条約、世界ジオパーク登録地を地図中に示している。 ○日本の世界遺産について写真付きで紹介している (p79~p80) ○地球温暖化により海面上昇の危機に直面している国であるツバルを写真付きで紹介している。(p68) ○地図上に国語科や音楽科に関わる人物の記念館などを掲載している。滝廉太郎記念館 (p26) 新見南吉記念館 (p41) 石川啄木記念館 (p51) ○インターネットを使って関係資料を使った学習ができるように「D(デジタル)マーク」を9か所に記載している。 ●教科書単元のねらいを意図した具体的な記述が少ない。 ●地図上に示す内容が多い。テーマに沿った内容のみを記載した簡易地図を挿入したほうが良いものもある。 |
| 帝国 | <ul style="list-style-type: none"> ○3年生からの易しい地図「広く見わたす地図」(縮尺1/160万)が設定されている。文字やイラストによる情報や、土地の高さによる色分けも、入門期に必要なとされるものみに厳選(地上4色、海中1色)されているため、都道府県の配置を理解したり、鉄道や主要道路などによる交通網を把握したり、国土の地形の特徴を直感的に捉えたりする際に適している。(p19~p28) ○4年生以上向けの詳細な地図(縮尺1/100万・1/50万)では、土地の高さによる色分けに加え、土地の使われ方による色分けが使われている。 ○学習テーマに沿って詳細に記述された都市圏図(縮尺1/20万・1/30万)が設定されている。 |

- 土地の高さによる色分けの色数が少なく、赤茶系の彩色がないため、地名などの文字表記や強調する印を判読・判別しやすい。
- UDフォントやUD学参フォントを使用している。
- 主な地名には赤字に白の縁取りをしている。
- 「トライ！」欄にて「手話で表す都道府県」を紹介している。
- 2次元コード（QRコード）が36か所に掲載されており、コンテンツを用いて内容を深めることができる。
- アメリカ合衆国の地図では、州名や主要都市にも英語表記を付している。（p85～p86）
- 他教科でも活用できるように、「音楽のぶたい」や「物語のぶたいとなったところ」、「音楽のぶたいとなったところ」等の特別凡例を設けている。
- かけがえのない自然を大切にすることを育めるよう、「天然記念物」「貴重な動植物」「世界自然遺産」「ラムサール条約登録湿地」「世界ジオパーク」等を掲載している。
- 大規模な発電所の記号を設けている。
- 歴史と文化を尊重する態度を育めるよう、歴史地名を青色、世界文化遺産を緑色の反転文字で表記している。
- 世界の国々への興味・関心が高まるよう、主な国の挨拶やイラストを挿入している。（p1～p3）
- 訪日外国人観光客の増加や伝統文化の尊重を踏まえて、おもな観光地や観光施設、祭りなどの伝統行事のイラストを、地図上に掲載している。
- 教科書単元のねらいを意図した具体的な記述が少ない。
- 地図上に示す内容が多い。テーマに沿った内容のみを記載した簡易地図を挿入したほうが良いものもある。

(5) 言語活動の充実

⑧資料の活用の工夫

| 発行者 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-----|--|
| 東書 | <p>○キャラクターが吹き出しの中で、気付きを促す問いや、説明をしているため、児童が自己内対話をするができる。</p> <p>○形や使われている漢字から都道府県名を想起するトピックが挿入されている。(p5～p6)</p> <p>○地球儀を扱うトピックの中で、複数の児童が協働的に調べ学習をしている写真が挿入されている。(p55～p56)</p> <p>●問いや気付きを書き込める欄がない。</p> |
| 帝国 | <p>○「地図マスターへの道」欄が設置してあるため、正答を見つけようと、児童が友達と相談したり確認したりすることができる。</p> <p>○キャラクターが吹き出しの中で、気付きを促す問いや、説明をしているため、児童が自己内対話をするができる。</p> <p>○「トライ！」欄の問題を考えることで、自己内対話や友達との対話することができる。</p> <p>○形や使われている漢字から都道府県名を想起するトピックが挿入されている。(p115)</p> <p>○地球儀を扱うトピックの中で、複数の児童が協働的に調べ学習をしている写真が挿入されている。(p73～p74)</p> <p>●具体的な問いを挿入した欄がない。</p> |

(5) 言語活動の充実

⑨調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫

| 発行者 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-----|--|
| 東書 | <p>○自分の地域のハザードマップを確認させるトピックが挿入されている。(p99)</p> <p>●第3学年から地図に親しむことを念頭に置いた活用例が具体的に明示されていない。</p> |
| 帝国 | <p>○イラストを用いて方位磁針を使った方位の調べ方を具体的に説明している欄が設けられている。(p9)</p> <p>○「地図のやくそく」では、自分の地域の絵地図を作製する場面を念頭に置いた構成になっている。(p9～p13)</p> <p>○防災マップづくりの手順を示しているトピックに、「どのようなものを調べてくるか話し合う」「ルートや分担も決める」「気付いたことを話し合い、よりよい避難方法を確認し合う」といった記述がある。(p94)</p> <p>●第3学年から地図に親しむことができるような絵地図を詳細化していく過程を説明するページがない。</p> |

種 目 名 (算 数)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ①単元・題材の目標の示し方
- ②基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫
- ③筋道を立てて考える力を育成するための工夫

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ④興味・関心を高めるための工夫
- ⑤問題解決的な学習を実施するための工夫
- ⑥作業的・体験的な学習を実施するための工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

- ⑦単元・題材や資料等の配列
- ⑧発展的な学習，中学校との関連に関する内容の記述
- ⑨自学自習を行うための構成，記述の工夫

(4) 内容の表現・表記

- ⑩本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト，写真，吹き出し，図表等の活用

(5) 言語活動の充実

- ⑪数学的な表現を用いて自分の考えを説明したり，他者の考えを読んだりする活動の工夫
- ⑫自分の考えをまとめ，記述する活動の工夫

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

①単元・題材の目標の示し方

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) 第2学年「たし算のひっ算」 |
|------|---|
| 東書 | <p><単元名「たし算のしかたを考えよう」></p> <p>○単元のはじめに、「いくらになるかな?」という導入の題材に関わる課題を示している。</p> <p>○題材ごとに学習のめあてを示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2けたの数のたし算のしかたを考えよう」 ・「ひっ算のしかたをしらべよう」 ・「ひっ算のしかたを考えよう」 ・「答えのもとめ方考えよう」 ・「2人の考えをくらべて、同じところとちがうところを考えよう」 <p>○既習との違いに着目させている。</p> |
| 大日本 | <p><単元名「たし算のしかたを考えよう」></p> <p>○単元のはじめに、「合わせていくつかな」という導入の題材に関わる課題を示している。</p> <p>○題材ごとの目標を“めあて”として示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何十をたす計算のしかたを考えよう」 ・「2けたの計算のしかたを考えよう」 ・「たし算の新しい計算のしかたについて考えよう」 ・「いろいろなたし算のひっ算のしかたを考えよう」 <p>○題材による違いが明確な目標になっている。</p> |
| 学図 | <p><単元名「たし算の意味やしかたを考えよう」></p> <p>○ひっ算に入る前に、「くふうして計算のしかたを考えよう」という単元を設け、2けたの計算のしかたについて考えさせる構成になっている。</p> <p>○単元のはじめに、「ぜんぶで何こ作ったかな?」という導入の題材に関わる課題を示しており、その課題をそのまま単元の導入で考えさせている。</p> <p>○題材ごとの目標を“めあて”として示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たし算のひっ算はどのように計算したらいいのかな。」 ・「一のくらのたし算の答えが10より大きくなるひっ算はどうすればいいのかな。」 <p>●めあてが示されていない題材もある。</p> |

| | |
|-----|---|
| 教出 | <p><単元名「たし算」></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元のはじめに、「おかしを2つえらぼう」という導入の題材に関わる課題を示しており、その課題をそのまま単元の導入で考えさせている。 ○題材ごとの目標は示されておらず、「はてな」「だったら」など、次の課題につながる問いかけになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・だったら「ほかの数でも同じように考えてできるかな」 ・はてな「一の位の計算が10より大きくなる時は、どうすればいいのかな」 ○児童の思考の流れに合わせて、進めている。 |
| 啓林館 | <p><単元名「たし算とひき算のひっ算(1)」></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ひっ算に入る前に、「たしざんとひきざん」という単元を設け、2けたの計算のしかたについて考えさせる構成になっている。 ○単元のはじめに、「ひろったあきかんは何こかな？」という導入の題材に関わる課題を示している。 ○題材ごとの目標を“めあて”として示している。 <ul style="list-style-type: none"> ・「数をならべて「計算」するしかたを考えていこう」 ・「一のくらいをたすと10をこえるひっ算のしかたを考えよう」 ・「たされる数とたす数を入れかえて答えをくらべよう」 ○目標の表現が具体的で分かりやすい。 |
| 日文 | <p><単元名「たし算のしかたをくふうしよう」></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元のはじめに、「あわせて何円かな」という導入の題材に関わる課題を簡単に示し、単元の導入で考えさせている。 ○題材ごとの目標は示されておらず、単元の目標が“めあて”として示されている。 <ul style="list-style-type: none"> ・「2けたの数のたし算のしかたを考えよう」 ●題材ごとの目標は示されていない。 |

(1) 基礎・基本の定着

②基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための工夫

| | |
|------|--|
| 発行者名 | <p style="text-align: center;">意見 (○ 長所 ● 課題)</p> <p style="text-align: center;">第4学年「1けたでわるわり算のひっ算」〈筆算の仕方の説明〉</p> |
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○「たてる」→「かける」→「ひく」→「おろす」の計算の順序が上から下へ示されている。 ○「6は、10が6こあることを示しているよね。」といった気を付けるべき部分にコメントが入っている。 ○強調したい部分が太字で表現されている。 ○縦に赤の点線が引いてあり、位取りが分かりやすい。 ●ひっ算の仕方がすべて黒文字で表示してあるため、大事なポイントが強調されにくい。 |

| | |
|-----|--|
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○「たてる」→「かける」→「ひく」→「おろす」の計算の順序が上から下へ示されている。 ○強調したい部分以外は、字が薄く表示してある。 ○ひっ算の表示の右側に、十のまとまりや一のまとまりを図で表示してあるため、イメージしやすい。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○「たてる」→「かける」→「ひく」→「おろす」の計算の順序が上から下へ示されている。 ○縦に青の点線が引いてあり、位取りが分かりやすい。 ○ひっ算の表示の右側に、折り紙を分ける場合の図で表示してあるため、イメージしやすい。 ○吹き出しで「あまりは、わる数より小さい。」など、気をつけるべきところが明記してある。 ●ひっ算の仕方の表記の中で、注目すべきところが強調されていない。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ○「たてる」→「かける」→「ひく」→「おろす」の計算の順序が上から下へ示されている。 ○ひっ算の表示の右側に、十のまとまりや一のまとまりを図で表示してあるため、イメージしやすい。 ○単純なわり算やひき算の式での表示もしてあるため、既習事項を想起しやすい。 ○縦に青の点線が引いてあり、位取りが分かりやすい。 ●二回目の「たてる」→「かける」→「ひく」という過程が丁寧に示されていない。 |
| 啓林館 | <ul style="list-style-type: none"> ○QRコードが掲載してあり、活用すると、WEB上で解説動画を閲覧できる。 ○赤線の矢印で思考の流れをわかりやすく示してある。 ○「たてる」→「かける」→「ひく」→「おろす」の計算の順序が左から右へ見開き2ページを使って示されている。表示が大きく、色分けもされているので分かりやすい。 ○「2をたてて」「三二が6」のように、子どもが唱える具体的な言葉と図、ひっ算、簡素化された表現が、繰り返し同じ順序で並んでいる。 ○ひっ算の二回目の過程の最後にも「おろす」というキーワードを挿入し「おろすものがなくなるとおわり」としている。今後、けた数が多くなった際の計算の手がかりになる言葉である。 |
| 日文 | <ul style="list-style-type: none"> ○「たてる」→「かける」→「ひく」→「おろす」の計算の順序が上から下へ示されている。 ○縦に赤の点線が引いてあり、位取りが分かりやすい。 ○ひっ算の表示の左側に、紙の束を分ける場合の図で表示してあるため、イメージしやすい。 |

(1) 基礎・基本の定着

③筋道を立てて考える力を育成するための工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) 第2学年〈たし算やひき算の考え方を思考させる題材の取扱い〉 |
|------|---|
| 東書 | <p>○筋道を立てて考えさせるための単元設定はされていないが、ひき算のひっ算の学習の後に「どんな計算になるのかな」という題材で様々な場面の問題を考えさせている。</p> <p>○「たし算のきまり」「ひき算のきまり」の場面で、丸図とテープ図を合わせたような図で考えさせている。</p> <p>●前期には、テープ図等を用いて思考させる題材の取扱いが少ない。</p> |
| 大日本 | <p>○「ひき算のきまり」の場面で、丸図で考えさせている。</p> <p>●前期には、テープ図等を用いて思考させる題材の取扱いが少ない。</p> |
| 学図 | <p>○たし算やひき算の問題をとらえる際に、テープ図を意識したと思われる図が使われており、筋道を立てて考えることに役立つと考えられる。</p> <p>○単元のはじめに「?をはっけん」というコーナーが設けてある。4コマ漫画のような挿絵が表示してあり、順序立てて問題を考えられるように工夫されている。</p> <p>○「たし算とひき算のかんけい」という題材の中で、テープ図を使って考えさせている。</p> <p>●前期には、テープ図等を用いて思考させる題材の取扱いが少ない。</p> |
| 教出 | <p>○前期から「たし算とひき算の図」という単元を設け、テープ図を使って筋道を立てて考えるさせている(4ページ扱い)。</p> <p>○同じりんごの問題で、「全部の数を求める問題」と「一部の数を求める問題」が設定されている。</p> <p>○2ほんのテープ図を用いて、違いを求める問題に触れている。</p> <p>○挿絵から問題をイメージしやすくなっている。</p> <p>●単元後半の問題では、問題の文章のみが表示してあり、テープ図にする際のイメージが持ちにくい。</p> |
| 啓林館 | <p>○前期から「かくれた数はいくつ」という単元を設け、図を使って筋道を立てて考えさせている(10ページ扱い)。</p> <p>○QRコードが掲載してあり、活用すると、WEB上で解説動画を閲覧できる。</p> <p>○問題の順序通りにテープ図を作成する方法を解説している。</p> <p>○「全部の数を求める問題」→「残りの数を求める問題」→「ふえた数を求める問題」の順に考えさせ、徐々に思考が難しくなっている。</p> <p>○テープ図に書き込みができる形式になっており、見通しが持ちやすい。</p> |
| 日文 | <p>○「たし算のきまり」「ひき算のきまり」の場面で、丸図とテープ図を合わせたような図で考えさせている。</p> <p>●前期には、テープ図等を用いて思考させる題材の取扱いが少ない。</p> |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

④興味・関心を高めるための工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <p>○各単元の前に日常や既習を取り上げた「単元プロローグ」を1ページ設定し、単元への興味をもたせる工夫をしている。</p> <p>○単元の終末に「学習の仕上げ」のページを設定し、「つないでいこう算数の目」として学習の振り返りをし、次の学びを作り出そうとしている。</p> <p>●4年「がい数の使い方と表し方」では、いろいろな数の使い方を提示した後、いろいろな町の人口調べを導入にしているが、単元プロローグとのつながりが薄い。</p> <p>○学習の仕上げとして、目的に合った概数の使い方を紹介している。</p> |
| 大日本 | <p>○単元の初めに「新しい学習がはじまるよ」のページを設定し、学習への興味をもたせるようにしている。</p> <p>○4年「がい数」では、遊園地の様々な数字を提示した後、遊園地の月別の入園者数を概数の導入につなげている。</p> <p>○単元終末の見積もりの問題は、スーパーマーケットで、日常生活に活かせる問題を取り上げている。</p> |
| 学図 | <p>○単元の初めに「?を発見」のページを設け、生活の中から疑問を見つけさせ、学習への興味・関心を高める工夫をしている。</p> <p>○単元によっては、「ふりかえろう つなげよう」のページを設け次につながる課題のヒントを与えている。</p> <p>○4年「およその数の表し方や計算のしかたを考えよう」では、花火大会おおよそ20000発の?から、概数への興味をもたせている。</p> |
| 教出 | <p>○単元の前に「どんな学習がはじまるかな?」を見開きで設け、学習への興味をもたせている。</p> <p>○4年「がい数」では、図鑑に出てくる数字についておよその数で表す理由を導入にしている。</p> |
| 啓林館 | <p>○単元の初めに、既習を振り返る「じゅんび」と単元とびらのページを設定し、日常の事象を取り上げて、学習への興味をもたせている。</p> <p>○4年「がい数とその計算」では、サッカーの試合の実際の入場者数と新聞記事の人数の違いを導入にし、関心を高めている。</p> |
| 日文 | <p>○単元の前に「次の学習のために」という学習内容に関連した復習ページと新しい内容につなげる導入のページを設けている。</p> <p>○4年「およその数」では、県別の小学4年生の人数を導入にしている。</p> <p>●児童の日常生活に根ざした題材が少ない。</p> |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

⑤問題解決的な学習を実施するための工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 東書 | <p>○巻頭「学びのとびら」で問題解決の学び方を示している。</p> <p>○「今日の学習」では、今日の問題・学習のめあて・考えるときの手がかり、大切な見方や考え方などの記号をつけて、考え方のヒントを与えている。</p> |
| 大日本 | <p>○巻頭「じっくり深く学び合おう」で、学習のしかたを示し、「問題をつかもう」→「自分で考えよう」→「学び合おう」→「まとめよう」の流れで単元の学習を組み立てるようにしている。</p> |
| 学図 | <p>○「?を発見」で単元の課題を提示し、「解決したいな、考えたいな、知りたいな」→「比べたいな、表したいな、話し合いたいな」→「確かめたいな」→「やってみたいな」などの児童に呼びかける言葉を教科書のページ左端に入れて、授業の流れを示している。</p> |
| 教出 | <p>○単元導入ページでの「? (はてな)」や「! (なるほど)」「!? (だったら)」のマークのふき出しを随所に入れ、児童に課題を提示しながら学習を進めていくようにしている。</p> |
| 啓林館 | <p>○巻頭での「学習の進め方」「わくわく算数学習」のページで、「どんな問題かな」→「自分で考えよう」→「みんなで話し合おう」→「たしかめよう」→「ふりかえろう」の流れの学習の進め方を示している。</p> <p>○毎時間の学習で、「学びのめばえ」マークのふきだしを入れて、「学習の進め方」の流れに沿った問題解決的な学習ができるように課題を配列している。</p> |
| 日文 | <p>○各学年4単元ほどに「自分でみんなで」の問題解決的な学習内容を提示し、「どんな問題かな」→「考えよう」→「学び合おう」→「ふりかえろう」の流れで、学習を進めるようにしている。</p> |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

⑥ 作業的・体験的な学習を実施するための工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <p>・具体的な体験を伴う学習場面の数 第1, 2, 3学年「測定」領域</p> <p>1年 1 1 2年 1 1 3年 7 計29</p> <p>・第5学年「図形」領域 巻末作業シート</p> <p>「直方体や立方体の体積」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複合体積の求め方を書き込む立体図 3枚 <p>「合同な図形」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形を重ねて調べたり対角線で切って重ねたりするための薄紙の図形 三角形・四角形各1, 四角形5種類 計14枚 <p>「図形の角をしらべよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えたやり方を書き込む四角形 3枚 ・内角の和が360°になることを捉えるために敷き詰める四角形12枚。 <p>「正多角形と円周の長さ」</p> <p>円周と直径の長さの測り方は、ものさしとテープを使った写真</p> |
| 大日本 | <p>・具体的な体験を伴う学習場面の数 第1, 2, 3学年「測定」領域</p> <p>1年 8 2年 1 1 3年 1 1 計30</p> <p>・第5学年「図形」領域 巻末作業シート</p> <p>「体積」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複合体積の求め方を書き込む立体図 4枚 <p>「三角形と四角形の面積」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積の求め方を説明するための図形 三角形 5 平行四辺形 3 台形 3 <p>「四角形の角の大きさをしらべよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内角の和を調べるために切ったり折ったりする三角形 3種5枚・自分の考えを書き込む四角形 3枚 ・敷き詰める三角形と四角形 各12枚 <p>●「正多角形と円」円周と直径の長さの測り方は、ものさしとメジャーを使った絵のみ。</p> |

| | |
|----------------------|--|
| <p>学 図</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な体験を伴う学習場面の数 第1, 2, 3学年「測定」領域 <ul style="list-style-type: none"> 1年 7 2年 8 3年 7 計22 ●体験を伴う学習場面がやや少ない。 ・第5学年「図形」領域 巻末作業シート <ul style="list-style-type: none"> 「体積」 <ul style="list-style-type: none"> ・導入で体積を比べる直方体と立方体の展開図 3種 「合同な図形」 <ul style="list-style-type: none"> ・重ねて調べるために切り取って使う図形8枚 「三角形や四角形の角についてしらべよう」 <ul style="list-style-type: none"> ・四角形の角の和が360°になることを説明するための敷き詰めをする2種類の四角形 各9枚。 「多角形と円」 <ul style="list-style-type: none"> ・円周の長さを調べるため4種類の直径の円と円を転がして円周を測るものさし ○実際に円を転がして円周を調べることができる。 |
| <p>教 出</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な体験を伴う学習場面の数 第1, 2, 3学年「測定」領域 <ul style="list-style-type: none"> 1年 8 2年 10 3年 9 計27 ・第5学年「図形」領域 巻末作業シート <ul style="list-style-type: none"> 「体積」 <ul style="list-style-type: none"> ・体積を比べるための直方体と立方体の展開図 「合同と三角形, 四角形」 <ul style="list-style-type: none"> ・内角の大きさのきまりを調べる導入として並べる三角形2種類各8枚 敷き詰める四角形12枚 「正多角形と円」 <ul style="list-style-type: none"> 直径と円周の長さの測り方は, ものさし, 三角定規, メジャーを使った写真で紹介 |
| <p>啓 林 館</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な体験を伴う学習場面の数 第1, 2, 3学年「測定」領域 <ul style="list-style-type: none"> 1年 13 2年 19 3年 11 計43 ○「比べる」「はかる」など, 具体的に体験する活動が多く仕組みられている。 ・第5学年「図形」領域 巻末作業シート <ul style="list-style-type: none"> 「合同な図形」 <ul style="list-style-type: none"> ・重ねて合同であるか調べたり対角線で分けて切って調べたりするための薄紙の図形 三角形や四角形 計8枚 |

| | |
|--------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・内角の和を調べるための三角形 10枚 四角形1枚 ○図形を裏返して合同かを調べることができる。 「円と多角形」 ・円を転がして円周を測定するための5種類の直径の円と円周測定ものさし(円周測定マシン) ○実際に円を転がして円周の長さを実感することができる。 ●ものさしやメジャー等を使った直径や円周の長さの測り方は示していない。 「正多角形にそってえんぴつくんを動かそう」 ・プログラミングを体験する図形シート5枚 |
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な体験を伴う学習場面の数 第1,2,3学年「測定」領域 1年 12 2年 15 3年 13 計40 ・第5学年「図形」領域 巻末作業シート 「体積」 ・導入で体積を比べるため、直方体2種、立方体1種の展開図 「図形の面積」 ・面積の求め方を書き込む三角形、四角形が3種類各2枚 「図形の合同と角」 ・合同を見つけるための三角形と四角形各1 ・内角の和を調べる導入として敷き詰める3種類の三角形各8枚 ○三角形の3つの角がそれぞれ色分けされ、3つの角を合わせると180°になることが捉えやすい。 「正多角形と円」 ・円の導入として「六角がえし」を作るシートが3つ |

(3) 内容の構成・配列・分量

⑦単元・題材や資料等の配列

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 東書 | <p>○6年以外は教科書が上・下に分かれているため、1冊分の厚みが薄く、ランドセルが重くならない。</p> <p>○1年生の教科書は、44ページのワークシート型になっており、入学してしばらくはノートの必要がない。</p> <p>○1年ワークシート型教科書は、フラットに開けるよう工夫してある。</p> <p>●「資料の整理」を「グラフ」の単元の中で扱っており、考え方より、表の書き方に重点が置かれている。(4年)</p> <p>・大きさ比べの学習では、「どちらがながい」「どちらがおおい」「どちらがひろい」の3つに分かれており、時期も分散している。(1年)</p> |
| 大日本 | <p>○最初の単元が、「折れ線グラフ」になっているため、理科の温度のかわり方の学習の前に、折れ線グラフが描けるようになっている。(4年)</p> <p>●教科書が全学年1冊。上・下に分かれていないため1冊のページ数が多く重い。</p> <p>・7単元目まで数の学習のみ。他者は、4つ目までに、時計や形の学習が一度入る。(1年)</p> |
| 学図 | <p>○6年生以外は教科書が上・下に分かれている。</p> <p>●教科書のサイズが大きい。開くと横がA3サイズになるため机の大部分を占めてしまう。(全学年)</p> <p>・単元数が多い。(最も差があった4年は21。平均16。最少の東書は14)。総ページ数は変わらない。「そろばん」「資料活用」「表」の学習を独立して学習する構成になっている。</p> |
| 教出 | <p>●億、兆の漢字を習う前に「大きい数」の学習をする。(4年)</p> <p>●教科書が上下に分かれておらず重い。180ページ(1年)</p> <p>・「どれだけおおい」の単元で、かさとおさをまとめて学習する。</p> |
| 啓林館 | <p>○「角とその大きさ」を4月の時間的に余裕のある時期に学習する配列になっている。(4年)</p> <p>○「データの活用」では、教科書の見開きで学習する内容が示してあるため、扱いやすい。</p> <p>●1年生の教科書が上下に分かれておらず、重い。</p> |
| 日文 | <p>○6年以外は教科書が上・下に分かれている。</p> <p>○見積もりの学習を一つの単元として独立させている。問題も多く、生活場面に生かす工夫がある。(4年)</p> <p>○「資料の調べ方」では、挿絵や色分け、吹き出し等の工夫が多くあり、場面をイメージしやすい。(6年)</p> <p>●億、兆の漢字を習う前に「大きい数」の学習をしている。(4年)</p> <p>●倍の計算や割合の学習を「わり算」の単元の中で扱っており、考え方より、計算方法に重点が置かれている。(4年)</p> |

(3) 内容の構成・配列・分量

⑧発展的な学習，中学校との関連に関する内容の記述

| 発行者名 | 意見（○ 長所 ● 課題） |
|------|---|
| 東書 | ○「データの特ちょうを調べて判断しよう」の单元において，算数用語を的確によく目立つように扱っている。（6年データ） ○中学校へつなぐページは3ページ分ある。 |
| 大日本 | ○他社に比べ分量（ページ数）が多く，ゆったりとスペースを取ってある。（6年データ） ●一つの問題がページをまたがっていることもあり扱いが難しい。（6年データ） ○「数学への世界」のページは13ページ分ある。 |
| 学図 | ○「データの活用」では，PPDACのサイクルについて最も詳しく扱っている。（6年） ○「別冊～中学校へのかけ橋～」が48ページ分ある。 |
| 教出 | ○「データの見方」では，基礎的な説明に加え，活用の仕方に重点を置いた構成になっている。（6年） ○「中学生へ」のページは5ページ分ある。 |
| 啓林館 | ○「割合」を活用して考える单元「図を使って考えよう」を設定している。（6年） ○中学校へつなぐページは3ページ分ある。 |
| 日文 | ●ページを繰りながら前のグラフを参考に問題を解くような部分があり，問題を解くのに困難な児童もいると思われる。（6年データ） ○「もうすぐ中学生」のページが7ページ分ある。 |

(3) 内容の構成・配列・分量

⑨自学自習を行うための構成，記述の工夫

| 発行者名 | 意見（○ 長所 ● 課題） |
|------|--|
| 東書 | ●巻末の補充問題が少ない。10ページ（6年） |
| 大日本 | ○单元末の問題が「しっかりチェック」と「チャレンジ」に分かれて掲載されている。確実に定着させるべき問題と発展的な問題を児童が選んで自主学習することができる。（4年） |
| 学図 | ○「6年のまとめ」を一つの单元として扱っており，さらに補充問題が18ページある。（6年） |

| | |
|-----|---|
| 教出 | ○単元末に「学んだことを使おう」や「4コマ漫画」「考えるヒント」などを提示し、児童に合わせた振り返りが自主的にできる工夫がある。(4年) ○自主勉強用の問題が巻末に15ページある。(6年) |
| 啓林館 | ○準備と発展の問題を巻末にまとめている。自主勉強に使いやすい。 |
| 日文 | ○巻末の復習問題が30ページある。最多(6年) |

(4) 内容の表現・表記

⑩本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト、写真、吹き出し、図表等の活用

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | ●グラフや表が比較的小さい。(4年) ○書きこみ用の□が比較的大きい。(1年) ○操作活動場面の写真の数が多い(1年) ○巻末付録(図形タングラム, 100より大きい数, 九九, 1000より大きい数)(2年生) ●コンテンツへのアクセスは, 表紙裏にあるURLや二次元コードから。対応する個所にDマーク。 |
| 大日本 | ●書きこみ用ページの角や図形が小さい。(4年) ○書きこみ用の□が大きい。(1年) ○巻末付録(三角形と四角形, 長さものさし, 図形の敷き詰め, ひらめきアイテムしゅう)(2年生) ●コンテンツへのアクセスは, 「『たのしい算数』の使い方」にあるURLや二次元コードから。対応する個所にデジタルコンテンツマーク。 |
| 学図 | ○グラフや表がとても大きく, 読み取りやすい。書きこみ用ページの角や図形と余白が大きく, 作業しやすい。(4年) ○書きこみ用の□が大きい。(1年) ○教科書の横幅が長いので, 余白が大きく紙面が混み合っている感じがしない。(全学年)書きこむ活動がしやすい。(例, 2年生の「長さ」など) ●教科書の横幅が長いので, 狭い児童用机では他の物が置きにくい可能性がある。 ○巻末付録(九九, 長さ)(2年生) ○コンテンツへのアクセスは, 対応する個所にある二次元コードから。 |

| | |
|-----|--|
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ●書きこみ用の□が小さい。(1年) ○操作活動場面の写真の数が多い(1年) ○巻末付録(図形タングラム, 長さものさし, 算数カレンダー, 九九)(2年生) ●コンテンツへのアクセスは, 学びの手引きにあるURLや二次元コードから。対応する個所にまなびリンクマーク。 |
| 啓林館 | <ul style="list-style-type: none"> ●書きこみ用ページの角や図形が比較的小さい。(4年) ○巻末付録(表とグラフ, 長さものさし, 図形敷き詰め, 三角形と四角形, 九九)(2年生) ○コンテンツへのアクセスは, 対応する個所にある二次元No.(15) |
| 日文 | <ul style="list-style-type: none"> ●書きこみ用の角のページがない。(4年) ●書きこみ用の□が小さい。(1年) ○操作活動場面の児童の写真の数が多い。(1年) ○巻末付録(図形の敷き詰め, 長さものさし, 九九)(2年生) ●コンテンツへのアクセスは, 目次にあるURLから。二次元コードなし。対応する個所にWebマーク。 |

(5) 言語活動の充実

①数学的な表現を用いて自分の考えを説明したり, 他者の考えを読んだりする活動の工夫

| 発行者名 | 意見(○長所 ●課題) |
|------|---|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○初めに既習事項を載せてこれまでに習ってきたわり算について話し合わせる。次に整数の部分を変えて小数に変えた問題を提示し, 同じように考えていくとよいことを示す。 ○2人の考え方を示し, 言葉といろいろな数値をあてはめる方法から立式する。 ○その後, 数直線図と言葉, 式を使って説明する。2人の考えで共通していることを話し合わせる。 ○1年生の初めはワークのようになっていて, 絵だけがあり, 教科書の上に数図ブロックを直接乗せて思考できるようにしている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ●既習事項の復習なしで, いきなり小数のわり算の問題を示してある。 ○まず2人の考え方を示す。1人は言葉で1人は数直線図で考え, 立式する。(●いろいろな数値をあてはめる方法は紹介されていない。) ○その後2人の考えを言葉と数直線図で説明し, 似ているところを話し合わせる。 ○「わり算のきまり」を使う場面があり, 巻末にある「<u>4年生までのまとめ</u>」を参考にしたらいいことを分かりやすく示している。 |

| | |
|-------------|--|
| 学 図 | <p>○単元前に「はてなを発見」というコーナーで疑問を持たせてから単元に入る。</p> <p>○2人の考えを示し、1人は「いろいろな数値をあてはめて考える方法」、もう1人は「数直線図や4マス関係表」で考えて立式する。その後、2人の考え方を示している。（4マス関係表は学校図書独自のもの）</p> <p>○「考え方モンスター」を巻頭に載せ、「1つ分をつくる」「分けてみる」「別の表し方にする」など数学的な見方考え方を紹介している。単元の中で何人かの考え方を提示してあるところでは、モンスターを横に描き、見方・考え方を導いている。</p> |
| 教 出 | <p>○単元前に導入ページを設ける。そこで、1mの値段を求めることがわり算になることを「いろいろな数値をあてはめて考える方法」と「数直線図」で説明している。</p> <p>○数直線図に細かく目盛りが打ってあり、答えが大体どのくらいの数値になるか見通しがつくようになっている。</p> <p>○まとめのページには、既習が4コマ漫画で載せられている。</p> |
| 啓 林 館 | <p>○既習事項を1ページ使って1mの値段を求めるのはわり算になることを「数直線図」と「関係図」で説明し、言葉の式でまとめている。</p> <p>○小数で割るわり算も1mの値段を求める時はわり算になることを数直線図と関係図で説明している。（関係図は啓林館独自のもの）</p> <p>○3人の考え方を示し、良い所や似ているところを話し合わせている。</p> <p>○数直線図と関係図の書き方を巻末に載せている。</p> <p>○間違った答えを載せ、間違いの説明をさせている。初めは説明の仕方を示し、その後、ほかの数値で児童に間違いを説明させるようにしている。</p> |
| 日 文 | <p>○単元前に既習事項のページを設けて思い出させている。</p> <p>○初めに整数のわり算の問題を示し、整数部分を小数に変えて同じように考えられることを導いている。次に「数直線図」と「言葉の式に当てはめる方法」で割り算を立式している。</p> <p>○2人の考え方を提示し、数直線図と言葉で説明している。</p> <p>○「どこがまちがっているのかな」と間違いを見つけさせて説明させる問題を取り入れている。</p> <p>○単元末の確かめコーナーで図を提示し、「右のような図を使って求め方を説明しましょう」と既習事項を説明させようとしている。</p> |

(5) 言語活動の充実

⑫自分の考えをまとめ、記述する活動の工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 東書 | <p>○巻頭に特設ページ「算数マイノート」を設け、実際の児童のノートを例示し、自分の考えや友達のことを記述することで思考していくことを示している。</p> <p>○「算数マイノートを学習に生かそう」という特設ページを設け、どのように考えて問題を解決したかを振り返るとよいことを示している。</p> <p>○単元末に「学習の仕上げ」コーナーを設け、□の中に数字や言葉を入れることで振り返ったり説明させたりしている。</p> <p>○1年生にも「さんすうノートをつくろう」というページを設け、自分の考えを図や式を使ってノートに書くことを示している。</p> |
| 大日本 | <p>○巻頭に特設ページ「算数まなびナビ」を設け、実際の児童のノートを例示し、書き方のポイントを説明して、自分の考えや友達のことを記述することで思考していくことを示している。</p> <p>○1年生にも「ノートにまとめよう」というページを設け、図や式、言葉を使って考えを書くといいことを示している。</p> |
| 学図 | <p>○特設ページ「考えるノート」「まとめるノート」を設け、実際の児童のノートを例示し、書き方のポイントを説明している。</p> <p>○1年生には特設ページはないが、ところどころで児童のノートを一部載せ、図や式を使って考え方を書いたらいいことを示している。</p> |
| 教出 | <p>○特設ページ「友だちのノートを見てみよう」を設け、実際の児童のノートを例示し、書き方のポイントを説明している。</p> <p>○振り返りで既習事項をまとめさせるようにしている。</p> |
| 啓林館 | <p>○巻頭に特設ページ「考えがよくわかるわくわく算数ノート」を設け、実際の児童のノートを例示し、書き方のポイントを説明している。</p> <p>○「振り返ろう」のページでは、学習して思ったことやわかるようになったことをまとめるよう示している。</p> |

| | |
|--------|--|
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none">○特設ページ「算数ノートをつくろう」「つなげよう！学びとノート」を設け、実際の児童のノートを例示し、書き方のポイントを説明している。○1年生にも特設ページ「さんすうノートをつくろう」があり、考え方も書くよう示している。 |
|--------|--|

種 目 名 (理 科)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 単元の目標とまとめの示し方
- ② 知識や概念の定着を図り，理解を深めるための工夫
- ③ 観察・実験の技能を習得させるための工夫

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ④ 興味・関心を高めるための工夫
- ⑤ 問題解決の力を育成するための工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

- ⑥ 単元や資料等の配列
- ⑦ 社会の変化に伴う課題への対応

(4) 内容の表現・表記

- ⑧ 本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用の工夫

(5) 言語活動の充実

- ⑨ 観察・実験の結果を整理し，考察する学習活動の工夫
- ⑩ 科学的な言葉や概念を使用して自分の考えを論述する活動の工夫

様式1-2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 単元の目標とまとめの示し方

単元のねらいの示し方, 単元末のまとめの扱い

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の導入は、漫画形式のイラストや写真で既習内容や生活経験を思い出すことができる構成になっており、単元のねらいをつかみやすいと考えられる。 ○ 「理科のミカタ」や「学んだことを使おう」を示しているため、理科の見方・考え方ははたらかせて考えるヒントとなる。 ○ 単元末に「ふりかえろう」が設定されており、学びを振り返ることで自分の成長に気付くことができるようになっている。 ○ 「たしかめよう」では、単元で学んだ基礎的・基本的な知識・技能などを練習問題で定着させられるようになっている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の導入は、写真を見たり活動をしたりして問題を見つける形式になっており、児童の主体的な活動を促している。 ○ 「理科の見方」につながる着眼点をキャラクターのセリフで示しており思考のヒントとなっている。 ○ 単元末の「確かめよう」で、単元で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を練習問題で定着させられるようになっている。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の始めのページに、番号順に整理された学習内容やめざす資質・能力が示されているため、児童がどのような学習を通してどういう力をつけるのかが分かりやすくなっている。 ○ 単元末には「まとめてみよう」で、単元で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を定着させられるようになっている。 ○ 単元の最後に「できるようになった」という振り返るコーナーがあり、付けたい力に対応した振り返りの視点が分かるように工夫されている。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の導入は、学習内容に関する身の回りの事象が取り上げられており児童の興味・関心を高める工夫がされている。 ○ 既習事項と次につながる内容を「学習のつながり」として示してあり、学びの系統性を意識できるようになっている。 ○ 単元末の「たしかめ」では、単元で学んだ基礎的・基本的な知識・技能などを練習問題で定着させられるようになっている。 |

| | |
|-------------|--|
| 啓 林 館 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元はじめのページに「学習のめあて」が設定されており、単元での学習内容を意識できるようになっている。 ○ 単元の導入では、単元のねらいに関わる問いかけを「考えてみよう」で示し、単元の最後に同じ問いかけを提示しているため、学びをふり返ることで自分の成長に気付くことができるようになっている。 ○ 単元末には「ふり返ろうまとめノート」で学習のまとめ方の例が示されまとめる習慣をつけられるようになっている。 ○ 「新しく学習した言葉」では、単元で学んだ用語を取り上げ、定着を図れるようにしている。 ○ 「たしかめよう」「活用しよう」では、単元で学んだ基礎的・基本的な知識・技能を定着させられるようになっている。 |
|-------------|--|

(1) 基礎・基本の定着

視点② 知識や概念の定着を図り、理解を深めるための工夫

日常生活や社会との関連付けを図る内容の扱い

補充的な学習や発展的な学習の分量、ものづくりの数

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-------------|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「理科のひろば」では、働く人へのインタビュー形式のコラムなどが掲載されており、学習内容が社会や生活とどのように結びつくのかイメージしやすくなっている。 ○ 「学びを生かして深めよう」では、学習内容を使って日常生活の事象などについて考え説明する問題があり、より深く学ぶことができるようになっている。 ○ 「学びをつなごう」では、下学年や他単元で学んだ内容を使って考え整理することで、知識を関連付けてより深く理解できるように工夫されている。 ○ ものづくりは、どの学年でも扱われている。 |
| 大 日 本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「りかのたまてばこ」では、学習に関連する資料を取り上げ、学習したことの有用性を感じられるようになっている。 ○ 「学びをリンク」では、学習内容に関係のある既習事項がまとめて示しており、深い学びにつながると考えられる。 ○ 巻末のページにまとめがあり、学んだことを活用してチャレンジ問題を解くようになっているため、知識を活用する力を伸ばすことができると考えられる。 ○ ものづくりはどの学年でも扱われているが、特に3年生で多い。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「資料」では、学習内容と仕事や暮らしに関する内容が取り上げられており、興味・関心を高めることができると考えられる。 ○ 「やってみよう」では、学んだことを生かして説明活動をすることで、理解を深められるようになっている。 ○ ものづくりはどの学年でも扱われているが、特に3年生で多く、6年生では少ない。 |

| | |
|-------------|---|
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「資料」や「科学のまど」において、生活や社会との関連事項が取り上げられており、興味・関心を高めることができると考えられる。 ○ 「学びを広げよう」では、学習したことをもとに日常生活の現象を説明する問題があり、理科の有用性やおもしろさを感じられるようになっている。 ○ 発展的な学習内容のページ数が多いため、さらに学習を深めたい児童への工夫がされている。 ○ ものづくりはどの学年でも扱われているが、特に6年生では少ない。 |
| 啓 林 館 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「理科の広場」で、社会や日常生活の関連事項が取り上げられ、興味・関心を高め、理科を学ぶ有用性を感じられるようになっている。 ○ 「活用しよう」では、学習したことを基に日常生活での事象を説明する問題があり、知識を応用する力や科学的に説明する力を養えるようになっている。 ○ ものづくりは、どの学年でも扱われている。 |

(1) 基礎・基本の定着

視点③ 観察・実験の技能を習得させるための工夫

観察・実験の準備と手順の扱いと観察・実験における安全確保について

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-------------|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 説明の番号と写真・図の番号が対応するように示されているので、実験・観察の手順を児童が理解しやすい。 ○ 器具の扱いについて、写真を多く使って手順を示すとともに、赤字の「きけん」マーク (X) の下に矢印でその理由も示しているため、なぜ気を付けなければいけないかを考えながら、安全に観察・実験を行うことができる。 ○ 巻末に観察・実験の基礎技能を掲載し、扱う単元とページも示している。また、3・4年生には、自然観察の注意事項も掲載しているため、安全に観察・実験するための基本的な技能を身に付けさせることができる。 |
| 大 日 本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 大きな写真を使い、短い説明文に番号を付けて説明しているため、実験・観察の手順を児童が理解しやすい。 ● 観察・実験における準備物の記載がないため、準備物を教科書で確認できない。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 器具の扱いは、作業を分解し縦の流れで一つ一つチェックできるよう示してあり、準備物もチェックできるよう示されているため、手順を確かめながら身に付けさせることができる。 ○ 巻末に観察・実験の基礎技能を掲載し、3・4年生には、自然観察の注意事項も掲載しているため、安全に観察・実験するための基本的な技能を身に付けさせることができる。 |

| | |
|-----|---|
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「注意」「きけん！」マークで気を付けるポイントを示すとともに、裏表紙には「理科の安全の手引き」を掲載してあるので、ページを探すことなく、すぐに安全のための基本的な技能を確認できる。 |
| 啓林館 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 実験・観察の手順とともに、実験中活用できる表が記載してあり、結果の整理につなげやすい。 ○ 「注意」マークの他、強い光・やけど・けが・はい液・かん気・保護眼鏡のマークで、気を付けるポイントを示しているので、注意すべきことが一目で分かる。 ○ 「みんなで使う理科室」が4ページにわたり掲載してあるので、基本的な理科室のきまりをおさえられる。 |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 興味・関心を高めるための工夫

興味・関心を高める問いかけの工夫及び単元の導入の工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 東書 | ○ 単元導入ページ数が多く、児童の「あれ？」「なんで？」を引き出すことをねらって、写真が多く使われていて、興味・関心が高まりやすい。 ○ 疑問をみつけ問題をつかむ構成になっており、児童の興味・関心を高める工夫がなされているのが分かる。 |
| 大日本 | ○ 単元はじめのページのキャラクターが、吹き出しで着眼点を示しており問題を見つけられるようにしており、興味・関心が高まりやすい。 |
| 学図 | ○ 単元のはじめのページに学習することが番号で示され、冒頭にめざすつきたい資質・能力が示されているため、児童がこの単元でどういう力をつけるのかが分かりやすい。 |
| 教出 | ○ 学習の進め方やその学年で「つきたい力」を巻頭で示しており、どのように学習したら良いかが分かる。 |
| 啓林館 | ○ 単元はじめのページに「学習のめあて」が示されており、これまでの学習を思い出したり、自分で問題を考えたりと、疑問が投げかけられているため、思考を促すことができる。 |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 問題解決の力を育成するための工夫

学習の進め方の示し方，問題解決の過程，課題発見の工夫，
問題解決能力の育成の扱い

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|------|---|
| 東書 | <p>○ 「理科のミカタ」として，どのような理科の見方・考え方を働かせて考えれば良いかをヒントで示している。また，「学んだことを使おう」と既習の内容も示しており，深い学びをサポートしている。</p> <p>○ 問題解決の過程に沿った表へのまとめ方を示し，変える条件，変えない条件を区別して条件制御の視点を示すとともに，表中に結果の見通しを位置づけており，理科の見方・考え方を働かせるような工夫がなされている</p> |
| 大日本 | <p>○ 巻頭の「理科の学び方」で学習の流れを示すとともに，問題解決に必要な「話し合いのしかた」を巻頭で示しているため，問題解決に必要な内容をおさえる工夫がなされている。</p> <p>● 問題解決の過程に沿ったノート例を示しているが，条件制御に関わる「変える条件」「変えない条件」という文言が，表外に示されており，分かりにくい。</p> |
| 学図 | <p>○ 巻頭の「科学の芽を育てよう」で学習の流れを示している。</p> <p>● 問題解決の過程に沿ったノート例を示しているが，条件制御に関わる言葉が「調べる条件」「そろえる条件」と言葉の意味が対義ではないのが分かりにくい。</p> |
| 教出 | <p>○ 巻頭の「学習の進め方」で学習の流れを示している。</p> <p>● 問題解決の過程に沿ったノート例をしめしており，条件制御に関わる「変える条件」「同じにする条件」を示しているが，結果や結果の見通しは表中に示していない。</p> |
| 啓林館 | <p>○ 巻頭の「自然の不思議をとき明かそう！」で学習の流れを示している。</p> <p>● 条件制御に関わる説明として「1つの条件について調べるときには，調べる条件だけを変えて，それ以外の条件はすべて同じにします。」としているが，同じにする条件を結果の横に分けて示しており，分かりにくい。</p> |

(3) 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 単元や資料等の配列

判型，ページ総数，単元数，単元以外の数と特徴

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|------|---|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 総ページ数の学年平均197ページ。A4判で大きくページ数が少なめで、全体的に画像などを大きく示し、軽量化も図られている。 ○ 単元配列は、季節的な学習の適期，実験器具や理科室の使用が学年で重ならないなど配慮されている。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻末には十数ページを使って，ノートの使用方や調べ方，振り返り，チャレンジ問題などがまとめてあり，基本的事項を押さえるのに適している。 ○ 単元配列は，学習の適期に配列され，同一実験器具や理科室の使用が学年間で重複しないように配慮されている。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の配列は最も扱いやすい時期に設定されている。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ● 巻末などのまとめのページが少なく，基本的事項は各ページに示されている。 ○ A区分の配列は，理科室や器具・機器の重複がないように，B区分の各単元の配列はどの地域でも無理なく学習できるように配慮されている。 |
| 啓林館 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元は季節に応じて適期に設定され，余裕をもって構成されている。 ○ 巻末十数ページには「フムロウはかせの資料室」として調べ方，器具の使用方などをまとめて掲載してあり，基本的事項を押さえるのに適している。 |

(3) 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 社会の変化に伴う課題への対応

防災・減災に対する内容，プログラミングの体験に対する内容

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|-------------|---|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 5, 6年に3つの小単元を設けている。また「理科のひろば」において、防災・減災に関する内容を扱っている。 ○ 単元の初めに自然災害を扱う際の留意点が記載され、配慮がある。 ○ プログラムをシミュレーションしたり、体験したりする例を多数紹介している。また、センサーとプログラミングを組み合わせたものづくりの小単元を設けていて、児童の実態に合わせて活動を選択できる。 |
| 大 日 本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 防災マークで関係する箇所を示し、分かり易い。 ○ 5年に「台風と防災」という大単元を設け、巻末資料に「災害に備えようブック」を掲載するなど生活との関連が図られている。 ○ 「りかのたまてばこ」「深めよう」や単元末の問題において、防災・減災に関する内容を扱っている。 ○ プログラミングと体験が基礎編（1つの条件）、応用編（2つの条件）と段階的に学習できる。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 防災マークで関係する箇所を示し、わかりやすい。 ○ 5, 6年に小単元を設けるとともに「しらべてみよう!」「資料」において、防災・減災に関する内容の扱いがある。 ● 単純なプログラミングがシミュレーターを使って体験できるようになっているが、実際に動かす体験までは示されていない。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ● 5, 6年に小単元や「資料」、単元末の問題において、防災・減災に関する内容を扱っているが、4年生には取り扱いがない。 ● プログラミングは「チャレンジ」として紹介されており、説明を主体とした内容で、プログラミング体験としてはふさわしくない。 |
| 啓 林 館 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 第4～6学年に5つの小単元を設け、「つなげよう」や単元末の問題において、防災・減災に関する内容を扱っている。 ○ 該当単元の初めにはPTSDへの配慮がある。 ○ 巻末の「シート&シール」を用いて、条件と動作の組み合わせを思考させた上で（思考の整理を行った上で）、プログラミング体験ができ、プログラミング的思考に適している。 ○ 教科書サイトのシミュレーターでプログラミングできる。 |

(4) 内容の表現・表記

視点⑧ 本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用の工夫
 巻頭・巻末等の資料の扱い、写真・図表等の示し方の工夫、
 キャラクターやマーク等の活用

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-------------|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年、裏表紙の前のページに付録が付いている。特に6学年は組み立て式の付録なので、人体の様子を立体的に理解しやすい。 ○ ポイントになる箇所の写真が大きく示されているため理解しやすい。 ○ 漫画のようにイラストと吹き出しを使って学習課題を提示しているため興味をもって学習内容を把握しやすい。 ○ キャラクターが考えるポイントや思考の流れを提示しているため、めあてに沿った学習の手立てになりやすい。 |
| 大 日 本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年、裏表紙の前のページに付録が付いているため、補助教材として活用できる。 ○ 巻末のページにまとめや学んだことを活用して解くチャレンジ問題があるため、既習の知識を活用して考える力を伸ばすことができると考えられる。 ○ キャラクターが学習の留意点や考えるポイント、学習のまとめ等を提示しているため、学習内容を定着させる手立てになりやすい。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「注意」という見出しやポイントになる言葉や文を朱書きで提示しているため、大切な箇所の意識付けができる。 ○ キャラクターが会話形式で疑問点や結果、思考の流れを提示しているため学習の流れを把握しやすい。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭や巻末には、その学年の学習内容に関する科学の専門家からのメッセージを掲載するとともに、学習内容と関連する科学の功績を「科学の研究者たち」として掲載しているため、科学に関する興味・関心を高めることができる。 ○ キャラクターが学習の進め方を提示しているため、学習の流れを把握しやすい。 ○ 6年生の「人や他の動物の体」では、人体の前面と背面の様子を折り込みのページで提示しているため、イラストが大きく分かりやすい。 |
| 啓 林 館 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の冒頭では、関連のある写真を見開きで大きく提示してあるとともに、学習のめあてを提示しているため、学ぶことが明確になり見通しをもって学習しやすい。 ○ キャラクターが吹き出しで考える手立てやヒントを提示しているため、学習の流れを把握しやすい。 |

(5) 言語活動の充実

視点⑨ 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫
考察文の記述例、考察文の要素

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | ○ 箇条書きでまとめているため、ポイントを把握しやすい。 |
| 大日本 | ○ 箇条書きでまとめている。ポイントを把握しやすい。 ○ 考察では、予想したことなどを振り返りながら、友達と話し合っただけで考えをまとめている。深い学びへとつなげることができる。 ● 考察文が短い。そのため、学習内容のポイントを幅広くつかむことができにくい。 |
| 学図 | ○ 箇条書きでまとめている。ポイントを把握しやすい。 ○ 考察文の内容に事象を解釈した考察文を掲載している箇所がある。事象についての理解を深めることができる。 |
| 教出 | ● 箇条書きではなく、一文が長い箇所がある。箇条書きとくらべると、ポイントをとらえにくい。 |
| 啓林館 | ○ 箇条書きでまとめているため、ポイントを把握しやすい。 |

(5) 言語活動の充実

視点⑩ 科学的な言葉や概念を使用して自分の考えを論述する活動の工夫
話し合いや説明の活動を促す工夫、話し合いの具体例

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 東書 | ○ 生活場面や身近な資料から児童の対話を吹き出しで示して、疑問を引き出し、学習課題へつなげる導入の工夫がなされている。 ○ 対話を通して、自らの考えを見直す場面である「○○を見直そう」が設定してある。友達を受け入れて、自分の考えを見直すことで、深い学びへとつなげることができる。 ○ 巻末に「発表のしかた」「話し合いのしかた」として、発表や話し合いの際の留意点を示している。留意点を意識させることで発表及び話し合いの質を向上させることができる。 |

| | |
|-------------|---|
| 大 日 本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習過程の「予想しよう」「考えよう」において、机をはさんで話し合う形で児童の対話を示している箇所がある。また、児童の対話の文末が「…」で表現されている箇所がある。対話のイメージを持つことができるとともに、ヒントとして対話のきっかけにすることができる。 ○ 考察では、予想したことを振り返りながら、友達と話し合っただけを考えをまとめる場面を設定している。友達との交流を通して、学びを深めることができる。 ○ 巻頭に「話し合いのしかた」として、話し合いの際の留意点を示している。留意点を意識させることで、発表の質を向上させることができる。 |
| 学 図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習過程に関係づけられた項目において、児童の対話を示している箇所がある。対話の文末が「…」で表現されている箇所がある。対話のイメージを持つことができるとともに、ヒントとして対話のきっかけにすることができる。 ○ 「活用 学びを生かそう」において、説明活動を設定している。 ○ 巻末に「伝える・聞く」として、発表の際の留意点を示している。留意点を意識させることで、発表の質を向上させることができる。 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の導入や「見つけよう」「問題」「予想しよう」「計画しよう」「結論」といった学習過程において、教師の問いかけに答える形で児童の対話を示している箇所がある。対話のきっかけにできるとともに対話のイメージを持つことができる。 ○ 各単元の終末に配置した「たしかめ」には、日常生活で見られる事象について説明する設問が掲載されている。学習内容と身近な事象をつなげて考えることで、学びを深めることができる。 ○ 巻頭に「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」として、説明する際の留意点を示している。留意点を意識させることで、伝え合いの質を向上させることができる。 |
| 啓 林 館 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「問題をつかもう」「予想」「予想と計画」「観察したことを伝え合おう」といった学習過程において、教師の問いかけに答える形や机を挟んで話し合う形で児童の対話を示している箇所がある。対話のきっかけにできるとともに対話のイメージを持つことができる。 ○ 「問題をつかもう」では、見つけた「不思議」について、児童の話し合いから問題を見つけることができるようになっている。主体的な学びへとつなげることができる。 ○ 単元末に「活用しよう」を設け、図や写真から必要な情報を読み取って考察する問題を扱っている。知識を応用する力や科学的に説明する力が養えるようになっている。 ○ 巻末に「話し合いのしかた」として、話すときと聞くときの留意点を示している。留意点を意識させることで、話し合いの質を向上させることができる。 |

種 目 名 (生 活)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 具体的な活動や体験を通して学ぶための工夫
- ② 自分と身近な人々，社会及び自然との関わりに関心をもつための工夫
- ③ 自分自身や自分の生活について考えるための工夫
- ④ 生活上必要な習慣や技能を身に付けるための工夫

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ⑤ 興味・関心を高めるための工夫
- ⑥ 振り返り表現する活動の工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

- ⑦ 単元や資料等の配列及び分量

(4) 内容の表現・表記

- ⑧ 本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

(5) 言語活動の充実

- ⑨ コミュニケーション活動を通じた他者との情報交流の設定

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

視点①具体的な活動や体験を通して学ぶための工夫

<学習活動の流れと飼育単元に掲載されている生き物の例について>

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <p>上巻「いきものとなかよし」</p> <p>①むしをさがそう②むしとなかよくなるう と学習活動を進め、次の生き物についてすみかや飼育の方法を示している。</p> <p>◆ショウリョウバッタ◆オンブバッタ◆コオロギ◆ウサギ◆ハムスター◆モルモット</p> <p>○巻末の「ポケットずかん」は、外に持ち出して使える。</p> <p>○「手をあらおうマーク」で活動する際に注意することを示している。</p> <p>○「やってみよう」では「みんなでどうぶつをかおう」と児童自身で活動ができるように発展していく単元構成になっている。</p> <p>下巻「生きものなかよし大作せん」</p> <p>①生き物のことを話そう②生きものをさがそう③生きものをそだてよう④生きものをつたえ合おう と学習活動を進め、次の生き物についてすみかや飼育の方法を示している。</p> <p>◆ダンゴムシ◆カエル◆アゲハ◆トンボ◆ザリガニ</p> <p>○写真資料が多い。被写体が鮮やかで大きく、分かりやすい。資料・写真から成長の様子を知ることができる。</p> <p>○ふきだしによって、児童がどんなことに気付くことができればよいのか、学習のポイントが分かりやすい。</p> <p>○QRコードを読み取ることで、画像や動画などの資料をインターネットで見ることができる。</p> |
| 大日本 | <p>上巻『あきとなかよし』『いきものとなかよし』</p> <p>①どんなむしがみつかるかな②むしのおうちをつくったよ③むしのふしぎをみつけたよ④おしえてあげるね と学習活動を進め、次の生き物についてすみかや飼育の方法を示している。</p> <p>◆カマキリ◆コオロギ◆テントウムシ</p> <p>○「がくしゅうどうぐばこ『むしむしむし』」で色々な虫を紹介している。</p> <p>下巻「生きものはっけん」</p> <p>①どんな生きものがいるのかな②見つけたよ！かってみたいな③大切にするよ④生きものひみつはっけん と学習活動を進め、次の生きものについて、すみかと飼育の方法を示している。</p> <p>◆ザリガニ◆やご◆カタツムリ◆ダンゴムシ</p> <p>○巻末の「がくしゅうどうぐばこ」に16種類の生きものが掲載されており、セミの一生・カブトムシの一生として、成長の様子も知らせている。</p> <p>○QRコードを読み取ることで、画像や動画などの資料をインターネットで見ることができる。</p> <p>●見出しが読みにくい。</p> |

| | |
|--------|---|
| 学 図 | <p>上巻『いきものだいすき』</p> <p>①なかよくなろう②もつとなかよくなろう③もるもつとだいすき④むしだいすき⑤むしをかおう と学習活動を進め、[ちゃれんじずかん]でモルモットの飼育を扱っている。</p> <p>○巻末「学びかたずかん」の中で、見つけたものをどのような視点で見ればよいのか紹介している。</p> <p>下巻「生きものとともにだち」</p> <p>①生きものをさがそう②生きものをかおう③生きもののふしぎを見つけよう と学習活動を進め、次の生き物についてすみかや飼育の方法を示している。</p> <p>◆モルモット◆ダンゴムシ◆おたまじゃくし◆やご◆アゲハ◆キリギリス◆アリ</p> <p>○生きものの様子を大きく写真で示してあり、手足の数や動きなどが分かりやすい。</p> <p>○QRコードを読み取ることで、更に詳しい飼育の仕方を知ることができる。</p> |
| 教 出 | <p>上巻『なかよくなろうね 小さなともだち』</p> <p>①生き物をさがそう②じぶんたちでそだてよう③なにをかんだかな と学習活動を進め、次の生き物について、すみかや飼育の方法を示している。</p> <p>◆モルモット◆ダンゴムシ◆コオロギ◆チャボ</p> <p>下巻「めざせ生きものはかせ」</p> <p>①生きものをつかまえよう②生きものをかってみよう③生きもののことを伝えあおう④なにをかんだかな と学習活動を進め、次の生き物についてすみかや飼育の方法を示している。</p> <p>◆シオカラトンボ◆クロオオアリ◆ショウリョウバッタ◆アゲハ</p> <p>○巻末の「学びのポケット」で思考ツールが活用できるように、子どもたちに分かりやすく紹介している。</p> <p>○QRコードを読み取ることで、画像や動画などの資料をインターネットで見ることができる。</p> |
| 信 教 | <p>教材見本がないため、調査研究不可能。</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>光村</p> | <p>上巻「いきものとなかよし」 ①どんないきものとなかよくなりたかな②はじめましてこんにちは③ずっと大すき④めざせいきものはかせ と学習活動を進め、次の生き物についてすみかや飼育の方法を示している。 ◆モルモット◆ダンゴムシ◆ショウリヨウバッタ</p> <p>下巻「小さな友だち」 ①なにがいるかな、どこにいるかな②かってみたいな、できるかな③みんな生きている と学習活動を進め、次の生き物について、すみかや飼育の方法を示している。 ◆ダンゴムシ◆アメリカザリガニ◆アゲハ ○ホップ、ステップ、ジャンプで「見つける」から「振り返る」までの過程を分かりやすく3段階で示している。 ○QRコードを読み取ることで、画像や動画などの資料をインターネットで見ることができる。 ●飼育の場面がイラストなので、写真に比べると分かりにくい。</p> |
| <p>啓林館</p> | <p>上巻「生きもの大すき」 ①生きものにあいにいこう②生きものとふれあおう③見つけたことをしようかいしょう④どうぶつとなかよくなろう と学習活動を進め、次の生き物について、すみかや飼育の方法を示している。 ◆モルモット◆オンブバッタ◆コオロギ◆ダンゴムシ◆ナナホシテントウ</p> <p>下巻「みんな生きている」 ①生きものをさがそう②大切に育てよう③生きものをよく見よう④はっけんしたことを知らせよう と学習活動を進め、次の生き物について、すみかや飼育の方法を示している。 ◆アゲハ◆やご◆クワガタ・カブトムシ◆おたまじゃくし◆ダンゴムシ◆カニ ○巻末の「がくしゅうずかん」で学習の仕方や注意事項などを具体的に紹介している。 ○手洗いマークで注意を促している。 ○QRコードを読み取ることで、更に詳しい飼育の仕方を知ることができる。</p> |
| <p>日文</p> | <p>上巻「生きものとなかよくなろう」 ①生きものにあいにいこう②生きものとふれあおう③生きものをつたえよう と学習活動を進めている。 ○手洗いマークで注意を促している。</p> <p>下巻「生きものはかせになろう」 ①生きものをさがすじゅんぴをしよう②生きものをさがそう③生きものの世話を考えよう④じっくりかんさつしよう⑤生きもののひみつをつたえよう と学習活動を進め、次の生き物についてすみかや飼育の方法を示している。 ◆モルモット◆ダンゴムシ◆ショウリヨウバッタ◆メダカ◆モンシロチョウ◆おたまじゃくし◆カタツムリ ○飼育の仕方を複数ページに渡り紹介しており、えさが具体的で分かりやすい。 ○まとめ方が具体的に詳しく紹介してある。</p> |

(1) 基礎・基本の定着

視点②自分と身近な人々，社会及び自然との関わりに関心をもつための工夫

<地域で生活したり働いたりしている人々とかかわる場や四季の変化に関心をもつための工夫について>

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) | |
|------|--|--|
| | 人々とかかわる場 | 四季の変化に関心を持つ工夫 |
| 東書 | <p>◎商店で働く人，見守り隊の人，交番で働く人，図書館で働く人，安全パトロールの人，野菜を育てる人，幼稚園で働く人，消防署で働く人，公民館など公共施設で働く人，町で出会った人と児童の関わる様子</p> <p>○春夏秋冬の町の同じ場所に出かける場が設定してあり，季節による違いに気付かせる工夫がしてある。</p> | <p>上巻 校庭，公園 夏：16ページ 秋：17ページ 冬：13ページ</p> <p>下巻 学校の周り，町全体 春：6ページ 夏：3ページ 秋：4ページ 冬：4ページ</p> <p>○同じ商店街が季節ごとの特徴をとらえた挿絵になって紹介されている。</p> <p>○同じ場所の多様な事柄の季節の変化を挿絵で紹介している。地域に伝わる遊びや伝統行事を写真で紹介している。</p> |
| 大日本 | <p>◎商店で働く人，子ども110番の家の人，交番で働く人，野菜を育てる人，妊婦さん，老人ホームの人，工場で働く人，図書館で働く人，消防署で働く人，公園で出会った車いすの人と児童が関わる様子。</p> <p>○春と秋の2回設定してある。</p> <p>●季節の違いや出会いの変化など，明確ではない。</p> | <p>上巻 校庭 夏：2ページ 秋：2ページ 冬：2ページ</p> <p>下巻 春：2ページ 夏：2ページ</p> <p>○同じ大樹を背景に，児童の服や木の変化を表している。</p> <p>○校庭の桜を写真で示している。</p> |
| 学図 | <p>◎田畑で働く人，商店で働く人，図書館で働く人，消防署で働く人，老人福祉施設で働く人や施設を利用している人（白い杖を使う人，手話を使う人），公園で出会った人と児童が関わる様子。</p> <p>○繰り返し町に出かける場の設定がしてある。</p> <p>●季節の違いや出会いの変化など明確でない。</p> | <p>上巻 公園 春：2ページ 夏：2ページ 秋：2ページ 冬：2ページ</p> <p>下巻 春：2ページ 夏：2ページ 秋：2ページ 冬：2ページ</p> <p>○季節の変化について鮮やかな写真で示してある。</p> <p>○町の同じ場所の四季の移り変わりをイラストで紹介している。各地のようすとして，地域に伝わる遊びや伝統行事を写真で紹介している。</p> |

| | | |
|------------|--|--|
| <p>教出</p> | <p>◎商店で働く人，消防署で働く人，飲食店で働く人，駅で働く人，図書館で働く人，公民館で働く人や施設を利用する人，交番で働く人，町で出会った人と児童が関わる様子。</p> <p>○町探検から，インタビューをする，仕事にチャレンジすると発展した活動が計画されている。</p> | <p>上巻 公園 春夏：2ページ 秋：2ページ 冬：2ページ 巻末に春夏秋冬の植物図鑑 下巻 春：2ページ 夏：2ページ 秋：2ページ 冬：2ページ ○町の同じ場所の様子をイラストで示している。</p> |
| <p>信教</p> | <p>教材見本がないため，調査研究不可能。</p> | |
| <p>光村</p> | <p>◎公園を掃除する人，畑で働く人，商店で働く人，駅で働く人，こども110番の家の人，消防署で働く人，図書館で働く人，公民館を利用する人，車椅子の人と児童がかかわる様子</p> <p>○繰り返しまちに出かける場の設定がしてある。</p> <p>●季節の違いは明確ではない。</p> | <p>上巻 公園 夏：2ページ 秋：2ページ 冬：2ページ 下巻 春：2ページ 夏：2ページ 秋：2ページ 冬：2ページ ○町の同じ場所の様子をイラストで示している。</p> |
| <p>啓林館</p> | <p>◎見守り隊の人，米作りをする人，商店で働く人，警察署で働く人，畑で働く人，消防署で働く人，駅で働く人，図書館で働く人，公民館で働く人，飲食店で働く外国の人，老人福祉施設の人，盲導犬を連れて歩く人，伝統工芸を受け継ぐ人と児童が関わる様子</p> <p>○春と秋の2回，町の同じ場所に出かける場が設定してある。</p> | <p>上巻 校庭 春：2ページ 夏：2ページ 秋：2ページ 冬：2ページ 下巻 春：2ページ 夏：2ページ 秋：2ページ 冬：2ページ ○校庭の同じ場所の様子をイラストで示している。 ○「きせつだより」として写真と挿絵で季節の変化や地域に伝わる伝統行事を紹介している。</p> |
| <p>日文</p> | <p>◎公民館で働く人や利用する人，駅で働く人，果樹園で働く人，畑で働く人，商店で働く人，図書館で働く人や施設を利用する人，幼稚園か保育所の先生と児童が関わる様子。</p> <p>○連続して人と関わる場が設定してあり，インタビューや体験を行う場が設定してある。</p> | <p>上巻 公園 春夏：2ページ 秋：2ページ 冬：2ページ 下巻 春夏秋冬：2ページ ○公園の同じ場所の季節の変化をイラストで示している。 ●下巻は，季節の変化の違いを感じるような場面を取り上げた写真資料はない。</p> |

(1) 基礎・基本の定着

視点③自分自身や自分の生活について考えるための工夫

<学習活動の中で自分の生活や成長について気付かせる工夫について>

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 東書 | <p>上巻</p> <p>○自分の一日の生活を見つめ直し、自分の役割やできる仕事に気付かせる工夫がされている。新しい1年生を招待し、交流することを通して自分の成長に気付かせる工夫がされている。</p> <p>下巻</p> <p>○「大きくなった自分のことを・・・」というテーマで行う様々な活動(友だちのすてきなところをカードに書いて伝え合う活動,自分ができるようになったことを多様な形式でまとめる活動,お世話になった人にありがとうの気持ちを伝える活動)を通して、お互いの成長や自分の成長に気付く工夫がされている。</p> |
| 大日本 | <p>上巻</p> <p>○1年間を振り返り、できるようになったことを見つけたり、新しい1年生を迎える会を準備したりすることを通して、自分の成長に気付く工夫がされている。また、自分たちが使った教室の掃除を通してみんなに迎えられた感謝の気持ちを持ち、進級への期待をもたせる工夫がされている。</p> <p>下巻</p> <p>○友達のスてきな所をカードに書いて伝え合う活動や、自分の小さかった頃のことについて家族や身近な人に聞き取る活動をもとに自分のはっけんブックを作成することで、自分の成長に気付く工夫がされている。また、発表会やありがとうカードを届ける活動を行うことで、感謝の気持ちに気付く工夫がされている。</p> |
| 学図 | <p>上巻</p> <p>○長期間の栽培飼育単元では、記録を重視し、それをもとに振り返り、自分の成長を自覚できる構成になっている。</p> <p>○家庭の仕事を見付け、自分の役割やできる仕事を見付け、新たにチャレンジする活動を通して、自分の成長や家族の一員としての役割に気付かせる工夫がされている。また、1年間を振り返り、できるようになったことを見付け、新しい1年生を招待する会を準備する活動を通して、自分の成長に気付かせる工夫がされている。</p> <p>下巻</p> <p>○自分ができるようになったことをカードに書く活動や、友達のスてきな所をカードに書いて伝え合う活動、自分の小さかった頃のことについて家族や身近な人に聞き取る活動をもとに、自分のことを一枚にまとめることで、自分の成長に気付くと共に、自分を支えてくれる友達や大人に気付く工夫がされている。</p> |
| 教出 | <p>上巻</p> <p>○自分や家族の1日を調べることを通して、多くの仕事に気付く工夫がされている。また、家族を喜ばせるための活動を促し、自分のできることに気付く工夫</p> |

| | |
|----------------|--|
| | <p>がされている。</p> <p>○学びの軌跡を残す「書きこみ欄」が何か所もあり、それを振り返ることで自分の成長に気付く工夫がされている。</p> <p>○1年間の思い出を交流し友だちのよさに気付いたり、新しい1年生を招待することで自分の成長に気付いたりする工夫がされている。</p> <p>下巻</p> <p>○学びの軌跡を残す「書きこみ欄」が何か所もあり、それを振り返ることで自分の成長に気付く工夫がされている。</p> <p>○自分ができるようになったことを前の自分と比べて考えたり、自分のすてきについて友だちにカードに書いてもらったり、周りの人から聞き取ったりする活動を通して、自分の成長に気付くことができるよう工夫されている。</p> |
| <p>信 教</p> | <p>教科書見本がないため、調査研究不可能。</p> |
| <p>光 村</p> | <p>上巻</p> <p>○家族を喜ばせるために自分のできることを見付ける活動を通して、今の自分の役割や成長に気付かせる工夫がされている。</p> <p>○新しい1年生を招待する会での交流を通して、自分の成長に気付かせる工夫がされている。</p> <p>○单元ごとに、自分が書いた活動の振り返りシールを貼ることで、自分の学びを振り返ることができる。また、それらのシールを一つにまとめて貼り直すことで、1年間の学習全体を振り返り、自分の成長を実感できるように工夫がされている。</p> <p>下巻</p> <p>○今の自分を振り返り、これまでの様子について家族や身近な人から聞き取ったことを、多様な方法で表現し発表することで、自分の成長に気付く工夫がされている。</p> <p>○单元ごとに、自分が書いた活動の振り返りシールを貼ることで、自分の学びを振り返ることができる。また、それらのシールを一つにまとめて貼り直すことで、1年間の学習全体を振り返り、自分の成長を実感できるように工夫がされている。</p> |

| | |
|----------------------|--|
| <p>啓 林 館</p> | <p>上巻 ○家族の笑顔を広げようと、自分ができることにチャレンジする体験を通して、自分の成長に気付く工夫や感謝の気持ちを手紙に書いて伝える工夫がされている。</p> <p>○1年間の思い出を振り返り、自分ができるようになったことに気付き、友だちから「すてきカード」で認めてもらうことで、自信をもって新1年生を迎えることができるように工夫されている。</p> <p>下巻 ○自分の得意なことやできるようになったことを紹介し合い、大きく成長した自分を振り返っている。そして、以前の自分や小さいときの自分について身近な人から聞き取ったことをもとに、自分の成長の様子を多様な方法でまとめ表現することで、自分の成長を実感できるように工夫がされている。</p> |
| <p>日 文</p> | <p>上巻 ○家族の一日を思い出し、自分にできることにチャレンジし、やってみて分かったことをみんなに伝える活動を通して、自分の成長に気付く工夫がされている。</p> <p>○1年間を振り返り、できるようになったことの発表会を通して自分の成長に気付き、自信をもって新しい一年生を招待できるように工夫がされている。</p> <p>下巻 ○自分や友達のいいところをカードに書いて伝え合い、自分の小さいころの様子について身近な人から聞き取ったことをもとに、成長のひみつを見つけ、多様な方法で自分のものがたりをまとめて発表する活動を通して、自分の成長に気付く工夫がされている。また、お世話になった人に感謝の気持ちを伝える活動を通して、感謝の気持ちをもつ工夫がされている。</p> |

(1) 基礎・基本の定着

視点④生活上必要な習慣や技能を身に付けるための工夫

<生活やきまりや安全、道具の使い方等についての記述について>

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <p>上巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外での活動のページには、どのページにも「手をあらおう・うがいをしよう」のマークで手洗い・うがいを促している。 ○「やくそく」コーナーでは、きまりや安全について気をつけることを絵で表し、考えさせるように工夫している。特に毒虫については写真で掲載し注意を促している。 ○巻末に「かつどうべんりてちょう」を設け、安全、健康、礼儀や、道具の安全な使い方、片付け方について掲載している。 ○「つうがくろのあんぜん」や「がっこうのあんぜん」のページでは、登下校の安全や避難の仕方などについて記載している。 <p>下巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外での活動や生き物のお世話のページには、「手をあらおう・うがいをしよう」のマークで手洗い・うがいを促している。 ○「やくそく」コーナーでは、きまりや安全について気をつけることを絵で表し、考えさせるように工夫している。特に毒虫については写真で掲載し注意を促している。 ○巻末に「かつどうべんりてちょう」を設け、防災、防犯、交通安全、衛生・健康や道具の安全な使い方、片付け方を掲載している。 |
| 大日本 | <p>上巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○命ある生き物との接し方や、お世話の仕方、約束などが記載されている。また、危険な生き物、安全な遊び方など、生活や安全に関する注意喚起を行っている。 ○巻末の「がくしゅうどうぐばこ」では、道具の上手な使い方や、自分の安全は自分で守るために必要な防犯や防災、交通安全の基本的な方法を記載している。 <p>下巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外での活動や作品づくり、おもちゃの遊び方のページでは、道具の使い方や遊び方等、活動に際しての注意や安全への配慮を促している。 ○雨の日の安全について、気をつけることを記載している。 ○町探検では、約束、礼儀、安全面について記載し、仲間と相談しながら計画的に進め、助け合うことの大切さも実感できるように工夫されている。 ○巻末の「がくしゅうどうぐばこ」では、生活に役立つ活動例や、乗り物の利用の仕方等を記載している。 |

| | |
|--------|--|
| 学 図 | <p>上巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生き物となかよくなろう」のページでは、「ちゅうい」マークで、衛生面での注意喚起を行っている。 ○「ものしりノート」では、作り方や遊び方、道具の使い方を記載している。 ○「学び方図かん」では、育て方や遊び方について記載している。 ○巻末「あんぜんのぺえじ」では、防災や避難のしかたについて記載している。 <p>下巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ものしりノート」では、乗り物の利用の仕方やまちの工夫、生き物の育て方、手作りおもちゃの作り方や遊び方、道具の使い方等を記載している。 ○毒虫が写真入りで載せてある。 ○外での活動や作品作りのページに「やくそく」や「ちゅうい」マークで、生活や安全について注意喚起を行っている。 ○巻末の「生活科学び方図かん」には、道具の安全な使い方を記載している。 ○巻末「あんぜんのページ」では、防災や避難のしかたについて記載している。 |
| 教 出 | <p>上巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外での活動のページには、マークで手洗い・うがいを促している。 ○「あんぜんなせいかつ」として、通学路や学校の安全について、安全を守る人や施設、方法により守られていることを記載している。 ○毒虫、毒蛇の写真を載せている。 ○活動のページでは、「やくそく」コーナーで、安全について注意喚起を行っている。 ○巻末の「まなびのポケット」内の「どうぐをつかおう」では、道具の安全な使い方について、「おぼえてあんぜん」では、防犯や防災について記載している。 <p>下巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外での活動のページには、マークで手洗い・うがいを促している。 ○活動のページでは、「やくそく」コーナーで、安全について注意喚起を行っている。 ○巻末の「まなびのポケット」では、「どうぐをつかおう」「おぼえてあんぜん」「のりものにのろう」として、生活や安全について記載している。 |
| 信 教 | 教科書見本がないため、調査研究不可能。 |
| 光 村 | <p>上巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「！」注意マークで、手洗い・うがいを促している。 ○「なかよし みつかる つうがくろ」では、「どうすれば」コーナーで、安全な通学路について考えさせている。 ○「あきを たのしもう」では、約束を守ることや、安全な道具の使い方について記載している。 <p>下巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「！」注意マークで、手洗い・うがいを促している。 ○「どうすれば」コーナーで、安全な町探検の仕方や、道具の安全な使い方について考えさせている。 ○巻末の「ひろがる 生活じてん」では、避難時の約束や、道具を使う時の安全性について記載されている。 |

| | |
|-------------|--|
| 啓 林 館 | <p>上巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャラクターが吹き出しで安全についての注意喚起を行っている。 ○活動時の手洗いマークや注意マーク「！」で、安全について注意喚起を行っている。 ○「あんしん あんぜん」のページでは、通学時の交通安全や防犯，災害時での避難の仕方を記載している。 ○「なつやすみをたのしもう」のページで、夏休みの生活上での安全について記載している。 ○巻末の「がくしゅうずかん」では、「けんこうにすごそう」で衛生面の、「どうぐをつかおう」で安全な道具の使い方について記載している。 <p>下巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャラクターが吹き出しで安全について注意喚起を行っている。 ○活動時に、手洗いマークや注意マーク「！」で、安全について注意喚起を行っている。 ○巻末の「がくしゅうずかん」では、「のりものにのろう」「町のくふう」「どうぐをつかおう」で、生活やきまり，安全面について記載している。 |
| 日 文 | <p>上巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みのまわりの あんぜん」では、校内の安全や災害時の避難の仕方，通学路の交通安全や防犯について記載されている。 ○「ポケットずかん」のコーナーの中に、おもちゃのつくり方や遊び方，安全に関する情報や道具の使い方が記載されている。毒虫の写真が載せてある。 ○「きせつとあそぼう」「生きものとなかよくなろう」のページでは、手洗いのマークや、活動のやくそくが書いてあり，さらに，アレルギーや熱中症などに対する注意喚起もしている。 ○「つうがくろを あるいてみよう」のページでは，安全を見守ってくれる人や施設，看板などの印について記載されている。 ○巻末の「ちえと わざの たからばこ」では，用具の正しい使い方や，生活上の安全や防犯，健康的な生活について記載されている。 <p>下巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○しせつをたんけんする時の約束や礼儀，気をつけることなどを記載している。 ○「ポケットずかん」のコーナーの中に，町の安全に関するマークや施設，おもちゃの作り方や遊び方が記載されている。 ○巻末の「ちえと わざの たからばこ」では，用具の正しい使い方や，生活上の安全や防犯，健康的な生活について記載されている。 |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤興味・関心を高めるための工夫

<上巻：学校探検 下巻：栽培単元の導入の工夫の比較>

| 発行者 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-----|--|
| 東書 | <p>上巻</p> <p>○保健室がメインのイラストになっており、調べやすそうな雰囲気になっている。</p> <p>下巻</p> <p>○単元扉に夏野菜が大きく写った写真が使われており、育てる野菜をイメージしやすい。</p> |
| 大日本 | <p>上巻</p> <p>○単元扉が写真ではなくイラストになっており、次のページにも具体的な活動（じゃんけん列車、名刺交換、手遊びなど）がすっきりとしたイラストで描かれているので、やってみたくなる。</p> <p>下巻</p> <p>○収穫した後の調理例の写真、ジャムの作り方などを掲載し、やってみたいと思わせる工夫がされている。</p> <p>●イチゴとエンドウの例が導入になっているが、昨年度末からの継続のようなワークシートになっているので、分かりにくい。</p> |
| 学図 | <p>上巻</p> <p>○何かを覗き込んでいる子どもたちの写真が使われており、調べてみたくなる。</p> <p>○子どもの吹き出しが次の活動につながっている。</p> <p>下巻</p> <p>○たくさんの収穫された野菜をもっている写真が使われており、育ててみたくなる。</p> <p>○吹き出しを読むと、何が必要でどんなことをしていくかの見通しをもつことができる。</p> |
| 教出 | <p>上巻</p> <p>○単元扉の写真では、子どもたちがどこかの部屋を覗いているが、その先が見えないようになっている。何があるのか、何があるか調べたいと思わせる工夫となっている。</p> <p>下巻</p> <p>○トマトを収穫し、においをかいでいる男の子の写真が五感を刺激する。</p> |
| 信教 | 教科書見本がないため、調査研究不可能。 |
| 光村 | <p>上巻</p> <p>○校内の場所だけではなく、働く人にも意識が向くようなイラストになっている。</p> <p>●給食室やうさぎの飼育小屋などが学校実態と合いにくい。</p> <p>下巻</p> <p>○単元扉に給食や芋ほり・夕食など、様々な場面が描かれており、野菜の栽培や活用を身近に感じることができる。</p> |

| | |
|-------------|--|
| | ●野菜の写真が大きすぎて、苗の写真と結びつきにくい。 |
| 啓 林 館 | 上巻 ○单元扉とわくわくボックス（遊具、校内備品などがシルエットクイズになっている）を使い、意欲を喚起している。 下巻 ○わくわくボックスの写真が大きく、育ててみたいという意欲を喚起している。また、収穫後の料理写真があり、さらに栽培意欲が高まる。 ●扉写真の写真自体は大きい、イメージがわきにくい。 |
| 日 文 | 上巻 ○单元扉写真では、男の子が覗いた先の教室にぼかしがしてあり、調べてみたい気持ちになる。 ○校内のイラストが分かりやすい。子どもの吹き出しを読むと、次の活動の見通しをもつことができる。 下巻 ○单元扉の写真では、大きなキュウリを収穫している男の子が写っており、育ててみたいと思わせる。 ●実際には学校で育てにくい白菜やキャベツ、大根などの写真も出ている。 |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑥振り返り表現する活動の工夫

<ワークシートの比較 上巻：栽培単元 下巻：おもちゃ作り単元>

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|-------------|--|
| 東 書 | 上巻 ○6枚例示。1枚目は文書欄なし。「かんさつずかん」として、カードを書く為の視点や観察のしかたなどの説明ページがあり、参考になる。 ○アサガオ全体を描いたイラストがないので、すっきりしている。 下巻 ○2枚例示。1枚目は材料集めに関するカード、2枚目は「もっとうごくようにするために」という内容で、事柄ごとに細かく欄が分かれている。 ●全体的に例示が少なく、振り返りもない。 |
| 大 日 本 | 上巻 ○アサガオ5枚、大豆、落花生、イチゴ各1枚の8枚提示。題が「○○につき」となっており、絵日記感覚で書くことができる。 ○さわった感じや「～みたい」の表現があり、視点も例示してある。 下巻 ●「おもちゃほうこくしょ」として、最後に1枚のみ例示。日々の活動の振り返りはできにくい。 |

| | |
|-------------|---|
| 学 図 | <p>上巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 8枚例示。1枚の下にカードが重ねてあるようなイラストがあり、たくさん のカードを書いていくということが分かる。 ○ 「() あのね」の吹き出しがついており、伝えたいことを書けばよ いということが分かる。 ○ 「ものしりのうと」というページがあり、カードの記述の仕方を説明して いる。 ● 鉢を移動したことの記録カードもあり、例が多すぎる。 <p>下巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 8枚例示。設計図→パワーアップ→遊び方工夫カード→おもちゃ大会カー ドの順になっている。 ○ 設計図の中には、材料、道具と書き分ける例示がしてあり、記述しやすい。 ● 4種類も必要か。自由題でもよい。 |
| 教 出 | <p>上巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動ごとに1枚ずつ、全5枚提示。文なし→2行→3行→4行と1枚ごと にレベルアップしている。 ○ ワークシートの例示の上に「ひんと」があり、何をどのように書けばよい か分かるようになっている。 ● 鉢全体を描いている例が複雑すぎる。 <p>下巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 計画、「ここがすてき！わたしのおもちゃ」の2種類、全5枚提示。 ● 文章の例が長く、内容をすぐに把握するのが難しい。 |
| 信 教 | 教科書見本がないため、調査研究不可能。 |
| 光 村 | <p>上巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「さかせたいな わたしのはな」のタイトルで8枚例示。「～みたいなか たち」という文やさわったときの感じについての記述があり、書く視 点を示してくれる。 <p>下巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ふりかえる」として、いろいろな表情のカエルが印刷されており、丸を つけるだけでも振り返りができるようになっている。 ● 絵を描くスペースがなく、文章のみの記述なので、後で読み返すとき、イ メージしにくい。 |
| 啓 林 館 | <p>上巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見開き（活動）ごとに1枚。全4枚。徐々に行数が増えており、書く内容 をイメージしやすい。 ○ 日記、クイズで表現する例も出ており、伝え方の工夫ができる。 ○ 虫メガネのイラストがあり、大きく描くことができる。 <p>下巻</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートの下に、「次はどんなことをしたいか」を書く欄があり、見 通しをもつことができる。 ○ 設計図、どんな工夫ができるか、自由題の全3枚提示で、分かりやすい。 |

| | |
|---|---|
| 日 | <p>上巻</p> <p>○ 4枚例示。最初の2枚には虫眼鏡のイラストがあり、大きく描くことができる。「～みたい」という文章が例として出ており、参考になる。</p> <p>○ 花の記録の例示に、「なぜかな？」という表現が出ており、疑問を書いてもよいことがわかる。</p> <p>下巻</p> <p>○ 「ふりかえり」というテーマで3枚例示。絵入りは1枚のみ。2枚目は2日分を1枚に書くようになっている。長く書いてもよいことを示すために、例示では、2日分を使って書いている。3枚目は単元全体の振り返りで文章のみ12行。</p> <p>● 文章を書くことが苦手な児童には、負担が大きい。</p> |
|---|---|

(3) 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元や資料等の配列及び分量

| 発行者名 | 単元名 | ページ数 | 意見 (○長所 ●課題) |
|-------------|--|-----------------|--|
| 東 書 | 上巻 9単元 ○どきどき わくわく 1ねんせい ○がっこう だいすき ○きれいに さいてね ○なつが やってきた ○いきもの と なかよし ○たのしい あき いっぱい ○じぶんで できるよ ○ふゆを たのしもう ○もうすぐ 2ねんせい ※かつどうべんりてちょう ※ほんとうのおおきさポケットずかん | 114 ※8 ※8 | ○上巻巻頭の「どきどきわくわく1ねんせい」ではスタートカリキュラムで行なわれる活動を具体的に示し保護者向けのメッセージも付けている。 ○上巻巻末に各季節に見られる主な動植物を実物大で描いた図鑑があり、切り離して屋外に持ち出すこともできる。 ○上下巻の巻末に、生活科の活動を通して必要になる習慣や技能、学び方などをまとめた資料ページを設けている。 |
| | 下巻 9単元 ○春だ 今日から 2年生 ○ぐんぐん そだて わたしの やさい ○どきどき わくわく まちたんけん ○生きもの なかよし 大作せん ○うごく うごく わたしの おもちや ○みんなで つかう まちの しせつ ○つながる 広がる わたしの生活 ○もっとなかよし まちたんけん ○あしたへ ジャンプ ※かつどうべんりてちょう | 106 ※22 | |
| 大 日 本 | 上巻 5単元 ○しょうがっこうせいかつ はじまるよ ○みんな なかよし ○なつと なかよし ○あきと なかよし ○ふゆと なかよし ※がくしゅう どうぐばこ | 103 ※26 | ○季節に沿った大単元構成とし、スムーズな学習展開になるよう小単元を工夫している。 ○巻末の資料「がくしゅう どうぐばこ」に資料を掲載し、子どもが活動に即して基本的な知識や技能の習得がはかられるよう工夫している。 |
| | 下巻 5単元 ○春 はっけん ○生きもの はっけん ○わたしの町 はっけん ○つくる 楽しさ はっけん ○自分 はっけん ※がくしゅう どうぐばこ | 105 ※22 | |

| | | | |
|--------|---|------------|--|
| 学 図 | <p>上巻 11単元</p> <p>○がっこう だいすき</p> <p>○がっこうたんけん</p> <p>○わたしの あさがお</p> <p>○あそびに いこうよ</p> <p>○あつく なったよ</p> <p>○あきを たのしもう</p> <p>○ふゆを たのしもう</p> <p>○いきもの だいすき</p> <p>○むし だいすき</p> <p>○ありがとうが いっぱい</p> <p>○もうすぐ 2年生</p> <p>※まなびかた ずかん</p> | 113 ※10 | <p>○内容を「探検」「遊び」「飼育・栽培」「家族・成長」の5つの活動領域に整理し、それぞれを大単元として構成している。</p> <p>○単元ごとにひとまとまりとした大単元方式で、活動の推移や子どもの変容が連続したページで確認・振り返りができる。</p> |
| | <p>下巻 6単元</p> <p>○まち たんけん</p> <p>○あの人に 会いたいな</p> <p>○わたしたちの 野さいばたけ</p> <p>○生きものと 友だち</p> <p>○作って あそぼう うごく おもちや</p> <p>○わたしたんけん</p> <p>※学び方 図かん</p> | 103 ※11 | |
| 教 出 | <p>上巻 9単元</p> <p>○きょうから 1ねんせい</p> <p>○わくわく ときどき しょうがっこう</p> <p>○きれいに さいてね わたしの はな</p> <p>○きせつと なかよし はる・なつ</p> <p>○なかよくなろうね 小さな ともだち</p> <p>○きせつと なかよし あき</p> <p>○かぞくににこにこ大きくせん</p> <p>○きせつと なかよし ふゆ</p> <p>○もうすぐ 2年生</p> <p>※学びの ポケット</p> | 126 ※10 | <p>○幼児期で親しんだ絵本で生活科の学習に入る構成になっている。また、「スタートカリキュラム」では、幼児期の学びが、学校生活や教科学習につながっていくことが1年生に理解しやすいようにイラストと写真を組み合わせて掲載している。</p> <p>○生活科の学習に必要な習慣や技能を、子どもたちが繰り返し活用できるよう、巻末に「学びのポケット」としてまとめている。</p> <p>○中学年以降の学習につながる「コラム」のページがある。</p> |
| | <p>下巻 7単元</p> <p>○わくわく 2年生</p> <p>○めざせ 野さい作り名人</p> <p>○まちが大すきたんけんたい</p> <p>○めざせ 生きものはかせ</p> <p>○えがおのひみつたんけんたい</p> <p>○作って ためして</p> <p>○あしたへ つなぐ 自分たんけん</p> <p>※学びのポケット</p> | 116 ※20 | |
| 信 教 | 教科書見本がないため、調査研究不可能 | | |

| | | | |
|-------------|---|------------|--|
| 光 村 | <p>上巻 9 単元</p> <p>○あたらしい いちねんせい ○なかよし いっぱい だいさくせん ○さかせたいな わたしの はな ○なつだ とびだそう ○いきものと なかよし ○あきと いっしょに ○みんなの にこにこ 大きくせん ○ふゆと ともだち ○もうすぐ みんな 2 年生 ※ひろがる せいかつじてん</p> | 135 ※6 | <p>○各単元がホップ・ステップ・ジャンプの3段階構成になっている。</p> <p>○巻末に各単元のジャンプ（ふりかえり）に張ったシールを貼りなおし、1年間の学習全体を振り返ることができる「ジャンプ大しゅうごう」を設けている。</p> |
| | <p>下巻 7 単元</p> <p>○さあ、きょうから2年生 ○まちを たんけん 大はっけん ○ぐんぐん そだて おいしい やさい ○小さな 友だち ○あそんで ためして くふうして ○もっと もっと まちたんけん ○広がれ わたし ※ひろがる せいかつじてん</p> | 95 ※6 | |
| 啓 林 館 | <p>上巻 10 単元</p> <p>○がっこう だいすき あいうえお ○いくぞ！がっこう たんけんたい ○げんきに そだて わたしの はな ○あそびばに でかけよう ○なつと なかよし ○生きもの だいすき ○あきと なかよし ○ひろがれ えがお ○ふゆと なかよし ○もうすぐ 2 年生 ※がくしゅうずかん</p> | 118 ※13 | <p>○各単元とも「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階構成になっており活動の流れが分かりやすくなっている。</p> <p>○下巻巻末には、3年生へのステップブック「みらいにむかって」が設けられており、1・2年生の生活科で身につけた力や自分を支えている存在について自覚できるとともに、意欲をもって進級できるように工夫している。</p> |
| | <p>下巻 8 単元</p> <p>○新しいこと いっぱい ○大きく そだて わたしの 野さい ○とび出せ！町の たんけんたい ○みんな 生きている ○せかいで ひとつ わたしの おもちゃ ○もっと 知りたい たんけんたい ○町の すてき つたえたい ○これまでのわたし これからのわたし ※みらいにむかって</p> | 128 ※7 | |

| | | | |
|--------|--|------------|---|
| 日 文 | <p>上巻 9 単元</p> <p>○いちねんせいになったら</p> <p>○がっこうをたんけんをしよう</p> <p>○きれいな はなを さかせたい</p> <p>○きせつと あそぼう -はるからなつ-</p> <p>○生きものと なかよくなろう</p> <p>○きせつと あそぼう -あき-</p> <p>○じぶんで できるよ</p> <p>○きせつと あそぼう -ふゆ-</p> <p>○もうすぐ 2年生</p> <p>※ちえとわざのたからばこ</p> | 124 ※18 | <p>○上巻のスタートカリキュラムのページの角を丸くして、他のページと区別できるようにしている。</p> <p>○生活科の学びを自分自身の生活や家庭での生活につなげるような内容を「学びのまど」でバランスよく配置している。</p> <p>○単元内にその単元の学習ですぐに使える内容の「ポケットずかん」のページを巻末に「学び方」「自然・生活」の二部構成で主にどの単元でも汎用的に使える内容の「ちえとわざのたからばこ」のページを設けている。</p> |
| | <p>下巻 8 単元</p> <p>○2年生が はじまるよ</p> <p>○町たんけん1</p> <p>-みんなでつかう場しょへ行こう-</p> <p>○ぐんぐん そだて みんなの 野さい</p> <p>○夏休みを 楽しく すごそう</p> <p>○生きものはかせに なろう</p> <p>○町たんけん2</p> <p>-グループで出かけよう-</p> <p>○あそび名人に なろう</p> <p>○こんなに 大きくなつたよ</p> <p>-広がれわたし-</p> <p>※ちえとわざのたからばこ</p> | 111 ※24 | |

(4) 内容の表現・表記

視点⑧本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト、写真等の活用
 <吹き出し・キャラクター・マークの工夫>

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 6名の児童が繰り返し登場し、活動の流れを示している。 ○ キャラクター「まなびい」「ずかんちゃん」の役割が明確であり、児童に思考や活動、安全・衛生上の留意を促している。 ○ 写真が明るく、児童の表情も自然である。 ○ 「手洗い・うがい」「やくそく」「注意」「道具」「活動便利手帳」など、ポイントを明確にしたマークが充実している。 ○ 他教科等との関連付けを示す「つながり」マーク、児童の知的好奇心を高め、主体的な活動への意欲を喚起する「？」マークなど、児童の思考を深める工夫がある。 |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「せいかつことば」「きらきらことば」により、語彙力の向上、言語能力の育成、生活の中で使える言葉を増やすことを意図している。 ○ 「風船マーク」で、具体的な課題を提示している。 ○ 最後のページに、スケールがある。 ● モノクロ写真で想像力を刺激することを意図しているが、分かりづらい。 ● 児童やキャラクターの吹き出しはあるが、枠が明瞭でないため分かりにくい。 ● キャラクターが活動のヒントを与えたり、衛生・安全上の注意を喚起したりしているが、役割は明確でない。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元名の前に、単元の内容に関連するマークを掲載している。 ○ 「どきどき」「いきいき」「ふむふむ」「にこにこ」マークにより、学習過程のどの場面かを示している。 ○ 単元冒頭は楽しい活動場面を大きな写真で掲載し、児童の意欲を喚起している。 ● 掲載している写真やイラストなどの重なりや情報量が多く、見にくいページがある。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ児童2名と、先生2名（第1学年・第2学年）が繰り返し登場し、2年間を通じた成長の姿をリアルに表している。 ○ サイコロマークで、生活科で育成する6つの力と重点を示している。 ○ キャラクター「いぐら」が「まんぞくハシゴ」で学習活動の自己評価を促している。 ○ 「学びのポケット」で他教科の知識・技能を整理している。 ○ 「はってん」マークで、第3学年の学習へのつながりを示している。 ● 写真やイラストの児童の吹き出しは他社に比べて少ない。 |
| 信教 | 教科書見本がないため、調査研究不可能。 |

| | |
|-------------|--|
| 光 村 | <ul style="list-style-type: none"> ○「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」のキャラクターが3段階の構成で学習過程を明確に示している。 ○「どうすれば」コーナーで自ら考える活動を促している。 ○写真や文字の境目をはっきり見えやすくしている。 ●写真に比べてイラストが多い。 ●イラストの児童に統一感がない。 |
| 啓 林 館 | <ul style="list-style-type: none"> ○「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階のマークで単元の流れを示している。 ○「できるかなできたかな？」マークで活動の振り返りの視点を明確にし、「ひろがるきもち」マークで学んだことを生活に生かすことを促している。 ●写真が全体的に暗めではっきりしていないものもある。 |
| 日 文 | <ul style="list-style-type: none"> ○単元の前に単元に関するマークを掲載している。 ○教科書の使い方のページで、キャラクターの紹介やマークの説明など、教科書の見方を示している。 ○「せいかつか たんけんたい」として「ぼいんとさん」「ひんとさん」「ちゅういさん」のキャラクターの役割が明確である。 ●「ふりかえる つなげる」マークで、学習の振り返りや、発展を促そうとしているが、振り返りの視点が明確でなく、次の活動の見通しをもちにくい。 ●児童の写真が大きくバランスの悪いページがある。 |

(5) 言語活動の充実

視点⑨コミュニケーション活動を通じた他者との情報交流の設定

<伝え合う活動の例示について(下巻地域たんけん単元)>

| 発行者名 | 意見(○ 長所 ● 課題) |
|-------------|---|
| 東 書 | <p>「どきどきわくわくまちたんけん」「みんなでつかうまちのしせつ」 「もとなかよしまちたんけん」「つながる広がるわたしの生活」 ○地域の人に話を聞いて調べている。(和菓子店で働く人・消防署で働く人など) ○グループで見つけたことを学級の人に発表し、家庭で話している場面もある。 ○公共施設を利用し、そこで働く人に話を聞いている。 ○誰に何を伝えるかをグループで話し合っている。 ○インタビュー・ファックス・手紙・メールで調べている。 ○伝えたいことをポスター・新聞・パンフレットで表現し、地域の人を招待して発表会を開いている。 ○活動中の児童の会話が数多く示され、コミュニケーションを通して活動を展開していく様子がよく分かる。 ○まとめる場面で、カードを分類したり、タブレット・電子黒板を活用したりするなど、情報活用の仕方が分かる。 ○作成したポスターを持って地域に出かけ、地域に発信している。</p> |
| 大 日 本 | <p>「わたしの町はっけん」 ○春に行った探検を思い出して、行きたい場所を出し合い、計画を立てている。 ○公園・図書館・和菓子店などで見つけたことや出会った人を学級で教え合う。 ○町で見つけたことを音・においで表現したり公園のすてき案内地図にまとめたりしている。 ○もう一度探検し、仕事について尋ねたり体験させてもらったりして調べている。 ○探検場所の写真とともに、質問したこと・答えてもらったことを吹き出しで例示している。 ○地域の人を招待して発表会を開いている。(写真・クイズ・紙芝居・ポスター・地図などを用いた表現) ○探検で出会った町の人のことを家庭で話している場面がある。 ○探検時に、におい・音などに気付くようイラストで示している。 ○電子黒板の使用・クイズ・紙芝居・地図・ポスター・劇化といった多様な表現活動の例示がある。 ○作成したポスターを探検先に渡す・掲示板を活用する・学校のHP等で発信している。</p> |
| 学 図 | <p>「まちたんけん」「あの人にあいたいな」 ○町について知っていることを交流し、地図に表しながら探検の計画を立てている。 ○町で見つけたことについて、写真を用いた発表やクイズで表すなどして発表している。 ○2度目の探検は、人に焦点を当て、インタビューで深く調べることにしている。 ○地域の人に電話をして訪問の依頼をしている場面がある。</p> |

| | |
|-------------|--|
| | <p>○地域の人を招待して発表会を開いている。(写真・新聞・絵地図などを用いている)</p> <p>●探検後、児童が伝えたかったこと(発表内容)の具体が分かりにくい。</p> <p>○発表会后、地域の人にお礼の手紙を書いたり、作文を書いたりして、振り返っている。</p> |
| 教 出 | <p>「まちが大すきたんけんたい」「えがおのひみつたんけんたい」</p> <p>○探検カードを記入して、したことや思ったことなどを伝える活動を設定している。</p> <p>○同一児童の絵地図を時間の経過とともに4枚例示している。知った場所が増えたり出会った人を加えたりして、探検の深まりが分かる。</p> <p>○振り返り場面での、情報の整理の仕方の例示が参考になる。</p> <p>○働いている人に焦点を当て、仕事を体験して交流している。</p> <p>●探検中の児童の会話やつぶやきの例示が少ない。</p> <p>○地域の人を招待して発表会を開いている。</p> <p>○写真を使う・クイズや実演・地図や紙芝居など、多様な表現活動の例示がある。</p> <p>○手紙を届けたり、感謝状・作成したポスターを持って行き交流したりしている。</p> |
| 信 教 | 教科書見本がないため、調査研究不可能。 |
| 光 村 | <p>「まちをたんけん大はっけん」「もっともっとまちたんけん」</p> <p>○町のお気に入りや知っていることを地図に整理しながら探検の計画を立てている。</p> <p>○地域の人(店の人・野菜を育てている人など)に尋ねたり、図書館を利用しながら教えてもらったりして調べている。</p> <p>○探検で見つけたこと・分かったことを絵カードにまとめ、地図に整理しながら交流している。</p> <p>○探検でのインタビューの仕方の例示が分かりやすい。</p> <p>○絵地図を見ながら、見たいこと・聞きたいことを確かにし、探検の計画を話し合っている。</p> <p>○探検を振り返る場面で、児童の会話の例示で気付きの深まりが分かる。</p> <p>○店の人・農家の人にインタビューしたり、公共施設(図書館・児童館・公民館)を利用したり活動の様子を見たりして調べている。</p> <p>●「どうすれば」のコーナーで伝える方法を考えさせているが、発表会の例示ではクイズ・ポスター・パンフレット・新聞の表現活動と、やや少ない。</p> <p>○作成したポスターやお礼の手紙を持って、町の人に届けて交流している。</p> |
| 啓 林 館 | <p>「とびだせ!町のたんけんたい」「もっと知りたいたんけんたい」</p> <p>「町のすてきつたえたい」</p> <p>○町について、知っていることを出し合い、探検の計画を立てている。</p> <p>○地域の人(和菓子店・花屋・交番で働く人)に話を聞き、調べている。</p> <p>○色別付箋紙に見つけたこと・人のこと・安全のことを書き、地図に整理しな</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>から交流している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真を見せる・ペープサート・クイズを用いて学級の友達に発表している。 ○前回の探検を思い出し、出会った人に焦点を当て、再度、探検の計画を立てている。 ○地域の人にインタビューしたり一緒に活動したりしながら) 調べている。 ○地域の人や1年生を招き、発表会を開いている。 ○劇・新聞・カルタ・教わったことを広める・音あてクイズ・パソコンの活用など多様な表現活動の例示がある。 ○探検の振り返りで、自分の成長を1つの視点にしている。 |
| 日 文 | <p>「町たんけん1ーみんなでつかう場しょへ行こうー」 「町たんけん2ーグループででかけようー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イメージマップを作り、既習体験を出し合い、探検の計画を立てている。 ○公共施設（地域センターの図書室）に行き、分かったことを出し合い、学級の友達と交流している。 ○図書室や働く人について、分かったこと・思ったことをまとめたものを図書室の人に届けてお礼を伝えている。 ○グループで探検に行く計画を立て、農園・コンビニエンスストア・デイサービスセンター・和菓子屋に行き、調べている。 ○発見したことをカードにまとめ、写真を見せながら学級のみんなに発表している。 ○伝えたいことを選び、地域の人や1年生・家の人を招いて発表会を開いている。（新聞・クイズ・体験コーナー・ポスター・電子黒板を活用した動画） ○作成したポスター・お礼の手紙を持って行ったり、デイサービスセンターでお礼の歌を歌ったりするなどして、交流している。 |

種 目 名 (音 楽)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 題材や学習目標等の示し方
- ② 歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫
- ③ 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ④ 音楽的な見方・考え方を働かせる工夫
- ⑤ 音や音楽を生活や文化などと関連付ける工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

- ⑥ 我が国の音楽に関する内容の扱い
- ⑦ 題材や資料等の配列

(4) 内容の表現・表記

- ⑧ [共通事項] の指導を充実させる工夫

(5) 言語活動の充実

- ⑨ 表現及び鑑賞領域における言語活動の工夫

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

視点① 題材や学習目標等の示し方

方法 題材目標の表記の仕方及び目標達成のための支援の具体例

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) | |
|--------|---|---|
| | 目標の表記の仕方及び 目標達成のための支援 | 第6学年「越天楽今様」を 扱った題材 |
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 題材名を各題材の最初だけでなく、全ページにわたり提示している。 ○ 目標の提示では、キーワードとなる言葉を他の言葉と色を変えてある。 ○ 見開きページの右上部に「音楽のもと」としてメモ欄を設けている。 (中・高学年) ○ 扱う共通事項のキーワードを提示している。(全学年) ○ 新出事項等をページの決められた場所に縦方向で提示している。 (第2学年以上) ○ 学習の振り返りや資料などへのリンクを示すアイコンを設定している。 ○ 「学びナビ」マークで活動のポイントを提示し、深い学びの実現を図るための支援となっている。 ● 1年間の学習内容が目次のみで、学習のつながりがわかりにくい。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 題材「私たちの国の音楽」 目標「雅楽の旋律を味わって歌おう」 ○ 「学びナビ」マークで活動のポイントを提示している。 → 「雅楽のせん律のもつふん 困気を感じ取って歌おう」 ○ 関連する学習のページを矢印マークの中に提示している。 ○ 「もっとあそぼう」のコーナーに雅楽の旋律をリコーダーで演奏する際のアドバイスを例示している。 |
| 教 芸 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 題材名が各題材の最初だけでなく、全ページにわたり縦書きで提示されている。その下に題材のねらいも示されている。 ○ 見開きページの左上部に学習の目標とともに、学習課題を児童が理解しやすい言葉で提示している。 ○ キャラクターの吹き出しで活動のヒントを提示している。 ○ 新出事項等は、「新しく覚えること」というコーナーで各ページに提示している。 ○ 1年間の学習内容が巻頭見開きで、系統的にイラストを使って表示されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 題材「日本や世界の音楽に親しもう」 目標「日本に古くから伝わる音楽に親しみましょう。」 ○ 目標の下に活動文 「日本に古くから伝わる歌の特徴を感じ取って歌いましょう。」が提示されている。 ○ 「きこう 雅楽「越天楽」」を題材構成に取り入れている。 |

(1) 基礎・基本の定着

視点② 歌唱の基礎・基本の定着を図るための工夫

方法 歌唱教材「われは海の子」の扱い及び発声のポイント

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) | |
|--------|---|--|
| | 発声のポイント | 歌唱教材「われは海の子」の扱い |
| 教 出 | <p>○第5学年で変声期の歌唱のポイントや配慮事項を提示している。</p> <p>○スキルアップ「歌声とリズムのトレーニング」や「歌声」についてのコラムを設け、イラストと説明文で発声のポイント等を発達段階に応じて示している。(第3・4・5・6学年)</p> <p>具体例文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちよく声を出そう ・言葉をはっきりと歌おう ・フレーズのまとまりを大切にして強弱や歌い方を工夫しよう。 ・長い音ぶはきれいに声をひびかせよう。 <p>●低学年に発声のポイントを示したコラム等の掲載がない。</p> | <p>○楽曲の解説とともに「われは海の子」の歌碑の写真が掲載されている。</p> <p>○歌詞は見開きの海の写真を背景に縦書きで3番まで示している。</p> <p>○楽譜に3番までの歌詞を示している。</p> <p>○分かりにくい歌詞の解説がある。</p> <p>○児童向けの学習課題を「遠くの水平線に向かって歌うような気持ちで、堂々と歌いたいね」と表示している。</p> <p>○「学び合う音楽」(まなびナビ)に各段をどのように歌いたいか考えるためのヒントを4項目掲載し、児童が思考・判断・表現しながら見通しをもって学習できるよう配慮されている。</p> |
| 教 芸 | <p>○第5・6学年で変声期の歌唱のポイントや配慮事項を提示している。第6学年での「星の世界では変声期を迎えた児童に具体的に歌い方の手立てを提示している。</p> <p>○「歌声」のコラムでイラストを用い発声のポイントを具体的に示している。(全学年)</p> <p>具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くちのなかをよくあけて、ひとつひとつのことばをはっきりうたいましょう。 ・低い音を歌うときも、声が上の方に向かっていくようなイメージをもって、明るい声で歌いましょう。 ・鼻の付け根から目の間の辺りにひびきを感じて歌いましょう。 | <p>○楽曲の解説がある。</p> <p>○歌詞は縦書きで3番まで示している。</p> <p>○楽譜に3番までの歌詞を示している。</p> <p>○分かりにくい歌詞の解説がある。</p> <p>●歌詞の解説の文字が背景との関係や文字の大きさの関係で見えづらい。</p> <p>○児童向けの学習課題を「旋律の上がり下がりやリズムの特徴、強さの変化を感じ取りながら歌いましょう。」と表示している。</p> |

(1) 基礎・基本の定着

視点③ 器楽の基礎・基本の定着を図るための工夫

方法 リコーダーの扱いの具体例

| | | 意見 (○ 長所 ● 課題) | |
|--------|----------------------------|--|--|
| 発行者名 | 第3・4学年 リコーダーの学習項目 | 具体例 | |
| 教 出 | ・リコーダーの 学習導入 | ○楽器のつくりを写真とともに掲載して解説している。 ○5種類のリコーダーを写真で紹介している。 ○鑑賞の学習を取り入れ、意欲や関心を高めている。 | |
| | ・学習する音の順序 | ○第3学年：シ→ラ→ソ→ド→レ→ファ→ミ→レ ○第4学年：ミ→ド→#ソ | |
| | ・各音の指使いの説明 | ○階名、五線譜、リコーダーのイラストを掲載している。 ○ふき口を下にしたイラストを掲載している。 | |
| | ・息の入れ方 タンギング サミングの説明 | ○大きなシャボン玉をつくるような息で吹くよう説明している。 ○タンギングは「トゥ」で掲載してある。 ○「第4学年では、高い音のタンギングの仕方を「ティ」と掲載している。 ○第4学年でサミングの二つの方法を写真と言葉で説明している。 | |
| 教 芸 | ・リコーダーの 学習導入 | ○巻頭ページで、4種類のリコーダーの写真を掲載している。 ○鑑賞の学習を取り入れ、意欲や関心を高めている。 ○楽器の扱いについてのコラムで手入れの仕方について説明している。 | |
| | ・学習する音の順序 | ○第3学年：シ→ラ→ソ→ド→レ→ファ→ミ→レ→ド ○第4学年：ミ→ファ→ソ | |
| | ・各音の指使いの説明 | ○階名、五線譜、リコーダーのイラストを掲載している。 ○ふき口を下にしたイラストを掲載している。 | |
| | ・息の入れ方 タンギング サミングの説明 | ○大きなシャボン玉をつくるような息で吹くよう説明している。 ○タンギングと息の強さを「シ」の音のみを使って「先生」と「児童」で互いに聴き合う4つのスキル練習を1ページにまとめて掲載してある。 ○音の高低により、タンギングの仕方を「tu」「to」「ti」で説明している。 ○第4学年でサミングの二つの方法を写真と言葉で説明している。 | |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点④ 音楽的な見方・考え方を働かせる工夫

方法 音楽づくりに関する学習過程等の示し方と具体例

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) | |
|------|---|---|
| | 「音楽づくり」に関する学習過程の示し方 | 第3学年における具体例 |
| 教出 | <p>○「音楽づくり」の学習過程を記述している。</p> <p>○音楽づくりの方法について、リズムパターンや音型の例を示し具体的に説明している。</p> <p>○音楽を形づくっている要素を表す言葉が「音楽のもと」として右上に表記してある。</p> | <p>題材「チャチャチャのリズムで遊ぼう」</p> <p>目標「〈リズムなかま〉で楽しもう！」</p> <p>(1) 「音楽づくり」の学習過程の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①～⑤からえらんだリズムを、何度も声でとなえておぼえよう。 ・えらんだリズムを「まほうのチャチャチャ」のイ・ウに合わせて手拍子で打ちます。 ・同じリズムどうし集まり〈リズムなかま〉をつくろう。 ・みんなでリズムの重ね方をくふうしよう。 <p>(2) 音符カードの示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5種類のリズムパターンをカードに示している。 <p>(3) 音楽を形づくっている要素に着目させる示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音楽のもと」とページの上にリズム・反復・変化・音の重なりと示している。 ・例を示している。「2小せつずつくわわる」「2小せつずつ交代で打つ」 |
| 教芸 | <p>○「音楽づくり」の学習過程を記述している。</p> <p>○「音楽づくり」のしくみを図や絵で分かりやすく示している。</p> <p>○音楽を形づくっている要素を表す言葉がページの下に表記してある。</p> | <p>題材「手拍子でリズム」</p> <p>目標「くりかえしや変化を使って、まとまりのあるリズムをつくりましょう。」</p> <p>(1) 「音楽づくり」の学習過程の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムを手拍子で打ちましょう。 ・「しくみ」を参考にしながら、タンとタタを使って4小節のまとまりのあるリズムをつくりましょう。 ・「もとのリズム」と「つくったリズム」をつなげて、手拍子で打ちましょう。 <p>(2) 音符カードの示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムのまとまりを示しながら、つくった4小節のリズムの例をリズムカードで示している。 <p>(3) 音楽を形づくっている要素に着目させる示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しくみ」として、繰り返しや変化を使ったリズムづくりの例を示している。 ・ページの下にリズム・拍・反復・変化と示している。 |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 音や音楽を生活や文化などと関連付ける工夫

方法 音や音楽と生活との関わりについての記述

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) | |
|--------|--|---|
| | 音楽と生活との関わりについての記述 | 具体例 |
| 教 出 | ○音や音楽と生活との関わりについて扱う題材や様々な分野で活躍する人からのメッセージや写真を掲載している。 | <p>第1学年：おとのスケッチ「ことばのリズムであそぼう」</p> <p>第2学年：音のスケッチ「どんな音がきこえるかな」 題材「おまつりの音楽」</p> <p>第3学年：音のスケッチ「いろいろな声で表げんして遊ぼう」 題材「遊び歌めぐり」</p> <p>第4学年：巻頭「あなたの声は世界にただひとつ」 歌唱教材との関わり「わたしたちの生活と音楽」</p> <p>第5学年：巻頭「舞台から未来へ」 題材「音楽の旅」</p> <p>第6学年：巻頭「ひびきに心をのせて」 コーナー「音楽にできること」 歌唱教材との関わり「海を思う心」</p> |
| 教 芸 | ○音や音楽と生活との関わりについて扱う題材や様々な分野で活躍する人からのメッセージや写真を掲載している。 | <p>第1学年：題材「みのまわりのおとにみみをすまそう」</p> <p>第2学年：題材「音楽でみんなとつながろう」 題材「せいかつの中にある音を楽しもう」</p> <p>第3学年：鑑賞教材との関わり「神田囃子ほぞん会立野喜久雄さんのお話」</p> <p>第4学年：歌唱及び鑑賞教材との関わり「越中五箇山こきりこうたほぞん会の岩崎喜平さんにインタビュー」</p> <p>第5学年：巻頭「表現するときに大切なこと」 鑑賞教材との関わり「仙台フィルハーモニー管弦楽団バイオリン奏者神谷未穂さんのお話」</p> <p>第6学年：巻頭「時代をこえて受けつぐ歌舞伎のこころ」 特集「音の働きや役割について考えよう」 特集「音楽が人と人をつなぐ」 歌唱教材との関わり「あすという日が」</p> |

(3) 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 我が国の音楽に関する扱い

方法 学年ごとに扱う鑑賞曲・和楽器

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) | | | |
|--------|------------------|-----|---|---|
| | 学年ごとに扱う鑑賞曲・和楽器 | | 特徴 | |
| 教 出 | 1 | 鑑賞曲 | ・わらべうた (「おちやらか」「なべなべ」他) | ○第1学年のわらべうたでは伝承されてきた遊び方を紹介している。 ○第4学年で見開き2ページで箏について扱っている。 ○第4学年では見開き2ページで日本各地のお祭りを季節ごとに紹介している。 ○第5学年では見開き2ページで日本の各地に伝わる民謡を日本地図とともに紹介している。 ○第5学年では「拍ののったリズムの曲」と「拍のない自由なリズムの曲」を聴き比べている。 ○第5学年で、しの笛について扱っている。しの笛の指使いを取り扱うとともに楽器演奏にチャレンジするための奏法が掲載されている。 ○第5学年巻頭見開きページに狂言の魅力について紹介してある。 ○第6学年巻末資料で「雅楽の演奏」「三曲合奏」についての資料を掲載している。 |
| | 2 | 鑑賞曲 | ・日本のたいこ (「つがるじょっぱりだいこ」他) | |
| | | 和楽器 | ・たいこ | |
| | 3 | 鑑賞曲 | ・日本や世界の子どもの歌 (「十五夜さんのもちつき」) | |
| | 4 | 鑑賞曲 | ・「さくら変そう曲」・「ソーラン節」 ・「秩父屋台ばやし」・「葛西ばやし」 | |
| | | 和楽器 | ・大だいこ・しめだいこ・ふえ ・かね・こと・おおどう ・つけだいこ | |
| | 5 | 鑑賞曲 | ・「長唄『越後獅子』から」 ・「京の夜」・「会津磐梯山」 ・「音戸の舟歌」 | |
| | | 和楽器 | ・しの笛・こきりこ・三線・ ・ささら (びんささら) | |
| | 6 | 鑑賞曲 | ・「春の海」 | |
| | | 和楽器 | ・こと ・尺八 ・三味線 ・雅楽の楽器 (ふき物・ひき物・打ち物) | |

(3) 内容の構成・配列・分量

視点⑥ 我が国の音楽に関する扱い

方法 学年ごとに扱う鑑賞曲・和楽器・歌唱教材

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) | | | |
|--------|------------------|-----|--|---|
| | 学年ごとに扱う鑑賞曲・和楽器 | | 特徴 | |
| 教 芸 | 1 | 鑑賞曲 | ・わらべうた「おおなみこなみ」 他 | ○第1・2学年のわらべうたでは伝承されてきた遊び方を紹介している。 ○第3学年ではしめだいこの楽譜を示し、繰り返し歌うことで曲の感じがつかめるように工夫してある。 ○第3学年では「ねぶた囃子」「神田囃子投げ合い」では各保存会の方々の話を掲載し、お祭りの様子や曲の特徴が感じ取りやすいよう工夫されている。 ○第4学年の鑑賞資料として、日本の各地に伝わる民謡を日本地図とともに紹介している。 ○第4学年で見開き2ページで箏について扱っている。箏の楽譜を取り扱うとともに楽器演奏にチャレンジするための奏法が掲載されている。 ○第5学年では各地の民謡を「拍にのったリズムの曲」と「拍のない自由なリズムの曲」という視点で聴き比べ、各地の民謡の特徴をさらに聴き比べる学習にチャレンジすることで深い学びにつなげている。 ○第6学年巻頭に歌舞伎の魅力、巻末に「日本の古典芸能」について紹介してある。 |
| | 2 | 鑑賞曲 | ・わらべうた 「ずいずいずっころぼし」他 | |
| | 3 | 鑑賞曲 | ・「祇園囃子」「ねぶた囃子」 「神田囃子投げ合い」 | |
| | | 和楽器 | ・しめだいこ・長胴だいこ ・かね ・しのぶえ | |
| | 4 | 鑑賞曲 | ・民謡「こきりこ」他 ・さくらさくら ・「津軽じょんがら節」 ・「こと独奏による主題と6つの変奏曲「さくら」より」 ・「ていんさぐぬ花」 | |
| | | 和楽器 | ・こと・こきりこ・たいこ ・びんざさら・ふえ・つづみ ・三線・三味線・ぼうささら ・くろがね | |
| | 5 | 鑑賞曲 | ・「春の海」 ・民謡「ソーラン節」 「かりぼし切り歌」 ・「待ちぼうけ」「赤とんぼ」 「この道」 | |
| | | 和楽器 | ・こと ・尺八 | |
| | 6 | 鑑賞曲 | ・雅楽「越天楽」 ・鑑賞資料「日本の古典芸能」 ・「花」「箱根八里」 「荒城の月」 | |
| | | 和楽器 | ・笛 ・小鼓 ・大鼓 ・太鼓 ・太棹三味線 ・細竿三味線 ・三線 | |

(3) 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 題材や資料等の配列

方法 表現領域における系統的な扱い

| 発行者名 | | 意見 (○ 長所 ● 課題) | |
|------------------|---|--|-----|
| | | 歌唱及び器楽における系統的な扱い | 具体例 |
| | | ○複数曲での題材構成，弾力的に扱いの可能な部分，第4学年以上の学年に「はってん」（発展的な学習内容）で構成されている。 | |
| 歌 唱 | ○ 第1学年では，身体表現・斉唱・交互唱，第2学年では，交互唱・輪唱・パートナーソング，二部合唱が取り入れられている。 | ・二部合唱導入曲 第2学年：「春がきた」 「ラララ歌おう」 | |
| | ○ 中学年からは，輪唱・パートナーソング，二部合唱が取り入れられている。 ○ 高学年から，三部合唱が加わる配列になっている。 | ・三部合唱曲 第5学年：「こげよマイケル」 第6学年：「ロックマイソウル」 「宝島」 | |
| 教 出 器 楽 | ○ 低学年では，打楽器と鍵盤楽器の基礎的な奏法で構成されている。巻末には，楽器図鑑としてまとめて掲載されている。 | ・奏法を学ぶ楽器 第1学年：鍵盤ハーモニカ，ハーモニカ，大太鼓，鉄琴，木琴，カスタネット，タンブリン，すず，トライアングル，小太鼓 第2学年：グロックン，ビブラフォーン，マリンバ，ギロ，ウッドブロック，シンバル | |
| | ○ 中学年では，リコーダーアンサンブルや鉄琴や木琴などを加えた合奏を取り扱っている。 ○ 第6学年ではジャズのアンサンブルや日本の民謡の合奏も取り入れた配列になっている。 ○ リコーダー2重奏＋低音の形でアンサンブルも取り入れられている。 | 第3学年：リコーダー，クラベス，カウベル 第4学年：シェーカー，アゴゴ，フロアートム，しめだいこ，大太鼓，かね 第5学年：しの笛 ・取り扱う合奏曲 第2学年：「汽車は走る」「チャチャマンボ」「アンダルコの歌」 第3学年：「せいじゃの行進」「パフ」「ミッキーマウスマーチ」 第4学年：「ラ クンパルシータ」「魔法のすず」 第5学年：「茶色の小びん」「風とケーナのロマンス」「ルパン三世のテーマ」「ゴジラ」 第6学年：「マルセリーノの歌」「カノン」 「L-O-V-E」「八木節」 | |

(3) 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 題材や資料等の配列

方法 表現領域における系統的な扱い

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) | |
|------------------|--|---|
| | 歌唱及び器楽における系統的な扱い | 具体例 |
| | ○複数曲での題材構成, 学習したことを補完する部分, 第3学年以上の学年に「ステップアップ」(発展的な学習内容)で構成されている。 | |
| 歌 | ○ 第1学年では, 斉唱・交互唱・輪唱, 第2学年では, 斉唱と器楽をあわせた配列になっている。 ○ 中学年からは, 二部合唱が取り入れられている。 ○ 高学年では, 二部合唱・三部合唱の配列になっている。 | ・二部合唱導入曲 第3学年: 「歌おう 声高く」 (部分2部合唱) ・三部合唱曲 第5学年: 「こげよ マイケル」 「A good day」 第6学年: 「星の世界」 「ふるさと」 「歌よありがとう」 |
| 教 芸 器 楽 | ○ 低学年では, 打楽器, 鍵盤ハーモニカの基礎的な奏法を中心に構成されている。 ○ 第1学年では打楽器の奏法が丁寧に紹介されている。 ○ 第1学年から合奏曲を配列している。 ○ 中学年では, リコーダーアンサンブルや鉄琴や木琴などを加えた合奏を取り扱っている。 ○ 第4学年では, 日本の楽器を丁寧に紹介している。なかでも, こと(箏)の奏法を詳しく扱っている。 ○ 第5学年で合奏やアンサンブル・クラッピングと, 楽器・こと(箏)の奏法が取り入れられている。 | ・奏法を学ぶ楽器 第1学年: カスタネット, タンブリン, すず, トライアングル, 鍵盤ハーモニカ, 鉄琴, ウッドブロック 第2学年: オルガン, 大太鼓, 小太鼓, 木琴, クラベス 第3学年: ギロ, ウインドチャイム, 長胴だいこ 第4学年: ボンゴ, コンガ, しめ太鼓 第5学年: サスペンデッドシンバル, カバサ, カウベル, アゴゴ ・取り扱う合奏曲 第1学年: 「こいぬのマーチ」 第2学年: 「こぐまの二月」 「アイアイ」 第3学年: 「ゆかいな木きん」 「パフ」 「エーデルワイス」 「ミッキーマウスマーチ」 第4学年: 「茶色の小びん」 「ジッパディー・ドゥーダー」 「スーパーカリフラジリスティックエクスペリアリドーシャス」 第5学年: 「リボンのおどり」 「キリマンジャロ」 「威風堂々」 「アフリカンシンフォニー」 第6学年: 「ラバーズコンチェルト」 「雨のうた」 「風を切って」 「木星」 「コンドルは飛んで行く」 |

(4) 内容の表現・表記

視点⑧ [共通事項] の指導を充実させる工夫

方法 音楽を形づくっている要素の示し方と指導の工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) | |
|--------|---|---|
| | 音楽を形づくっている要素の示し方と指導の工夫 | |
| 教 出 | <p>○音楽を形づくっている要素の示し方</p> <p>○体を動かす活動を取り入れて、音楽の特徴を捉えさせる指導の工夫</p> | <p>○題材の目標と音楽を形づくっている要素がページの左上に色付けして表記されている。</p> <p>○見開き右ページ上に「音楽のもと」として示し、中・高学年にはメモ欄を設けている。</p> <p>○[共通事項]の内容を巻末の「『音楽のもと』まとめ」に掲載している。</p> <p>・歌唱「ふじ山」(第3学年)</p> <p>○旋律のリズムを手で打つなどして「ターアタ タンタン」のリズムで始まる段とそうでない段を見付けさせる活動を示している。各段の旋律の流れを手で表してみる活動を示している。</p> <p>・鑑賞「バイオリンとピアノのためのソナタ 第4楽章」(第6学年)</p> <p>○旋律の流れに合わせて手などを動かしたり、楽器の弾きまねをしたりしながら聴く活動や楽器を決めて弾きまねをしながら全体を聴く活動を示している。</p> |
| 教 芸 | <p>○音楽を形づくっている要素の示し方</p> <p>○体を動かす活動を取り入れて、音楽の特徴を捉えさせる指導の工夫</p> | <p>○活動の手がかりやヒントになる[共通事項]を吹き出しで示している。音符や休符の書き方例が示してある。</p> <p>○見開き右ページ下に示している。</p> <p>○巻末の「ふり返りのページ」に各学年で学習した音楽を形づくっている要素が、関連するページ番号とともに記載されている。</p> <p>・歌唱「ふじ山」(第3学年)</p> <p>○旋律を指でたどりながら「ふじ山」を歌って音の上がり下がりを感知取る活動や吹き出しの中に「1番高い音はどこにあるかな?」と示して、気持ちが一番盛り上がる場所を歌いながら探させる活動を示している。</p> <p>・鑑賞「ハンガリー舞曲第5番」(第6学年)</p> <p>○音楽に合わせて、体を動かしたり指揮のまねをしたりしながら聴いて、速さや強さについて気付いたことや感じたことを話し合う活動を示している。</p> |

(5) 言語活動の充実

視点⑨ 表現及び鑑賞領域における言語活動の工夫

方法 音楽科の特質に応じた言語活動の具体例（ワークシートの工夫）

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） | |
|--------|--|---|
| | ワークシートの工夫 | 具体例 |
| 教 出 | <p>○第2学年から第5学年まで各学年に鑑賞用ワークシートを1ずつ設定している。</p> <p>○音楽で初めて書くワークシートの導入として選んで書けるように項目が書いてあるので、書きやすい。</p> <p>○せんりつ1とせんりつ2の音楽の特徴を比較しながら記入する表になっている。</p> <p>○表が、始め・中・終わりの三部構成になっており、しかも、音楽の主要な要素等が書いてあり、音楽を聴きながら気付いたことなどを記入できるようになっている。</p> <p>○曲の流れにそった表（始め・中・終わり）に「きこえてきたせんりつ・気がついたこと・音楽の感じ」などの気付きを記述する設定になっている。</p> | <p>・第2学年 題材名「いろいろな音やせんりつのうつりかわりを楽しもう」「そりすべり」</p> <p>・第2学年 題材名「楽器の音色や曲の流れをとらえてきこう」「フェアランドール」</p> <p>・第4学年 題材名「曲の流れを感じ取り、全体を味わってきこう」「ノルウェー舞曲第2番」</p> <p>・第5学年 題材名「曲のおもしろいところを見つけてきこう」「つるぎのまい」</p> |
| 教 芸 | <p>○3つの学年にワークシートが設定されている。</p> <p>○アとイのせんりつを比較しながら、どんな感じがしたか（感じ取ったこと）、なぜ、そう感じたのか（聴き取ったこと）を記入する表になっている。</p> <p>○2曲を比較しながら、どんな感じがしたか（感じ取ったこと）、なぜ、そう感じたのか（聴き取ったこと）記入する表になっている。</p> <p>○歌詞・曲・演奏について、感じたことや気付いたこと等について記述するようになっている。</p> | <p>・第3学年 題材名「曲のかんじを味わってききましょう」「メヌエット」</p> <p>・第4学年 題材名「せんりつのとくちょうを感じ取りながらききましょう」「白鳥」「堂々たるライオンの行進」</p> <p>・第6学年 題材名「言葉の旋律の美しさを感じ取りながら、日本の歌を味わいましょう」「花」</p> |

(5) 言語活動の充実

視点⑨ 表現及び鑑賞領域における言語活動の工夫

方法 音楽科の特質に応じた言語活動の具体例（聴き取り方と話し合う視点の記述）

| 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） | |
|-----------------|---|
| 発行者名 | 第4学年における具体例 |
| 教 出 | <p>○鑑賞したことを記録する活動の中で、聴き取り方と話し合いの視点を記述している。</p> <p>題材名「ききどころを見つけて」 学習のめあて「曲の流れを感じ取り、全体を味わってきこう」</p> <p>教材曲「ノルウェー舞曲 第2番」 聴き取り方と話し合いの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽に合わせて体を動かしたり、歩いたり、しきの動きをしたりしながらきいて、気がついたことや感じ取ったことを友達とお話しよう。 ・ 表に書いたことをもとに、この曲のよいなと思ったところやおもしろいなと思ったところなどを、友達と伝え合い、全体を味わってきこう。 |
| 教 芸 | <p>○鑑賞したことをまとめる活動の中で、聴き取り方と話し合いの視点を記述している。</p> <p>題材名「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」 学習のめあて「せんりつのとくちょうを感じ取りながらききましょう。」</p> <p>教材曲「白鳥」「堂々たるライオンの行進」 聴き取り方と話し合いの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲の感じを味わいながらききくらべましょう。 ・ それぞれの曲について、感じたことや気付いたことをまとめましょう。 ・ 【キャラクターの吹き出し】音楽に合わせて、主なせんりつの図形を指でたどったり、体を動かしたりしながらきいてもいいね。 |

種 目 名 (図画工作)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 題材の目標・振り返りの示し方
- ② 〔共通事項〕を視点とした学びの示し方
- ③ 材料や用具の取り扱い等の定着を図るための工夫

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ④ 興味・関心を高めるための工夫
- ⑤ 表現と鑑賞との関連を図った学習活動の工夫
- ⑥ 身近な作品・我が国や諸外国の親しみある美術作品等や生活の中の造形の取扱い

(3) 内容の構成・配列・分量

- ⑦ 題材や資料等の配列

(4) 内容の表現・表記

- ⑧ 作品等についての示し方の工夫

(5) 言語活動の充実

- ⑨ 表現及び鑑賞の活動における言語活動の工夫

様式1-2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

① 題材の目標・振り返りの示し方

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 開隆堂 | <p>○図画工作科の授業を通して育てたい3つの資質能力に対応した「学習のめあて」を各題材の冒頭に配置，その中の重点を下線・色で強調している。また3つの資質能力に対応したキャラクターも身近に感じさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くふうくん (知識・技能) ・ひらめきさん (思考力・判断力・表現力) ・こころさん (学びに向う力・人間性等) <p>例 3・4年下 「つないで組んで，すてきな形」 p14, 15</p> <p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙バンドの組み合わせ方やつなぎ方を工夫しよう。 ・使ったりかざったりするものを考えよう。 ・使えるものや，かざりづくりをたのしもう。 <p>○重点的に育てたい力に対応した，児童が自己評価する際の手助けとなる「ふりかえり」を文で示している。</p> <p>例 <ふりかえり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙バンドの特ちょうを生かしたかな。 <p>○ふりかえりの手助けとなる文章が簡潔で分かりやすい。</p> |
| 日本文 | <p>○3つの資質能力に基づいた学習のめあてが設定されている。題材文とリード文を工夫し児童の意欲を高めようとしている。また，社会に開かれた教育課程の実現を意識し，保護者と共有するメッセージも掲載されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・てのひら (知識・技能) ・ハート (思考力・判断力・表現力) ・ふたば (学びに向う力・人間性等) <p>例 3・4年下 「ギョギョトントン クリエイター」 p18, 19</p> <p><目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・組み合わせた木の形や色の感じを見つけ，くふうしてつくる。 ・切った木の組み合わせをためしながら，つくりたいものを考える。 ・木を切ることや，生活で使えるものをつくることを楽しむ。 <p>○学びに向かう力，人間性等を自然に少しずつ身に着けることへとつなげるために，活動を通して感じたり考えたりしてほしいことを例示している。</p> <p>例 <ふりかえり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・切った木を組み合わせると，いろいろな形が生まれるね。できた形を使えるものに生かすとうれしいね。 <p>●ふりかえりの手助けとなる文章が2文になるものあり，長い傾向がある。</p> |

(1) 基礎・基本の定着

②〔共通事項〕を視点とした学びの示し方

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 開隆堂 | <p>○キャラクター「くふうさん」と「ひらめきさん」が，〔共通事項〕を視点として思考させるコメントを示しているものがあり，学びを促している。</p> <p>具体例 (表現) 第1・2学年下「すけるん たんじょう」P34, 35 ・いろいろな方こうから見よう。何に見えるかな。 (鑑賞) 第5・6学年上「比べてみよう」p30～34 ・どんなところをくらべてみたのかな。かかっているものやこと，書き方，形，色…。</p> <p>○コメントが簡潔で分かりやすい。また，フォントも太く見やすい。</p> |
| 日本文 | <p>○キャラクター「ちろたん」が，子供の活動と〔共通事項〕を結びつけるコメントを示し，学びを促している。</p> <p>具体例 (表現) 第1・2学年下「つないで つるして」p32, 33 ・かみの かたちやいろを かんがえて つなぐと おもしろい ことができるんだね。 (鑑賞) 第3・4学年下「色合い ひびき合い」p22, 23 ・色や形のかわり方がちがうんだね。ためして，いろいろなまざり方を見つけよう。</p> <p>●コメントが2文になるものもあり長い傾向にある。また，フォントも細く見えづらい。</p> |

(1) 基礎・基本の定着

③ 材料や用具の取り扱い等の定着を図るための工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 開隆堂 | <p>○題材名の上にここで使う主な材料や用具を絵と文字で示し児童に分かりやすくしている。</p> <p>○本文題材から用具の使い方がリンクされているだけでなく，「造形の引き出し」の特設ページを設け，学年に応じた用具・材料の知識や使い方を丁寧に示している。</p> <p>○題材によって，配慮すべき内容を「安全」「かたづけ」の囲みを設けて具体例を示し，用具の安全な使い方や片付け方が示されており安全に配慮する態度を養うことができるように工夫されている。</p> <p>○写真が多く分かりやすい。</p> |
| 日本文 | <p>○ページの左下に学習で使う主な道具のマークを示している。また，そこからの展開が示してある所がある。</p> <p>○『使ってみよう材料と用具』の特設ページを設け，分かりやすく丁寧に基本的な扱いを示している。</p> <p>○題材ページ内の「気をつけよう」「かたづけ」で用具の安全な使い方や片付け方が示されており安全に配慮する態度を養うことができるように工夫されている。</p> <p>●材料や用具の取り扱いの説明では，写真より絵が多い傾向がある。</p> |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

④ 興味・関心を高めるための工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 開隆堂 | <p>○題材名や活動のきっかけとなる文章の表現が意欲を高めるように工夫されている。</p> <p>○きっかけとなる文章が簡潔で、フォントも大きく太く分かりやすい。</p> <p>○手の感触や操作を伴う鑑賞の工夫がある。</p> <p>○親しみやすいキャラクター「くふうさん」「ひらめきさん」「こころさん」を登場させ、学習を深める工夫をしている。</p> <p>○魅力的な児童作品・児童の楽しそうな活動の写真を掲載し、表現や活動の魅力を伝え、意欲を高めようとしている。</p> |
| 日文 | <p>○題材名や活動のきっかけとなる文章の表現が意欲を高めるように工夫されている。</p> <p>●きっかけとなる文章が2文になるものもあり長い傾向にある。また、フォントが小さく見えづらい。</p> <p>○全ての学年において、表現や体の感覚や操作を伴う鑑賞の題材を設定している。</p> <p>○キャラクター「しろたん」を登場させ、活動のヒントを与えることで、興味関心を高めようとしている。</p> <p>○作品や制作中の子供の表情の写真によって、関心意欲を高めることができるようにしている。</p> |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

⑤ 表現と鑑賞との関連を図った学習活動の工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 開隆堂 | <p>○身近にあるものを使って変身し、何に見えるかを互いに鑑賞し合う活動次のページ「小さな美術館」には、実際に手に触れ、体験できる作家の作品が掲載されている。</p> <p>具体例 第1・2学年下「へんしんしよう」p36～39</p> <p>○「ひらめきコーナー」は、身近な材料を使って具体的に作りかたを示してやってみようという意欲を持たせることができる。</p> <p>○「みんなのギャラリー」では、教室では学べない地域の美術作品や創作活動を紹介している。</p> |
| 日文 | <p>○小さなカードの上で、絵の具を多様な方法で混ぜ合わせ、お互いが作ったカードを見合っ、どんな感じかを交流する活動を設定している。</p> <p>具体例 第3・4学年下「色合い ひびき合い」p22, 23</p> <p>○「教科書美術館」は、身近なものを多く扱っている。</p> <p>○「図画工作のつながりひろがり」は、地域での活動を掲載し、地域社会や国際社会に興味を持つようにしている。</p> <p>●「ひらめきポケット」は、造形的な視点で形や色などを見付けるヒントとなるようなページを設定しているが、具体は示していない。</p> |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

⑥ 身近な作品・我が国や諸外国の親しみある美術作品等や生活の中の造形の取扱い

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 開隆堂 | <p>○各学年の「みんなのギャラリー」の中で、様々な地域の伝統文化（祭り、おもちゃ、伝統工芸）などを取り上げている。様々な地域の伝統文化や材料、地域の人たちと一緒に制作する活動などを取り上げて興味を持たせるよう工夫している。</p> <p>○5・6年上の「ひらめきコーナー」の中で、「紋切り遊び」を取り上げて、日本の伝統文化を知らせようとしている。</p> <p>○鑑賞の題材では、各学年4ページ扱いとし、各国の文化を尊重する態度を育てたり、「みんなのギャラリー」では、伝統文化や材料を取り上げ郷土愛を育んだりすることができるように工夫されている。</p> <p>○5・6年下「龍を見る」では、古くから表されている龍について取り上げている。</p> <p>○5・6年下「墨から生まれる世界」では、伝統的に用いられている墨を使った活動を取り上げている。</p> <p>○「小さな美術館」では、諸外国の児童の作品を全学年で取り上げ、また日本や外国の美術作品を掲載している。</p> |
| 日本文 | <p>○5・6年上の「使って楽しい焼き物」の中で、陶芸作品を取り上げて紹介している。5・6年下「おもしろ筆」「墨と水から広がる世界」の中で、伝統的に用いられている墨を使った活動を取り上げている。5・6年下の鑑賞教材「わたしの感じる和」の中で、昔から受け継がれてきた形や色について取り上げている。</p> <p>○「図画工作のつながりひろがり」の3・4年下や5・6年上において、伝統的な地域にかかわる作品を作る活動を紹介している。</p> <p>○5・6年上「ひらめきポケット」では、浮世絵を取り上げている。</p> <p>○各学年の「教科書美術館」などのコーナーで、諸外国の児童や作家の作品、日本の伝統的な文化遺産、国宝、郷土の民芸品などを取り上げている。</p> |

(3) 内容の構成・配列・分量

⑦ 単元・題材資料等の配列

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 開隆堂 | <p>○ 1・2年, 3・4年, 5・6年それぞれ上下合計6冊になっている。各学年とも題材を5つの内容(造形遊び, 絵, 立体, 工作, 鑑賞)に分類して配列している。</p> <p>・題材数 1・2年 上24, 下25 3・4年 上20, 下20 5・6年 上18, 下18</p> <p>・ページ数 全ての学年で, 57ページ</p> |
| 日本文 | <p>○ 1・2年, 3・4年, 5・6年それぞれ上下合計6冊になっている。各学年とも題材を5つの内容(造形遊び, 絵, 立体, 工作, 鑑賞)に分類して配列している。</p> <p>・題材数 1・2年 上24, 下23 3・4年 上23, 下23 5・6年 上21, 下20</p> <p>・ページ数 1・2年の上のみ67ページ, その他の学年は全て65ページ</p> |

(4) 内容の表現・表記

⑧ 作品等についての示し方の工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 開隆堂 | <p>○作品や活動の情景写真に大きさや形を変えることでメリハリをつけている。</p> <p>○写真に作者や友達の会話を吹き出しで載せることで、臨場感を持たせている。</p> <p>○活動の流れを矢印で示している。</p> <p>○作品の解説として、作者の考えや感想を「 」や作品カード風で示している。</p> <p>○「友達から」として、作品に対する友達の感想を掲載している。</p> <p>例 3・4年上 p30, 31「集めて、ならべて マイコレクション」</p> <p>○掲載している作品は、大きいサイズで掲載されている作品が多い。</p> <p>第1・2学年・・・159 第3・4学年・・・169 第5・6学年・・・173 合計496</p> |
| 日本文 | <p>○作品や実際に活動している写真が、大きさを変えて多く掲載されている。</p> <p>○一つの作品を多方向から掲載している。</p> <p>例 3・4年上 p14, 15「くるくるランド」</p> <p>○作品の解説として、作者の考えや感想を載せている。</p> <p>・色をつけて作品カード風で示している。3年以上</p> <p>・吹き出しで示している。1・2年</p> <p>●掲載している作品は、小さいサイズのものが多い。</p> <p>第1・2学年・・・176 第3・4学年・・・188 第5・6学年・・・229 合計593</p> |

(5) 言語活動の充実

⑨ 表現及び鑑賞の活動における言語活動の工夫

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|------|---|
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> ○目次の次のページに教科書のタイトルと同じページを設け、（「わくわくするね」「みつけたよ」など）友達との交流の仕方や話し合いの仕方の例、美術作品の紹介や鑑賞の視点が示されている。 ○「小さな美術館」のページを鑑賞の題材のページの中に設け、鑑賞の手立てとしての問いかけが設定されている。 ○日本の伝統文化や地域のくらしの中の造形作品を鑑賞する「みんなのギャラリー」のページが設けられている。 ○題材ごとに「ふりかえり」を設け、言語活動を充実させながら学習をまとめるようにしている。 ○巻末の「造形の引き出し」の中では、作品の展示の仕方や友達との交流の仕方や話し合いの仕方が紹介してある。 ○友達とかかわりながら、友達のよいところや気づきを述べるような活動を促している。どのような造形要素に着目して述べるのか吹き出しに例が示されている。 ○裏表紙では、表紙の絵の解説を入れ、児童が作品カードを書くときの参考にすることができるようになっている。 ○表現と鑑賞の活動をどうすればよいか、方向性が示されている。 |
| 日本文 | <ul style="list-style-type: none"> ○「教科書美術館」のページを設けている。巻頭折り込み3ページに設定し、身の回りの物や作品から、形や色のおもしろさを見つけて鑑賞できるように設定されている。 ○「図画工作のつながりひろがり」（1・2年下～）のページを設け、図画工作と生活や社会とのつながりが紹介されている。（5・6上下では6ページそれ以外では2ページ） ○友達とかかわりながら体を動かす活動やアートカードを用いた鑑賞の方法が紹介されている。（5・6年上） ○各題材の最後に、活動の後で考えてみたことの例が入っており、鑑賞と表現の一体化を意識した内容になっている。 ○裏表紙に、全学年「色や形を楽しもう」で、実際に描いたりぬったりして身近な美術に触れられるようにしている。また、表紙の絵の解説を入れ、児童が作品カードを書くときの参考にすることができるようになっている。 ●表現と鑑賞の活動をどうすればよいか具体的に示されておらず、自分で考えるようにされている。 |

種 目 名 (家 庭)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 題材の目標の示し方
- ② 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るための工夫

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ③ 「生活の営みに係る見方・考え方」を意識させるための工夫
- ④ 自ら学び、自ら考える力の育成を図る工夫
- ⑤ 学習した内容を家庭や地域で実践するための記述
- ⑥ 実生活での活用に関する記述

(3) 内容の構成・配列・分量

- ⑦ 単元・題材や資料等の配列
- ⑧ 実践的・体験的な学習を実施するための工夫
- ⑨ 各教科等と関連させて学習を進める工夫

(4) 内容の表現・表記

- ⑩ 本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

(5) 言語活動の充実

- ⑪ 言葉や図表を用いて生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動の工夫

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

① 題材の目標の示し方

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-------------|--|
| 東 書 | <p>○全題材を3つの小題材で構成している。 (大題材：15 目標：45)</p> <p>①「見つめよう」→②「計画しよう・実践しよう」→ ③「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」 で展開し、3ステップで繰り返すことでどのように学ぶかを身に付け、実生活で活用できるようにしている。</p> <p>～示し方の具体例～ 「2 おいしい楽しい調理の力」 めあて</p> <p>①どのように調理を進めたらよいか考えよう。 ②食品や調理の目的に合ったゆで方が分かり、安全にいろいろな野菜やいもがゆでられるようになるろう。 ③ゆでる調理の仕方を工夫したりして、調理に生かそう。</p> |
| 開 隆 堂 | <p>○全題材を3つの小題材で構成している。 (大題材：20 目標：59)</p> <p>①「見つける・気づく」→②「わかる・できる」→③「生かす・深める」 で構成し、問題解決のプロセスに対応している。</p> <p>～示し方の具体例～ 「2 クッキング はじめの一步」 めあて</p> <p>① 調理をすることの良さを見つける。 ② 調理の手順を知って、青菜やいもをゆでることができる。 ③ ゆでる調理を生かして、調理することができる。</p> |

(1) 基礎・基本の定着

② 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るための工夫

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|-------------|---|
| 東 書 | <p>○基礎・基本となる用語は、ゴシック体で目立つようにしている。</p> <p>○学習の目標と評価を重視し、「学習のめあて」「ふり返ろう」を設けてこまめに学習を振り返ることができるようにしている。</p> <p>○実習後、「できたかな？」で自己評価できるようにしている。</p> <p>○ガスコンロの使い方や包丁の扱い方など、初めての学習の時、正しく理解できるようによい例だけでなく悪い例も写真で表している。</p> <p>○「D」マークが14箇所あり、動画で学習内容を確認することができる。</p> <p>・包丁の使い方 ・皮のむき方 ・玉結びの仕方 ・玉どめの仕方 など</p> <p>○実寸大の写真が多く、紙面に手を載せて確認しまねしながら習得することができる。（いつも確かめよう調理実習技能など）</p> |
| 開 隆 基 | <p>○基礎・基本となる用語は、ゴシック体で目立つようにしている。</p> <p>○課題を見つけ、考え・計画を立てて実践し、振り返るという思考の流れにそってスモールステップで示している。</p> <p>○実習後、「できたかな」で自己評価できるようにしている。</p> <p>○ガスコンロの使い方など、よい例の写真が載っている。</p> <p>○基礎的な技能の習得のために「QR」マークが57箇所あり、動画で学習内容を確認することができる。</p> <p>・手洗いのしかた ・包丁のもち方 ・玉結びの仕方 など</p> <p>○調理による食品の変化の写真があり、視覚的に変化をとらえやすい。</p> |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

③ 「生活の営みに係る見方・考え方」を意識させるための工夫

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|-------------|--|
| 東 書 | <p>○「家庭科の窓」を設定し、4つの視点で見方・考え方を示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力 ・健康・快適・安全 ・生活文化 ・持続可能な社会 <p>～工夫の具体例～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本の伝統マーク」を用いて日本の伝統を紹介している。 日本の伝統的な食品, だしの取り方, もったいない など15箇所 ・「環境マーク」を表示し記載している。 やかんの扱い方, ごみの分別始末 など14箇所 ・「持続可能な社会の構築」を消費者教育とあわせて一つの大題材として大きく扱っている。物を選んだり買い物をしたりするときどのように環境や資源に配慮して生活しているかを“暮らしキラリ”カードに書く活動を取り入れ, 持続可能な暮らし方を発信できるようになっている。 |
| 開 隆 堂 | <p>○生活の見方・考え方を4つの視点で紹介している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力する・助け合う ・健康・快適・安全な生活をする ・人びとの生活や文化の大切さに気づく ・持続可能な社会をめざす <p>～工夫の具体例～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境マーク」を表示し記載している。 なべややかんの扱い方, 生ごみのしまつの工夫 など10箇所 ・「伝統文化マーク」を表示し記載している。 わかした湯を使ったお茶のいれ方, ゆでる調理で和食にチャレンジ など12箇所 ・「生活を支えるお金と物」の単元では, キャラクターが吹き出しで, 「環境への影響も考えよう」とつぶやき, マイバックの持参や不要な包装紙を断るなどの例をあげて, 児童に考えさせている。 |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

④ 自ら学び、自ら考える力の育成を図る工夫

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|-------------|--|
| 東 書 | <p>○キャラクター（イエッティとトリー）や小学生男女4人の登場人物を設定し、場面に応じた表情や吹き出しを用いてのコメントを活用し、学習のヒントやポイントを示し、自分で考えることができるようにしている。</p> <p>○ステップ①、②には主体的な学びや対話的な学びにつながる活動が設定されている。活動には「話し合おう」「考えよう」など、学びを深めるために必要な活動が明記されている。</p> |
| 開 隆 堂 | <p>○キャラクター（四つ葉のクローバー）や小学生の男女2人を主人公として設定し、学習を案内したり、ヒントやポイントを伝えたりしている。また、主人公の表情や吹き出しのコメントで、児童に学習内容に興味を持たせ、課題意識をもって取り組めるようにしている。</p> <p>○学習過程では「できたかな」があり、評価する項目が具体的に示されている。学習活動を自分で確認することで主体的に自己の学びを振り返り、学習を進めることができる。</p> |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

⑤ 学習した内容を家庭や地域で実践するための記述

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|--------|---|
| 東 書 | <p>○「生活を変えるチャンス！」という取組が、2年間で5回ある。学んできたことを生かして、生活をよりよく変えることを目的として、自分で課題を見つけ取り組むものである。実践例数は少ないが、具体的に載せている。（P31, P61, P95, P115, P128）</p> <p>～活動例～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手ぬいで作る弟の小物入れ ・年末そうじ大作戦 ・家族のまくらカバーを作ろう ・わが家の「おせち作り」に挑戦！ ・感謝を伝えるパーティーを開こう！ <p>○あなたは家庭や地域の宝物という単元を設定し、家族や地域の一員として自分にできることの実践例を紹介している。</p> <p>～実践例～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との関わり ・決まりを守って快適に など |

| | |
|-------------|---|
| 開 隆 堂 | <p>○「チャレンジコーナー」という取組が、2年間で5回ある。学んできたことを生かして、生活をよりよく変えることを目的として、自分で課題を見つけ取り組むものである。(P37, P57, P75, P103, P119)</p> <p>P119 例数は多いが、詳細は載せていない。</p> <p>～活動例～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族といっしょに昼食を作ってみよう ・自分や家族の弁当包みを作ってみよう ・家族みんなで使う場所を整理・整頓してみよう ・ミシンぬいと手ぬいで、家族や自分のものを作ろう ・各地に伝わるみそやみそ料理を調べよう ・世界や地域のほっとタイムを取材してみよう ・地域のおやつ ・家族のために弁当を作ろう など <p>○「レッツトライ」という取組があり、家族や地域の人への思いをこめて学習を生かすための計画や実践例を掲載している。</p> <p>～実践例～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしの仕事スペシャルデイ～家族のために～ ・お世話になった方がたに日ごろのお礼を伝えよう～感謝の気持ちをこめて～など |
|-------------|---|

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

⑥ 実生活での活用に関する記述

| 発行者名 | 意 見 (○ 長所 ● 課題) |
|-------------|---|
| 東 書 | <p>○各題材の活動の最後に、「深めよう」という取組が 17 箇所あり、既習事項を活用して学びを深めることができるように工夫している。</p> <p>～具体的な活動例～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にできる仕事を見つけ、計画し、進んで実践しよう。 ・学んだことを生かして、家庭で家族といっしょに作りたい「オリジナルのゆで野菜サラダ」を考えましょう。 など |
| 開 隆 堂 | <p>○各題材のまとめに、自己評価や実践の手がかりとなる「生活に生かそう」が 19 箇所あり、児童が自分の考えを書き込むスペースがある。</p> <p>～具体的な記載～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは、学習したことをどのように生かしてみたいですか。 <p>(例) ゆでる料理で食事の一品を作ってみたい。 など</p> |

(3) 内容の構成・配列・分量

⑦ 単元・題材や資料等の配列

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|-------------|--|
| 東 書 | <p>○第5学年が大単元8，第6学年が大単元7で構成されている。</p> <p>○各学年の「成長の記録」が目次の裏面に記載されており，分かったこと・できるようになったことを振り返ることができる。</p> <p>○「快適な過ごし方」についての単元が，夏・冬とも第6学年にまとめられている。また，「身の回りの整頓・掃除」に関する題材は第5学年の1単元にまとめている。</p> <p>○2年間で学習する内容が目次に分かりやすく示している。</p> <p>●「図」「資料」など情報量が多いページがある。</p> |
| 開 隆 堂 | <p>○第5学年が大単元11，第6学年が大単元9で構成している。</p> <p>○2学年の学習を振り返るページが巻末に記載されており，自分の生活を振り返ることができる。項目はあまり詳細ではない</p> <p>○「快適な過ごし方」（冬・・・第5学年，夏・・・第6学年） 「整頓・掃除」（整理整頓・・・第5学年，掃除・・・第6学年）に関する単元を5年と6年に分けている。</p> <p>○2年間で学習する内容が目次に分かりやすく示している。</p> <p>●1単元2ページしかないものがある。</p> |

(3) 内容の構成・配列・分量

⑧ 実践的・体験的な学習を実施するための工夫

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|--------|---|
| 東 書 | <p>○実践的・体験的な学習の具体例数 60 ～工夫の具体例～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元末に「できたかな？」のコーナーで，実践や体験のチェックをすることができるようになっている。 ・活動マークを示し，具体的な活動内容や活動方法が示されており生活の中の様々な場面で実践できそうな活動例も紹介してある。 ・作業工程の手順や流れが，横流れのレイアウトで示されており，写真やイラストも効果的に使われているので，見通しをもって作業しやすくなっている。 ・「生活を変えるチャンス！」では，学期末に今までの学習を生かして出来る取組例とまとめ方の例が示されており，実践の進め方の参考にすることができる。 |

| | |
|-------------|--|
| 開 隆 堂 | <p>○実践的・体験的な学習の具体例数 71 ～工夫の具体例～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習ページなど、作業工程が大切なページでは、手順や流れが横流れのレイアウトで示されている。 ・実習のページでは、「できたかな」のコーナーが複数設定されており、具体的な技能ができたかどうかチェックすることができるようになっているので、どんなことができるようになればよいか具体的にわかりやすくなっている。 ・青枠で「調べよう」「考えよう」「やってみよう」など、児童の活動内容が示されている。 ・各学期末の「チャレンジコーナー」は長期休暇を利用した家庭実践への主体的な取組に向けた題材となっている。 |
|-------------|--|

(3) 内容の構成・配列・分量

⑨ 各教科等と関連させて学習を進める工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-------------|---|
| 東 書 | <p>○他教科の学習内容と家庭科の学習内容の関連をマークを付けて示している。29箇所 (P46 理科6年 人の体のつくりと働きなど)</p> <p>○家庭科と関係のある英単語とその訳を載せている。46個 (P11 green tea, P15 boil など)</p> |
| 開 隆 堂 | <p>○関連マークを示し、教科、学年、単元概要を示している。43箇所 (P9 道徳5・6年 家族愛・家庭生活の充実 など)</p> <p>○ページの下に家庭科の用語の日本語表記と英語表記を載せている。130個 (P8 家族/family, P9 生活/life など)</p> <p>「ことばのページ」を巻末に設けて、一覧にして掲載している。</p> |

(4) 内容の表現・表記

⑩ 本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・写真等の活用

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-------------|--|
| 東 書 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習上参考となる資料等を主に「資料」(36個)や「図」のマーク(49個)等を取り上げている。 ○すべての大題材の導入ページで、「リード文」「学習の流れ」「活動」「家庭科の窓」「ステップごとのめあて」「本文」など同じ項目を設置し構造的に示すことで学習の見通しが立てやすい。 ○学習内容のテーマカラーを設定し、系統性が可視化できるように工夫されている。 ○作業行程や手順について簡潔なコメントで示されており、児童に理解しやすい。 ○問題解決的な学習が、3ステップで展開されており、学習がどのステップなのかイラストで示している。 ○巻末資料の調理実践技能や制作実践技能のページでは、実寸大写真(右きき用と左きき用)を用いて児童がイメージをつかみやすいように示しており、いつでも確かめることができる。 ○「安全」のコーナーで、活動する際の安全への配慮がイラストや写真を交えながら詳しく説明している。 |
| 開 隆 堂 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習上参考となる資料等を主に「参考」(18個)や「■」のマーク(66個)等を取り上げている。 ○見開き2ページを使い、学習の手順が横一列に示されており、留意すべき点を丁寧に記述している。 ○必要だと思われる情報が、「参考」「一口メモ」などでまとめて示している。 ○玉結びやボタン付けなどについて、拡大写真とイラストを並列して示す工夫がされている。 ○「安全」のコーナーで、活動する際の安全への配慮をイラストや写真を交えながら説明している。 ●調理等の実習手順の写真が少なく、サイズが小さい。 |

(5) 言語活動の充実

- ⑪ 言葉や図表を用いて生活をよりよくするための方法を考えたり，説明したりする学習活動の工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--|-----|-------|-----|--|--|-------|-------|-----|------|-----|--|------|-----|-------|-----|--|--------|-----|-------|----|--|-------|----|--|--|
| 東 書 | <p>○活動のマーク「話し合おう」「考えよう」「調べよう」等の場面を意図的に設定し，生活をよりよくするための方法を調べたり考えたり説明したりする活動を取り上げている。</p> <table border="0" data-bbox="336 600 1149 723"> <tr> <td>活動マーク</td> <td>話し合おう</td> <td>15個</td> <td>調べよう</td> <td>12個</td> </tr> <tr> <td></td> <td>考えよう</td> <td>8個</td> <td>深めよう</td> <td>17個</td> </tr> <tr> <td></td> <td>やってみよう</td> <td>22個</td> <td>交流しよう</td> <td>1個</td> </tr> </table> <p>○学習した内容をレポートや新聞，スクラップブックにまとめる例を示すとともに，具体的で取りかかりやすい言語活動の方法を示している。</p> <p>○友だちや地域の人々への発表・発信の例を紹介している。</p> | | | | | | 活動マーク | 話し合おう | 15個 | 調べよう | 12個 | | 考えよう | 8個 | 深めよう | 17個 | | やってみよう | 22個 | 交流しよう | 1個 | | | | | |
| 活動マーク | 話し合おう | 15個 | 調べよう | 12個 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 考えよう | 8個 | 深めよう | 17個 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | やってみよう | 22個 | 交流しよう | 1個 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 開 隆 堂 | <p>○「調べよう」「考えよう」「話し合おう」の活動を設定し，生活をよりよくするための方法を調べたり考えたり説明したりする活動を取り上げている。</p> <table border="0" data-bbox="336 1081 1181 1240"> <tr> <td>活動マーク</td> <td>話し合おう</td> <td>7個</td> <td>調べよう</td> <td>11個</td> </tr> <tr> <td></td> <td>考えよう</td> <td>12個</td> <td>発表しよう</td> <td>1個</td> </tr> <tr> <td></td> <td>やってみよう</td> <td>10個</td> <td>交流しよう</td> <td>1個</td> </tr> <tr> <td></td> <td>まとめよう</td> <td>1個</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○各単元の終わりに「生活に生かそう」のコーナーを設定し，学習したことをもとに短いことばでまとめる例を示している。</p> <p>○「生活の課題と実践」のページを新設し，課題解決に向かうためのステップを示したり，実践例を紹介したりしている。</p> | | | | | | 活動マーク | 話し合おう | 7個 | 調べよう | 11個 | | 考えよう | 12個 | 発表しよう | 1個 | | やってみよう | 10個 | 交流しよう | 1個 | | まとめよう | 1個 | | |
| 活動マーク | 話し合おう | 7個 | 調べよう | 11個 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 考えよう | 12個 | 発表しよう | 1個 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | やってみよう | 10個 | 交流しよう | 1個 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | まとめよう | 1個 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

種 目 名 (保 健)

【調査研究の具体的観点】

(1) 基礎・基本の定着

- ①単元の導入の仕方
- ②課題提示の工夫
- ③けがの手当の実習に関する記述

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ④興味・関心を高めるための工夫
- ⑤実生活、実社会に関連づけられるような記述や話題、題材の工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

- ⑥単元・題材や資料等の配列
- ⑦発展的な学習に関する内容の記述

(4) 内容の表現・表記

- ⑧本文記述との適切な関連づけがなされたイラスト、写真、吹き出し図表等の活用

(5) 言語活動の充実

- ⑨知識や経験に照らして自分の考えをまとめ、書いたり話したりする活動の工夫

【調査研究結果】

No. (1)

(1) 基礎・基本の定着

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 大日本 | <p>○けがの手当の仕方を絵と言葉で説明し、友だちがけがをした場面を想定し、友だちにどんな言葉をかけるかを考えさせる。</p> <p>○学校生活の場面をイラストで表し、課題を見つけ出す作業から保健の学習への関心を持たせる導入になっている。</p> <p>●挿絵の導入が課題とつなげにくい単元もあった。</p> |
| 文教社 | <p>○教室や運動場、体育館などの身近な学校の場面のイラストを見て、危険個所を探す活動から始めることができる。</p> <p>○チェック表を使って、自らを振り返るところから学習をスタートさせようとしている。</p> |
| 学研 | <p>○単元の最初に「ここで学ぶこと」を示し、学習の全体像を明確にしている。</p> <p>○けがの手当の仕方を絵と言葉で説明し、3～4人のグループで手当の実習を行う学習場面を設定している。</p> |
| 東書 | <p>○ステップ1の導入では、「気づく・見つける」として、写真や資料から気づきをメモできる。</p> <p>○手当の説明の記述の後に、「けがの例」から「手当の方法」を考え、「この方法を選んだ理由」「適切な手当ができたか」を選択肢の中から選び、記入する流れになっている。</p> |
| 光文 | <p>○4コマ漫画での導入は、児童の興味関心を高める。</p> <p>○「話し合おう」「調べよう」として、イラスト・写真などを利用した活動が設定されている。</p> |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

| 発行者 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-----|--|
| 大日本 | <p>○イラストがあることで身近な事象に目を向けやすい。</p> <p>○シール教材 (3・4年生) を使って、自身の身長伸びをグラフ化する活動やまとめの自己評価ができるようになっている。</p> <p>○「発展」のページや、どのページにも「ミニちしき」の記載がある。</p> <p>○実際の災害時の写真が詳しく掲載されている。</p> <p>●イラストや写真がやや小さめである。(教科書サイズの関係か)</p> <p>●心と体のつながりが文字だけで表されているのでわかりにくい。</p> |
| 文教社 | <p>○様々な自然災害の写真などイラストや写真が大きく、数も多い。</p> <p>○実際の災害時の写真が詳しく掲載され、緊急警報についても記載がある。</p> <p>○自分自身の身長伸びをグラフ化する活動ができる。</p> <p>○体のつながりについて、自分の経験を引き出している。</p> <p>○犯罪被害を防ぐ標語や減災についての資料が掲載されている。</p> <p>○事故やけがの学習を振り返るヒントがキャラクターの吹き出しを通して表現されている。</p> |
| 学研 | <p>○単元を通じて、写真や臨場感のあるイラストが多く、興味関心が高められるよう工夫されている。</p> <p>○自分の生活を振り返る場面が多い。</p> <p>○災害の実際の写真が詳しく掲載され、緊急警報についても記載がある。</p> <p>●事故やけがの学習を振り返るヒントが吹き出しで網羅してあるが、興味は引き出しにくい。</p> <p>●自分自身の身長伸びをグラフ化する活動が少ない。</p> |
| 東書 | <p>○様々な自然災害の写真など、単元を通じてイラストや写真が多く、自分自身の身長伸びをグラフ化する活動がある。</p> <p>○ワークシート形式で書き込むスペースが多く、作業をすることで興味関心が高められる工夫がされている。</p> <p>○「ユニバーサルデザイン」「自転車安全利用五則」「インターネットによる犯罪被害」などの資料が掲載されている。</p> <p>○潜んでいる危険を考えさせ、対策について考えを記述させる欄がある。</p> |
| 光文 | <p>○身の回りのことについて考えるイラストがあり課題を見つけやすい。</p> <p>○「話し合おう」「調べよう」としてイラスト、写真などを利用した活動が設定されている。</p> <p>○自分自身の身長伸びをグラフ化する活動ができる。</p> <p>○「ネットの正しい使い方」や「心肺蘇生法とAED」等の資料掲載がある。</p> <p>○危険を感じた場面を思い出させ、けがを防ぐための安全な行動を考えさせるための記述がある。</p> |

(3) 内容の構成・配列・分量

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 大日本 | <p>○教科や学年との関連が図られている。</p> <p>○見開き (2 ページ分) で小単元がまとめられている。</p> <p>○どの学年で学習する内容なのかという記述がある。</p> <p>○体の変化では、外見と体内の変化を小単元に分けて構成してある。</p> |
| 文教社 | <p>○悩みへの対処を①②と構成し、すっきり宣言まで導いている。</p> <p>○けがの手当ての方法に触れてから、最後にけがの種類・程度を見て判断する必要性について記載されている。</p> <p>○体の変化では、外見と体内の変化を小単元に分けて構成してある。</p> |
| 学研 | <p>○最後に、「ふりかえる・ふかめる・つなげる」の3つの構成でまとめとしている。</p> <p>○感情・社会性・思考力の3つがわかりやすくまとめられている。</p> <p>○体の変化では、外見と体内の変化を小単元に分けて構成してある。</p> |
| 東書 | <p>○体の部位を表す資料に英語が使われているなど、他教科と関連が図られている。</p> <p>○PC, スマホ, ゲーム機等の影響についての資料がある。</p> <p>○他教科・単元との関連がわかる。</p> <p>○小学校のどの学年のどの単元と関連があるのかが記載されている。</p> <p>○学習の進め方は、ステップ1, 2, 3, 4となっているので、学習の流れを作りやすい。</p> |
| 光文 | <p>○性的マイノリティについての資料がある。</p> <p>○対処法が詳しく記述されている。</p> <p>○中学校の保健体育で取り扱うこと、4年生の社会科との関連が記されている。</p> <p>○体の変化では、外見と体内の変化を小単元に分けて構成してある。</p> |

【調査研究結果】

No. (4)

(4) 内容の表現・表記

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○年齢とともに発達するグラフや図がわかりやすい。 ○運動への関心がさらに高まるように、多様な体の動かし方がのっている。 ○「けがの手当て」の学習のページには、けがの種類や程度の判断の必要性和大きなけがが起こった時の対処法や通報の仕方についての記述がある。 ○「AED」についての資料が掲載されており、「中学校2年生の保健体育で詳しく学習します。」との記述がある。 |
| 文教社 | <ul style="list-style-type: none"> ○まとめが色分けをしてあり、わかりやすい。 ○いっごころ体に変化したのかのグラフデータがある。 ○「けがの手当て」の学習ページには、けがをした時の対処法について図を使って説明している。 |
| 学研 | <ul style="list-style-type: none"> ○写真や実験資料がわかりやすい。 ○体つきの変化が写真資料でわかりやすい。 ○挿絵が高学年らしく身近に感じる。 ○背骨を通る神経がリアルに表現されている。 ○「けがの手当て」の学習のページには、けがの種類や程度の判断の必要性和大きなけがが起こった時の対処法や通報の仕方についての記述がある。 |
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○健康に関わる人の記載があり、資料の写真が多い。 ○いっごころ体に変化したのかのグラフデータがある。 ○体つきの変化が写真資料でわかりやすく、比較がしやすい。 ○「けがの手当て」の学習のページには、まず、けがの種類や程度を速やかに判断する必要性についての記述がある。 |
| 光文 | <ul style="list-style-type: none"> ○運動について詳しく理解が深められるページがある。 ○スマホのルールなどの記述がある。 ○心と体のつながりに影響している場所を示している。(心臓・胃・大腸) ○いっごころ体に変化したのかのグラフデータがある。 ○体つきの変化が写真資料でわかりやすく、比較がしやすい。 ○「けがの手当て」の学習のページには、「学校で実際に起きたけが」のグラフが記載されており、吹き出しには「自分で手当てできるけがはあるかな」と記載されている。 ○「けがの手当て」の学習のページには、けがの種類や程度の判断の必要性和大きなけがが起こった時の対処法や通報の仕方についての記述がある。 |

【調査研究結果】

No. (5)

(5) 言語活動の充実

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> ○「活用して深めよう」では、自分の生活を振り返って考える活動が工夫されている。 ○単元の最後のページが記述式のまとめになっている。 ○「ミニ知識」がページ下にあり、情報提供している。 ○絵を見て、「予測される危険」、「安全な行動」を記述するようになっている。 ●書くスペースが少なく小さい。 |
| 文教社 | <ul style="list-style-type: none"> ○学んだことを生かして書くスペースがある。 ○「新しい自分にレベルアップ」では、学んだことから、今の自分やこれからの自分を考えることができるように工夫されている。 ○小単元の終わりに学習のまとめとして記述する欄がある。 ●全体的に記入欄が少ない。 |
| 学研 | <ul style="list-style-type: none"> ○学んだことを生かして書くスペースがある。 ○「まとめる・深める」では、自分の生活につなげたり、目標を立てたりする活動が工夫されている。 ○事故の原因を①「人の行動」②「心の状態や体の調子」③「環境」の3つに分けて記述できるようになっている。(他社は①③の2つ) ○単元の最後のページが記述式のまとめになっている。 ○キーワードの解説が多い。 ●記述欄がせまい。 |
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○全体がワークシート形式になっており、書いたり話したりする活動ができる。記入欄の幅が広く、細かく記入できる。 ○課題発見・思考・まとめなど、それぞれの場面で記述できるスペースが充実している。 ○他の人の意見を聞いて考えたことを記述する欄がある。 ○たしかめ(小テスト)できるページがある。 ○「まめちしき」が所々にあり、情報提供している。 |
| 光文 | <ul style="list-style-type: none"> ○考えや思ったことを書く欄が多い。 ○「学んだことを生かそう・伝えよう」では、生活を振り返ったり、自分の生活につながる目標を考えたりする活動が工夫されている。(毎時間記述できる) ○キーワードが解説されている。 ○単元の最後のページが記述式のまとめになっている。 ○話し合う場面が多く設定されている。 |

種 目 名 (外 国 語)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 単元の目標の示し方, Can-Doリストの示し方
- ② 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための工夫（自分の考えや意見を伝える表現「want to～」がどの単元（Unit, Lesson）で出てくるか）
- ③ ワードリストの示し方（ページ数, イラスト, 4線表記での示し方）

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ④ 興味・関心を高めるための工夫
 - ・ 「行ってみたい国や地域」における単元の導入の工夫
- ⑤ 単元等における振り返りの工夫
 - ・ 第5学年「身近な人の紹介」における具体例
- ⑥ 巻末資料・付録等の工夫
 - ・ 資料, 児童用カードや言語活動シートの具体例

(3) 内容の構成・配列・分量

- ⑦ i 単元数, ii 単元における4技能5領域のバランス
- ⑧ 知識・技能の活用を促す言語活動の設定
- ⑨ 異文化理解についての工夫（異文化理解についての読みもの資料等の情報）

(4) 内容の表現・表記

- ⑩ 学習内容との適切な関連付けがなされたイラスト, 写真等の活用
- ⑪ 文字の示し方と4線ノート, ローマ字の扱い
- ⑫ ICT環境への対応

(5) 言語活動の充実

- ⑬ 児童の身近な暮らしに関わる場面設定の工夫
 - ・ 他教科等との関連についての表記の仕方
- ⑭ 対話的な学びを促す言語活動の工夫
 - ・ 6学年の自己紹介を扱った単元内で, 自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動の工夫

様式 1 - 2

【調査研究結果】

(1) 基礎・基本の定着

- ① 単元の目標の示し方, Can-Doリストの示し方
- ② 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための工夫 (自分の考えや意見を伝える表現 「want to～」 がどの単元 (Unit, Lesson) で出てくるか)
- ③ ワードリストの示し方 (ページ数, イラスト, 4線表記での示し方)

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|---|
| 東書 | <p>①○第5・6学年の教科書ともに, 単元の冒頭にOur Goalとして, 各単元の学習目標を提示している。</p> <p>○Can-Doリストが別冊の「Picture Dictionary」の中に示されている。5年生と6年生の2年間を見通した目標の示し方となっている。また単元ごとの目標が示されている。できたかできなかったかをチェックするようになっている。</p> <p>②○「want to～」の初出は5年の教科書のUnit 3である。その後, 6年の教科書のUnit 3 (Let's go to Italy.) , Unit 8 (My Future, My Dream) で再出する。</p> <p>③○ワードリストが「Picture Dictionary」として, 別冊になっている。カラーのイラストとともに表示されており, ジャンル別にまとめられている。(全28ページ)</p> <p>○単語が4線上に書かれている。</p> |
| 開隆堂 | <p>①○第5・6学年の教科書ともに, 単元の冒頭に各単元の学習目標を提示している。</p> <p>○第5・6学年のそれぞれの教科書のはじめに, Can-DoリストがCAN-DOマップの形で示されている。また, 単元ごとの目標が示されている。できたかできなかったかを4段階でチェックするようになっている。</p> <p>②○「want to～」の初出は6年の教科書のLesson3である。その後, 6年の教科書のLesson 5(I want to see the Milky Way.), Lesson 8(What sports do you like?), Lesson 10(I have a dream.), Lesson 11(Junior High School Life)で再出する。</p> <p>③○第5学年の教科書では, ワードリストが単語リストとして, 巻末に英和辞典のように, A/aからZ/zまで表示されている。単語・連語について, 日本語訳と, その教科書ではじめて出るページ数が表示されている。(全6ページ)</p> <p>●イラストがない。</p> <p>●単語が4線上に書かれていない。</p> |
| 学図 | <p>①○第5・6学年の教科書ともに, 単元の冒頭にレッスンの目標として各単元の学習目標を提示している。</p> <p>●第5・6学年の教科書ともに, Can-Doリストは示されていない。</p> <p>②○「want to～」の初出は5年の教科書のLesson9である。その後, 6年の教科書のLesson 3(What festival do you want to see?), Lesson 6(Where do you want to go?), Lesson 7(What's your best memory?),</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>Lesson 8(What do you want to be?), Lesson 9(Who is this?), Lesson 10(What club do you want to join?)で再出する。</p> <p>③○第5学年の教科書では、ワードリストが「Word List」として、巻末にジャンル別にまとめられている。カラーのイラストとともに表示されている。(全8ページ)</p> <p>●第3線のみ表示はあるが、単語が4線上に書かれていない。</p> |
| 三省堂 | <p>①○第5・6学年の教科書ともに、単元の冒頭に、各単元の学習目標を提示している。</p> <p>○第5・6学年それぞれの教科書の巻末に、Can-Doリストは示されているが、●どの単元の目標なのかが明確ではない。</p> <p>②○「want to～」の初出は5年の教科書のLesson 7である。その後、6年の教科書のLesson 2(We have Children's Day in May.), Lesson 6(I want to be a vet.)で再出する。</p> <p>③○第5学年の教科書では、ワードリストが「Words & Phrases」として、巻末にジャンル別に分けて表示してある。カラーのイラストとともに表示されている。(全16ページ)</p> <p>●第3線のみ表示はあるが、単語が4線上に書かれていない。</p> |
| 教出 | <p>①○第5・6学年の教科書ともに、単元の冒頭に、各単元の学習目標を提示している。</p> <p>●第5・6学年の教科書ともに、Can-Doリストは示されていない。</p> <p>②○「want to～」の初出は5年の教科書のLesson 6である。その後、6年の教科書のLesson 5(What country do you want to visit?), Lesson 6(Olympics and Paralympics), Lesson 8(What do you want to be?), Lesson 9(Junior High School Life)で再出する。</p> <p>③○第5学年の教科書では、ワードリストが「My Word Bank」として、巻末にジャンル別にまとめられている。カラーのイラストとともに表示されている。(全6ページ)</p> <p>●第3線のみ表示はあるが、単語が4線上に書かれていない。</p> |
| 光村 | <p>①○第5・6学年の教科書ともに、単元の冒頭にGoalとして、各単元の学習目標を提示している。</p> <p>○第5・6学年それぞれの教科書のはじめに、Can-Doリストが示されている。学習したら、☆を塗るようになっている。</p> <p>○第5・6学年の教科書ともに、どの単元の目標かは分かるが、●1つの単元の目標が多く児童の学習での取り扱いが困難になる可能性がある。</p> <p>②○「want to～」の初出は5年の教科書のUnit 6である。その後、6年の教科書のUnit 3(What do you want to watch?), Unit 8(What do you want to be?), Lesson 9(Junior High School Life)で再出する。</p> <p>③○第5学年の教科書では、ワードリストが「絵辞典」として、ジャンル別にまとめられている。カラーのイラストとともに表示されている。(全14ページ)</p> <p>●単語が4線上に書かれていない。</p> |

| | |
|-------------|---|
| 啓 林 館 | <p>①○第5・6学年の教科書ともに、単元の冒頭にGOALとして、各単元の学習目標を提示している。</p> <p>○第5・6学年それぞれの教科書の巻末に、5領域のCan-Doリストが示されているが、●単元ごとの目標として示されていない。</p> <p>②○「want to～」の初出は5年の教科書のUnit6である。その後、6年の教科書のUnit 7(I want to be a vet.), Unit 8(I want to join the brass band.)で再出する。</p> <p>③○第5学年の教科書では、ワードリストが「Word List」として、ジャンル別にまとめられている。カラーのイラストともに表示されている。(全19ページ)</p> <p>●第3線のみ表示はあるが、単語が4線上に書かれていない。</p> |
|-------------|---|

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ④ 興味・関心を高めるための工夫
 - ・「行ってみたい国や地域」における単元の導入の工夫
- ⑤ 単元等における振り返りの工夫
 - ・第5学年「身近な人の紹介」における具体例
- ⑥ 巻末資料・付録等の工夫
 - ・資料，児童用カードや言語活動シートの具体例

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|------|--|
| 東書 | <p>④○第6学年 Unit 3 では，見開きページを活用して，単元名，学習のめあてと，世界の建物や食べ物等の写真やイラストを掲載し，児童の興味・関心を高めている。</p> <p>○第6学年 Unit 3 では，二次元コードを活用し，世界の有名な建物や食べ物等について聞く・読む・書く活動，歌，チャンツを設定している。</p> <p>⑤○第5学年 Check Your Steps 3:「日本のすてき」では，英語の先生に紹介するスピーチの後，自分が行ったスピーチについて，スピーチの内容，相手に伝える工夫の2観点で振り返りを行うことができる。</p> <p>（ア） 各学年に Story Time というお話を読む教材が付いている。</p> <p>○各学年に Sounds and letters というページがあり，アルファベットを聞いたり書いたりすることができるようになっている。</p> <p>○児童用カードの切り離しには，はさみを使わなくてもよい。</p> <p>○児童用アルファベットカードの文字は色分けしてある。</p> <p>○各学年に，コミュニケーションカードという，それぞれの単元の言語活動で活用できる児童用カードがついている。</p> <p>○第5学年にアルファベットの書き方・ローマ字表が付いている。</p> <p>○第6学年に Let' s Read and Write, Make an Original Song!, アルファベットチャートが付いている。</p> <p>○別冊で「Picture Dictionary」が付いている。</p> |
| 開隆堂 | <p>④○第6学年 Lesson 3 では，見開きページを活用して，単元名，学習のめあてとともに，世界の建物や動物，食べ物等の写真，国旗と国名を掲載し，児童の興味・関心を高めている。</p> <p>○第6学年 Lesson 3 では，二次元コードを活用し，ツアープランナーの話聞く活動，チャンツ，ゲーム，クイズを設定している。</p> <p>⑤○第5学年 Lesson 6:My Hero では，その単元で学習したことについて，言い方がわかった，しょうかいすることができた，しょうかいしようとした，の3観点で振り返りを行うことができる。</p> <p>⑥○各学年に発音指導のための「発音クリニック」のページがある。</p> <p>○各学年にローマ字表・アルファベット表が付いている。</p> |

| | |
|-------------|---|
| | <p>○各学年に、学んだことにチェックをする「この教科書で学んだことリスト」がある。</p> <p>○第6学年には「中学校へつなげよう」というふろくが付いている。</p> <p>●各学年に、単語リストがあるが、英語と日本語訳のみで絵はない。</p> <p>●児童用カードの切り離しには、はさみが必要。</p> <p>●児童用アルファベットカードの文字は全て単色黒色である。</p> <p>○児童用アルファベットカードの裏面には、そのアルファベットで始まる単語の絵が印刷してある。</p> <p>○第5学年には単元で使える名刺カードが6枚付いている。</p> |
| 学 図 | <p>④○第5学年 Lesson 9 では、単元冒頭にはレッスンのとびらとして、単元名、学習のめあてとともに、学習の進め方を掲載している。また、見開きページを活用して、行きたい場所について話している授業中のイラストを掲載し、児童の興味・関心を高めている。</p> <p>○第5学年 Lesson 9 では、学級の児童が行きたい場所について話している内容を聞く活動、歌を設定している。</p> <p>⑤○第5学年 Lesson 10:Who is your hero?では、その単元で学習したことについて、言うことができた、読み・書き写すことができた、たずね合うことができた、たずね合おうとしたの4観点で振り返り、ひとことを書くことができるようになっている。</p> <p>⑥○各学年に Songs for Lessons というページがあり、英語の歌が掲載されている。</p> <p>○各学年に Word List というページがあり、絵辞書になっている。</p> <p>○各学年に4線を使ってのアルファベットの「練習コーナー」が付いている。</p> <p>○各学年にローマ字表が付いている。</p> <p>●児童用カードは付いていない。</p> <p>○学んだ英語を使った、まとめの発表ができるページがある。</p> |
| 三 省 堂 | <p>④○第5学年 Lesson 7 では、見開きページを活用して、単元名、学習のめあてとともに、世界地図、世界の建物や動物、食べ物等の写真やイラスト、国名を記載し、児童の興味・関心を高めている。</p> <p>○第5学年 Lesson 7 では、二次元コードを活用し、世界の有名な建物や食べ物等の写真やイラストを見ながら英語を聞く活動を設定している。</p> <p>⑤○第5学年 Presentation 2:He is a music teacher.では、自分が行った2回のプレゼンテーションについて、それぞれ Goal は達成できたか、質問の順番の工夫、次の活動で工夫したいことの3観点と、目標が達成できたか、次はどんな工夫をしたいかの2観点で振り返りを行うことができる。</p> |

| | |
|----|--|
| | <p>⑥○各学年に CAN-DO リストがついている。 ○各学年に Alphabet についてのページがある。 ○第5学年に「英語の文字」のページがある。 ○各学年に、ことばや世界の文化についてのコラムがある。 ○各学年に Words & Phrases がついており、絵付きのワードリストになっている。 ○各学年に、その学年で学習した主な表現のページがある。 ○各学年に、ミシン目で切り離すことのできる「ローマ字表・アルファベット表」がある。 ●児童用カードは、切り離しにはさみが必要。 ○第5学年には児童用アルファベット大文字・小文字（ゴシック体）カード、時差時計が付いている。 ○児童用アルファベットカードは色分けしてある。 ○第6学年には、Memory Book 台紙、絵日記台紙、プロフィールカード台紙、お助け表現集が付いている。</p> |
| 教出 | <p>④○第5学年 Lesson 6 では、見開きページを活用して、単元名、学習のめあてとともに、日本の建物や祭り、食べ物等の写真を掲載し、児童の興味・関心を高めている。 ○第5学年 Lesson 6 では、登場人物の行きたい旅行先について映像と合わせて聞く活動、チャンツ、外国の人におすすめしたい日本の旅行先について考える活動を設定している。 ⑤○第5学年 Lesson 9:This is my dream friend.では、その単元で学習したことについて、伝え方を知って言うことができたか、表現を知って言うことができたか、考えて書いて紹介することができたか、わかりやすく話そうとしたりよく聞こうとしたりすることができたかの4観点で振り返りを行うことができる。 ⑥○各学年に My Word Bank という絵付きのワードリストがある。 ○各学年に Let' s Enjoy the Music という歌が付いている。 ○各学年に Jingle が付いている。 ○各学年にアルファベット表・ローマ字表が付いている。 ○各学年に単元の言語活動で使えるワークシートが付いている。 ○児童用カードの切り離しには、はさみを使わなくてもよい。 ○児童用アルファベットカードの文字は色分けしてある。 ○第5学年に活動用シールが付いている。 ○第6学年には Look at the World, 「知らない言葉を調べてみよう」のページがある。</p> |
| 光村 | <p>④○第5学年 Unit 6 では、見開きページを活用して、単元名、学習のめあてとともに、世界地図、世界の建物や動物などの写真やイラスト、国旗を掲載し、児童の興味・関心を高めている。 ○第5学年 Unit 6 では、二次元コードを活用し、映像を見ながら、世界の国々についての会話を聞く活動やゲームを設定している。 ⑤○第5学年 Unit 9:My hero is my brother.では、その単元で学習したことについて、あこがれの人を紹介することができた、映像を見てどんなことに気づ</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>いたか、あこがれの人の話からどんなことをもっと知りたいと思ったかの3観点で振り返ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●振り返りシールの活用の仕方が難しい。 ⑥○第6学年には、「中学校に向けて英語の学習を続けていこう」というページがある。 ○各学年に、絵辞典がある。 ○各学年に、それぞれの学年で学習した表現がまとめてある。 ○各学年に、Sounds and Letters といって、音声に合わせてアルファベットジンを言ったりおはじきゲームをしたりできるページがある。 ○各学年に、Let's play sugoroku. というページがあり、英語ですごろくをする活動ができる。 ○各学年に、学びのパスポートというページがあり、自分のことについて絵や英語などでまとめることができる。 ○各学年に、ローマ字の表が付いている。 ○各学年に、ペンマンシップシート・アルファベット表が付いている。 ○各学年に、学習で活用できるシールが付いている。 ●児童用カードは、切り離しにはさみが必要。 ●児童用アルファベットカードの文字は全て単色黒色である。 |
| 啓林館 | <ul style="list-style-type: none"> ④○第5学年 Unit 6 では、見開きページを活用して、単元名、学習のめあてとともに、世界地図、世界の建物や動物、食べ物等の写真やイラスト、国旗を掲載し、児童の興味・関心を高めている。 ○第5学年 Unit 6 では、夢の海外旅行計画について聞く活動を設定している。 ⑤○第5学年 Unit 5: This is my sister. では、Part ごとの達成度を3段階で振り返り、さらに Looking Back で、その単元で学習したことについて、家族をしようかできるか、得意なことを言えるか、身近な人についてとくちょうなどをしようかできるか、言いたいけど言えなかったことやもっと知りたいこと、学習した英語をどんな場面で使いたいかの5観点で振り返ることができる。 ⑥○各学年に、絵付きの Word List がある。 ○各学年に、アルファベット表がある。 ○各学年に Can-Do List が付いている。 ○第5学年に、教科書に出てきた英語の歌が付いている。 ○第6学年に、ヘボン式ローマ字表がある。(第5学年は巻頭にある) ○児童用カードの切り離しには、はさみを使わなくてもよい。 ○児童用アルファベットカードの文字は、色分けしてないが、白抜きになっているので、各自で色を塗ることはできる。 |

(3) 内容の構成・配列・分量

- ⑦ i 単元数, ii 単元における4技能5領域のバランス
- ⑧ 知識・技能の活用を促す言語活動の設定
- ⑨ 異文化理解についての工夫（異文化理解についての読みもの資料等の情報）

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|------|---|
| 東書 | <p>⑦○ i 第5学年 単元数…Unit 8 第6学年 単元数…Unit 8 ii 第6学年「夏休みの思い出」における4技能5領域に関連した言語活動のマーク数…聞く；読む；話す（やり取り）；話す（発表）；書く=4；5；4；1；5</p> <p>⑧○各単元の終末Enjoy Communicationにおいて、「話す」活動を設定している。また、3回のCheck Your Stepsでも、習得した知識・技能を活用するスピーチ活動を設定している。</p> <p>⑨○異文化理解について、各単元末に「Over the Horizon」が設定してある。</p> |
| 開隆堂 | <p>⑦○ i 第5学年 単元数…Lesson 9 第6学年 単元数…Lesson 11 ii 第6学年「夏休みの思い出」における4技能5領域に関連した言語活動のマーク数…聞く；読む；話す（やり取り）；話す（発表）；書く=5；3；0；1；1</p> <p>⑧○各単元の終末Let's Tryにおいて、「話す」活動を設定している。また、2回のProjectで、習得した知識・技能を活用したクイズやスピーチ活動等を設定している。</p> <p>⑨○単元の学習は、異文化理解について意識されているが、●読みもの資料等はない。</p> |
| 学図 | <p>⑦○ i 第5学年 単元数…Lesson 10 第6学年 単元数…Lesson 10 ii 第6学年「夏休みの思い出」における4技能5領域に関連した言語活動のマーク数…聞く；読む；話す（やり取り）；話す（発表）；書く=7；4；3；1；4</p> <p>⑧○各単元の終末Use & Checkや2回のProject Timeにおいて、習得した知識・技能を活用する活動を設定している。</p> <p>⑨○異文化理解について、各単元末に「コラム」という情報コーナーがある。</p> |
| 三省堂 | <p>⑦○ i 第5学年 単元数…Lesson 7 第6学年 単元数…Lesson 7 ii 第6学年「夏休みの思い出」における4技能5領域に関連した言語活動のマーク数…聞く；読む；話す（やり取り）；話す（発表）；書く=5；1；4；1；1</p> <p>⑧○各単元で積み重ねてきたことを基に、3回のPresentationで、習得した知識・技能を活用する「インタビュー・紹介」活動を設定している。</p> <p>⑨○異文化理解に関する読みもの資料として、巻末付録に情報が載っている。</p> |

| | |
|-----|--|
| 教出 | <p>⑦○ i 第5学年 単元数…Lesson 9 第6学年 単元数…Lesson 9</p> <p>ii 第6学年「夏休みの思い出」における4技能5領域に関連した言語活動のマーク数…聞く；読む；話す（やり取り）；話す（発表）；書く=2；1；3；0；1</p> <p>⑧○各単元の終末Final Activityにおいて、習得した知識・技能を活用する活動を設定している。</p> <p>⑨○異文化理解について、「Let's Look at the World」という情報コーナーがある。</p> |
| 光村 | <p>⑦○ i 第5学年 単元数…Unit 9 第6学年 単元数…Unit 9</p> <p>ii 第6学年「夏休みの思い出」における4技能5領域に関連した言語活動のマーク数…聞く；読む；話す（やり取り）；話す（発表）；書く=2；1；2</p> <p>⑧○各単元の終末Jump!において、You can do it!として習得した知識・技能を活用する「話す（やりとり）」の活動を設定している。</p> <p>⑨○異文化理解について、「Review世界の友達」というコーナーがある。</p> |
| 啓林館 | <p>⑦○ i 第5学年 単元数…Unit 8 第6学年 単元数…Unit 8</p> <p>ii 第6学年「夏休みの思い出」における4技能5領域に関連した言語活動のマーク数…聞く；読む；話す（やり取り）；話す（発表）；書く=8；1；1；5；3</p> <p>⑧○各単元の終末のActivityにおいて、「話す」活動を設定している。また、3回のReviewで、「聞く」「読む」「話す」ことを通して、習得した知識・技能を活用する活動を設定している。</p> <p>⑨○異文化理解について、各単元末に「Did you know?」という情報コーナーがある。</p> |

(4) 内容の表現・表記

- ⑩ 学習内容との適切な関連付けがなされたイラスト，写真等の活用
- ⑪ 文字の示し方と4線ノート，ローマ字の扱い
- ⑫ ICT環境への対応

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|------|--|
| 東書 | <p>⑩○巻頭に「主な登場人物」として，6人の人物を紹介し，2学年間を通して共通した人物が繰り返し登場している。また，5領域に関連した活動の種類を示すマークとキャラクターを設定し，紙面に明示している。</p> <p>⑪○文字の書体は児童がそのまま書き写して学びやすい書体を使用し，4線ノートの幅・線種・色使いにも工夫が見られ，さらに口で囲んでいる所もあり，判別しやすい。</p> <p>○第5学年巻末にへボン式ローマ字を一覧で示し，訓令式も [] で付加しているが，●ローマ字表記上の注意点は無い。</p> <p>⑫○「Let's Listen」等，実際の会話の音声等を聞く活動を複数設定している。また，単元の学習に関連した音声やインタビューの映像等を web 上で視聴できる二次元コードを全体にわたって示している。</p> |
| 開隆堂 | <p>⑩○巻頭に「おもな登場人物」として，7人の人物を紹介し，2学年間を通して共通した人物が繰り返し登場している。また，英語を書くときのポイントをアドバイスするキャラクター（鉛筆）等を設定している。さらに，5領域に関連した活動の種類を示すマークを設定し，紙面に明示している。</p> <p>⑪○文字の書体は児童がそのまま書き写して学びやすい書体を使用し，4線ノートの幅・線種・色使いにも工夫が見られる。</p> <p>○第5・6学年巻末にへボン式ローマ字を一覧で示し，訓令式も [] で付加している。へボン式のポイントは色を変え，ローマ字表記上の注意点もまとめてある。</p> <p>⑫○「Let's Listen」等，実際の会話の音声等を聞く活動を複数設定している。また，単元の学習に関連した語句，表現やアルファベットの書き順を web 上で視聴できる二次元コードを全体にわたって示している。</p> |
| 学図 | <p>⑩○巻頭に8人の人物を紹介しており，2学年間を通して共通した人物が繰り返し登場している。また，キャラクター（犬）を設定している。さらに，5領域に関連した活動の種類を示すマークを設定し，紙面に明示している。</p> <p>⑪○文字の書体は児童がそのまま書き写して学びやすい書体を使用し，4線ノートは，幅・線種に工夫が見られるが，●色使いには工夫が見られない。</p> <p>○第5・6学年巻末にへボン式ローマ字を一覧で示し，訓令式も () で示しているが，「へボン式」「訓令式」の表記はない。へボン式のポイントは背景の色を変えているが，●ローマ字表記上の注意点は無い。</p> <p>⑫○「Let's Listen」等，実際の会話の音声等を聞く活動を複数設定している。また，単元の学習に関連した音声を web 上で聞くことができる二次元コードを全体にわたって示している。</p> |

| | |
|-----|--|
| 三省堂 | <p>⑩○巻頭に「主な登場人物」として、6人の人物を紹介しており、2学年間を通して共通した人物が繰り返し登場している。また、児童の理解をサポートするキャラクターを設定している。さらに、5領域に関連した活動の種類を示すマークを設定し、紙面に明示している。</p> <p>⑪○文字の書体は児童がそのまま書き写して学びやすい書体を使用し、4線ノートの幅・線種・色使いにも工夫が見られる。</p> <p>○第5・6学年巻末にヘボン式ローマ字を一覧で示し、訓令式も〔 〕で付加しているが、●ローマ字表記上の注意点はない。</p> <p>⑫○「Listen & Talk」等、実際の会話の音声等を聞く活動を複数設定している。また、単元の学習に関連した語句や表現をweb上で聞くことができる二次元コードを全体にわたって示している。</p> |
| 教出 | <p>⑩○第5学年の最初の単元に10人の人物を紹介し、第6学年には新しい担任と転入生が加わり、2学年間を通して共通した人物が繰り返し登場している。また、様々な活動の種類を示すマークを設定し、紙面に明示している。</p> <p>⑪○文字の書体は児童がそのまま書き写して学びやすい書体を使用し、4線ノートは、幅・色使いに工夫が見られるが、●線種には工夫が見られない。</p> <p>○第5・6学年巻末にヘボン式ローマ字を一覧で示し、訓令式も〔 〕で付加し、表記上の注意点もまとめてある。</p> <p>⑫○「Let's Listen」等、実際の会話の音声等を聞く活動を複数設定している。また、動画やチャンツ、活動の仕方など学習に役立つ情報をweb上で見ることができる二次元コードを巻頭に示している。</p> |
| 光村 | <p>⑩○第5学年の巻頭に「主な登場人物」として、7人の人物と学習を助けるキャラクターを紹介し、第6学年には新たに転入生が加わり、2学年間を通して共通した人物が繰り返し登場している。また、様々な活動の種類を示すマークを設定し、紙面に明示している。</p> <p>⑪○文字の書体は児童がそのまま書き写して学びやすい書体を使用し、4線ノートは、幅・色使いに工夫が見られるが、●線種には工夫が見られない。</p> <p>○第5・6学年巻末にヘボン式ローマ字を一覧で示し、ポイントは__線で示している。訓令式も〔 〕で付加し、表記上の注意点もまとめてある。</p> <p>⑫○「Let's Listen」等、実際の会話の音声等を聞く活動を複数設定している。また、単元の学習に関連した音声やインタビューの映像、導入のアニメーション等をweb上で視聴できる二次元コードを全体にわたって示している。</p> |
| 啓林館 | <p>⑩○巻頭に「登場人物」として、9人の人物と2羽の鳥を紹介して、2学年間を通して共通した人物が繰り返し登場している。また、5領域に関連した活動の種類を示すマークを設定し、紙面に明示している。</p> <p>⑪○文字の書体は児童がそのまま書き写して学びやすい書体を使用し、4線ノートは、幅・色使いに工夫が見られるが、●線種には工夫が見られない。</p> <p>○第5学年巻頭、第6学年巻末にヘボン式ローマ字一覧を、ポイントは色を変えて示している。訓令式も〔 〕で付加し、表記上の注意点もまとめてある。</p> <p>⑫○「Listen & Say」等、実際の会話の音声等を聞く活動を複数設定している。また、単元の学習に関連した単語や表現をweb上で聞くことができる二次元コードを全体にわたって示している。</p> |

(5) 言語活動の充実

⑬ 児童の身近な暮らしに関わる場面設定の工夫

- ・他教科等との関連についての表記の仕方

⑭ 対話的な学びを促す言語活動の工夫

- ・6学年の自己紹介を扱った単元内で、自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動の工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 東書 | <p>⑬○単元末のOver the Horizonに他教科等との関連が設定されている。 ●それぞれの活動等がどの教科とつながりがあるのか明記されていない。</p> <p>⑭○6学年のUnit 1に設定されている。P 8のLet's Try 2でカードを使ったやりとりの活動、P 9のLet's Try 3で先生や友達の名前や誕生日を尋ねて書く活動、P 10, 11のEnjoy Communicationでは自分についてスピーチする活動が設定されている。</p> <p>○Enjoy Communicationのスピーチの仕方がstep1, 2, 3とスモールステップで示されている。</p> |
| 開隆堂 | <p>⑬○単元内に他教科等との関連がある活動等が設定されている。 ○それぞれの活動等がどの教科とつながりがあるのか明記されている。</p> <p>⑭○6学年のLesson 1に設定されている。P 4のLet's Play 1で友達と自己紹介をし合う活動、Let's Play 3で友達と自分の共通点をグループの中で探す活動、P 5のLet's Tryで友達と自分の共通点をクラスの中で探す活動が設定されている。</p> <p>○共通点を探す活動をグループ、クラス全体と段階をふんでいる。 ●発表や書くことの活動はなく、やりとりのみの活動である。</p> |
| 学図 | <p>⑬○単元内に「外国や日本の文化、英語以外の教科に関連する学習」が設定されている。 ●それぞれの活動等がどの教科とつながりがあるのか明記されていない。</p> <p>⑭○6学年のLesson 1に設定されている。P 21のSmall Talkで海外に行ったつもりで自己紹介をする活動、P 25のSmall Talkで自分の得意なことを伝え合う活動、P 26のUse & Checkで自分の自己紹介をし、発表したことを書く活動が設定されている。</p> |
| 三省堂 | <p>⑬○単元間や巻末等の読み物等において、他教科等との関連が設定されている。 ●どの教科とのつながりがあるのか明記されていない。</p> <p>⑭○6学年のLesson 1に設定されている。P 18のPart 1, P 20のPart 2, P 22のPart 3のListen & Talkで聞いた後に友達との共通点を見つける活動を、Part 3のTalk to Friendsで友達に自己紹介を伝え合う活動、P 24のWrite & Talkで好きなものや持っているものを書く活動と自分と同じ仲間を探しそれを発表する活動が設定されている。</p> |

| | |
|-----|--|
| 教出 | <p>⑬○単元内に他教科等との関連がある活動等が設定されている。 ●それぞれの活動等がどの教科とつながりがあるのか明記されていない。</p> <p>⑭○6 学年のLesson 1に設定されている。P 1 6のActivityで好きなものや できること、誕生日などを伝え合う活動、P 1 8のLet's Read and Write で「This is me シート」を書く活動、P 1 9のFinal Activityでつくっ たシートを使って自己紹介をし合う活動が設定されている。</p> |
| 光村 | <p>⑬○単元間にあるFun Timeの「学びをつなげよう」というコーナーで他教科 等との関連が設定されている。</p> <p>○それぞれの活動等がどの教科とつながりがあるのか明記されている。</p> <p>⑭○6 学年のUnit 1に設定されている。P 2 1のLet's Writeでは外国の友達 に自己紹介をするつもりで自分の出身地を書く活動、P 2 3のLet's Try ではメモをとりながらペアでやりとりをする活動、P 2 5のYou can do it では絵や写真を使って自己紹介をする活動が設定されている。</p> |
| 啓林館 | <p>⑬○単元内に他教科等との関連がある活動等が設定されている。 ●それぞれの活動等がどの教科とつながりがあるのか明記されていない。</p> <p>⑭○6 学年のUnit 1に設定されている。P 1 3のSay and Writeで自分の出 身地と得意なことを言って書く活動、P 1 5のActivityで自分の好きなも のを友達に言ってたずねる活動、言ったものを書く活動、P 1 7の Activityで外国の人に自己紹介を考えて言ったあとに書く活動が設定さ れている。</p> |

種 目 名 (「特別の教科 道徳」)

【観点ごとの具体的な視点】

(1) 基礎・基本の定着

- ①道徳的諸価値を理解するための工夫
- ②発問の工夫

(2) 主体的に学習に取り組む工夫

- ①問題解決的な学習を取り入れた工夫
- ②体験的な学習を取り入れた工夫

(3) 内容の構成・配列・分量

- ①現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

(4) 内容の表現・表記

- ①ユニバーサルデザインへの配慮
- ②深く考えさせるための効果的な挿絵・地図・図表等の工夫

(5) 言語活動の充実

- ①意図的な話し合い活動の設定
- ②記述欄の工夫

様式 1 - 2

【調査研究結果】

- (1) 基礎・基本の定着 視点①道徳的諸価値を理解するための工夫
視点②発問の工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|--------|--|
| 東書 | <p>○導入時の発問として、キャラクターの吹き出しに記されており、学習前の実態を把握しやすくしてある。</p> <p>○「考えよう①」で資料についての発問、「考えよう②」で自分を振り返る発問を設定している。</p> <p>●中心発問などが全く記されていないので、展開の仕方を全て考える必要がある。</p> <p>●第6学年「手品師」より 「そうした方がよいと思ったことを行動に移せたことはありますか」の発問は、どのように考えたらいいか難しい。</p> |
| 学 図 | <p>○コラムを配置し、情報モラルや生命尊重など今日的課題に対応できるようにしている。</p> <p>○「考えよう①」で資料についての発問、「考えよう②」で自分を振り返る発問を設定している。</p> <p>○第5学年「手品師」より 「やってみよう」では、「手品師になったつもりで、男の子と友人役の人と話し、手品師の心の様子を考えましょう」「かんがえよう」では、「男の子の前で手品を演じている時、手品師はどのようなことを思っていたでしょう」と問い、役割演技を想定した展開で手品師の思いに迫る発問である。</p> <p>●第5学年「手品師」より 「みつめよう」では、「誠実であることとはどういうことでしょうか」と、教材から離れ一般化した発問をしているが、手品師の行為と誠実をつなげて考えるのは難しい。</p> <p>●「まなび」の中に中心発問が記されているが、同じ視点の教材2つ分を併記してあるので混乱する。</p> |
| 教 出 | <p>○多面的・多角的に考える教材として、「みんなと仲良くする」「知らない人に気を付ける」「命を大切にする」の3点には特に重点をおき、マークを付けわかりやすく示されている。</p> <p>○「考えよう①」で資料についての発問、「考えよう②」で自分を振り返る発問、「つなげよう」で学んだことをこれからの生活にどのようにつながられるかを考える発問をしている。</p> <p>○キャラクター「とりどり先生」が問いかけて、児童がどんなことを考えるのかを意識できるようにしている。</p> <p>○第6学年「手品師」より 「電話を受けたとき手品師は、どのようなことを考えたでしょう」「手品師の素晴らしいところはどこでしょう」の発問は、手品師が迷った末に出した結論について、価値に迫ることができる。</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>●学習のまとめとして教材の最後に、とりどり先生の吹き出しがあるが、この言葉に考えが集約される懸念があり、多様な考えを引き出しにくい。</p> |
| 光村 | <p>○「考えよう」で、自分の考えを伝えたり友だちの考えを聞いたりする発問を提示している。</p> <p>○①教材の内容についての発問、②道徳的価値に迫るための中心的発問、③日々の生活に結びつけたり解決したりするための発問の3つで構成されている。</p> <p>○教材とコラムを合わせたユニットを設け、多面的・多角的に考えさせるようにしている。</p> <p>○第6学年「手品師」より 「人々から誠実さがなくなると世の中はどうなるかな」の発問は、他にない問い方で、反対の視点から見ることで価値の大切さに改めて気づくことができる。</p> |
| 日文 | <p>○教材文の後の「考えてみよう」で、教材文の内容に関する発問を投げかけ、「見つけよう生かそう」で、自分を振り返る発問を記している。</p> <p>○「学習の手引き」に話し合いの目的や方法が具体的に写真を使って説明している。</p> <p>○第6学年「手品師」より 「迷いに迷っている手品師の気持ちについて考えましょう。」「どんな思いから手品師は男の子との約束を選んだのでしょうか」「たった一人のお客様の前で、手品を演じている時の手品師は、どんな気持ちだったでしょう」「この学習を通して、『誠実に生きる』ということについて自分の思いをまとめよう」のどれも、手品師の思いの移り変わりに寄り添って、共感しながら考えられ、価値についての自分の生き方を振り返ることができる。</p> |
| 光文 | <p>○教材文の下段に、数種類のキャラクターの吹き出しとして発問を示している。</p> <p>○発問が示されている部分の上段の教材文を見ると、ここでの価値につながる内容が記されている</p> <p>○教材の主題名の後ろに、主題について考えさせたい発問、教材文の下に吹き出しで資料についての発問、教材文の後ろにまとめる発問と広げる発問が設定されている。</p> <p>●意見を交流する場面が具体的に示されている資料が少ない。</p> <p>●導入の発問、教材の内容に関する2～3の発問、まとめの発問、生活に広げる発問と発問が多い。</p> <p>●第5学年「手品師」より 「手品師は、どのような思いで男の子の前で手品をしているのでしょうか」の問いは、多様な思いが出すぎる発問で、価値に迫りにくい。</p> |

| | |
|----------------------------------|---|
| <p>学 研</p> | <p>○4つの視点の色分けに準じて「考えよう」の表記をし、そこに発問をまとめているのでわかりやすい。</p> <p>○「考えよう①」で資料についての発問、「考えよう②」で自分を振り返る発問を設定している。</p> <p>●「深めよう」で、主人公の気持ちを考える際に、選択式になっているので多様な考えをひきだしにくい。</p> <p>●第5学年「手品師」より 「自分が手品師だったら、どんなことを大切にしますか」の問いは、夢の実現の大切さに重きを置く児童もいると思われる。視点がずれていく可能性もある発問である。</p> |
| <p>廣 あ か つ き</p> | <p>○「考えよう話し合おう」で、資料についての発問と自分を振り返る発問を設定している。</p> <p>●教材ごとに3～4の発問があり、ノートには内容項目ごとに別の発問がある。1時間の学習で活用しにくい。</p> <p>●「考えよう話し合おう」に発問が記されているので、児童が友だちの意見と自分の考えと比較しながら思考を深めることができにくい。</p> <p>●「考えよう・話し合おう」の中で、「学習のみちすじ」が示され、本教材で考えていくことがよくわかるが、何が大切か示しすぎのところがある。</p> <p>○第6学年「手品師」より 「『ぼくにとっては』という手品師の言葉の意味を、生き方として考えてみましょう」「人に対して誠実に応えることができたとき、どんな気持ちになりますか」の問いは、誠実な生き方を選んだ手品師の思いに寄り添え、自分の生き方を振り返ることができる発問である。</p> |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫 視点③問題解決的な学習を取り入れた工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-------|---|
| 東書 | <p>○教材の始めにキャラクター「こころん」が導入の言葉を投げかけている。 (1・2年)</p> <p>○「考えるステップ」が示してあり、発問や指示が設定されている。</p> <p>●問題を見つけて考える教材は、高学年2つ、中学年1つで少ない。低学年は手引きのようなものが掲載されていない。</p> |
| 学図 | <p>●問題解決的な学習について特に表記していないため、どの教材が問題解決的な学習にふさわしいかわかりにくい。</p> |
| 教出 | <p>○問題解決的な学習ができるようにほとんどの教材で「つなげよう」で「自分だったら」と考えられる発問が設定されている。教材ごとに「学びの手引き」が掲載されている。</p> <p>○教材の始めに主題に関連する導入の投げかけをしており、課題意識を持って授業に臨むことができる。</p> <p>●授業の流れ(発問)がすべて「学びの手引き」に掲載され、先に発問を知る可能性がある。</p> |
| 光村 | <p>○教材文の後ろの「考えよう・話し合おう」の最後に「自分ならどうするか」を考えさせる発問が設定されている。</p> <p>○キャラクター「こころん」が学習に入る前に考えてほしいことを問いかけ、「きらりん」が学習したことと他の学習や生活の中で考えてほしいことをつなぐ呼びかけをしている。</p> |
| 日文 | <p>○問題解決的な学習の教材の後には「学習の手引き」が掲載されている。</p> <p>○「学習の手引き」で学習の手順が具体的に示されていたり、絵や写真で学習の様子がわかったりするので、問題解決的な学習に取り組みやすい。</p> <p>○教材の始めに「ココロウ」というふくろうのキャラクターが導入や問いかけをしている。</p> |
| 光文 | <p>○教材文の前に導入の問いかけがあり、主題に関わる問題意識を持たせている。また、終末では「まとめる(ハートを手で包むマーク)」として「考えたこと」「わかったこと」「学んだこと」を確認し、学習内容を振り返ることによって導入時での自分の考えや心の変容が実感できる。</p> |
| 学研 | <p>○「深めよう」で「つかもう」「さがそう」「ふみ出そう」という流れで、具体的な発問と記述欄を設定している。</p> <p>●記述欄が少ない。</p> |
| 廣あかつき | <p>●教科書には手引きのようなものが掲載されていない。</p> <p>●「考えよう話し合おう」にすでに発問が記されているので、児童が友だちの意見と自分の考えと比較しながら思考を深めることができにくい。</p> <p>●問題解決的な学習について、特に表記していないため、どの教材が問題解決的な学習にふさわしいかわかりにくい。</p> |

(2) 主体的に学習に取り組む工夫 視点④体験的な学習を取り入れた工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|-------|--|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○生活科での学校探検を振り返られるような資料がある。 ○アクティビティを取り入れている。 ○「つながる, 広がる」では, 具体的な場面を提示して自分の生活を振り返るようになっている。 ○「出会う・ふれ合う」のマークを使って体験的な学習を設定している。 ●数が少ない。 ●体験的な学習の扱いがわかりにくい。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○「やってみよう」でやってみたり, 人物の役になったりして考え, 体験的な学習を取り入れるようにしている。 ●数が少ない。 ●体験的な学習の扱いがわかりにくい。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ○「スキル」で体験を通して, 人としての行いについて考えを深めるために複数の場面が「やってみよう」として設定されている。また, 吹き出しを入れて分かりやすくしてある。 ○巻末の資料のページ「みにつけよう れいぎ・マナー」は具体的な礼の仕方や学校・公共でのマナーをイラスト入りで掲載しており, 実践力につながる。 ○「スキル」の記号を記してあるので, 体験的な学習がしやすい。 |
| 光村 | <ul style="list-style-type: none"> ○「えんじて考えよう」で役割演技のやり方を具体的に示している。 ○「心を通わせよう」のコーナーで, 実際に言葉をかけあう活動が設定されている。 ○アクティビティを取り入れている。 ○「さくせん『ゴリラ』」(2年 巻末)を利用して, なかよくなるコツを知ることができ, 道徳的実践につなげやすい。 |
| 日文 | <ul style="list-style-type: none"> ○具体的に絵や写真で場面設定がされていて, どんな場面かがよくわかる。 ○「劇をしたり, 体を動かしたりして考えてみましょう。」マークを使い, 目次及び該当ページに示しているのので, 体験的な学習にふさわしい教材が分かりやすい。 ○教材の後ろに「学習の手引き」として, 2人組になって会話をしたり, 場面を体験したりするように示されている。 ○アクティビティを取り入れている。 ●役割演技の写真は全学年の教科書に必要かどうか疑問が残る。 |
| 光文 | <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなでやってみよう」のコーナーで, 体験的な学習活動が設定されている。 ●「ひろげる(手を広げるマーク)」では, 「作戦をやってみましょう」「しらべましょう」「地域の活動に参加して報告会をひらきましょう」など, 具体的すぎる指示があり強制的な感じがする。また具体的すぎて実行しにくいものもある。 ●体験的な学習の設定が少ない。 |
| 学研 | <ul style="list-style-type: none"> ○「やってみよう」で役割演技について, 場面や発問を設定している。 ○役割演技をイラスト入りで取り入れている。 ●場面設定が文章だけなので, イメージしにくい。 |
| 廣あかつき | <ul style="list-style-type: none"> ○体験的な学習を促す資料が掲載されている。 |

(3) 内容の構成・配列・分量 視点⑤現代的な課題等を踏まえた内容の示し方

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 東書 | <p>○「いじめのないせかいへ」「じょうほうモラル」のマークが設定してあり、児童に意識づけられるようになっている。</p> <p>○いじめを題材として扱った直接的教材と、いじめを直接扱わない間接的教材を1つのユニットとして組み合わせている。</p> <p>●1年生に情報モラルのページがない。</p> |
| 学図 | <p>○「ともにいきる」「じょうほうモラル」のマークの教材があり、そこでいじめについて考えさせている。</p> <p>○いじめについての教材が複数回ある。</p> <p>○いじめ教材を、6月と12月(人権週間)を中心に複数配置されている。</p> <p>○学習内容一覧の中に、その教材に関わっている現代的な課題のテーマが書かれており、指導するのに役に立つ。</p> <p>●情報モラルのページがあるが、わかりづらい。</p> |
| 教出 | <p>○いじめについて、命の大切さについて、情報モラルについて、分かりやすくマークで示されている。</p> <p>○教材が、児童の実態に即している。</p> <p>○学習内容一覧の中に、その教材に関わっている現代的な課題のテーマが書かれており、指導するのに役に立つ。</p> <p>●1年生には情報モラルのページがない。</p> |
| 光村 | <p>○「いじめを許さない心」「自然とともに」「情報と向き合う」「共に生きる」「世界とつながる」について教材とコラムを組み合わせた「ユニット」を設け、発展的に考えられるようにしている。</p> <p>○いじめ問題のユニットを学年の前半に位置づけている。</p> <p>○学習内容一覧の中に、その教材に関わっている現代的な課題のテーマが書かれており、指導するのに役に立つ。</p> <p>●情報モラル的なページは、いつの時代にもあてはまるものになっている。</p> |
| 日文 | <p>○1年生に東日本大震災の教材が掲載されている。</p> <p>○情報モラルに関わる資料と、いじめをなくすための資料がある。</p> <p>○「心のベンチ」でお話とつなげて考えを深めるページが設定されている。</p> <p>○いじめ問題については、「いじめをなくすために」として、「自由と責任」「長所と短所」「男女の信頼」などの内容項目の教材と「心のベンチ」「いじめについて考えよう」を組み合わせ、1つのユニットとして設けている。</p> <p>○学習内容一覧の中に、その教材に関わっている現代的な課題のテーマが書かれており、指導するのに役に立つ。</p> <p>●「情報モラル」については、負の部分に触れておらず、「共生」のテーマも弱い。</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| 光 文 | <p>○「情報モラル」のマークの教材があり、わかりやすい内容である。</p> <p>○いじめ防止について、直接的・間接的に考えられる教材とコラム「みんな仲良し楽しい学校」を発達段階にあわせて選定している。</p> <p>○学習内容一覧の中に、その教材に関わっている現代的な課題のテーマが書かれており、指導するのに役に立つ。</p> <p>●いじめを生まない心についてマークを示して取り扱っているが、いじめを直接的に扱った教材はない。</p> |
| 学 研 | <p>○「いのち」や「いじめ防止」「情報モラル」「共生」のテーマを取り上げた教材が設定されている。</p> <p>○いじめという直接的な表現を多用することなく、日常生活で起こりうる問題から考えられる教材を選定している。</p> <p>○「情報モラル」については、マークを使い、情報モラル教育の指導に活用できる。</p> <p>●1年生の情報モラルのページがない。他の教材もわかりづらい。</p> <p>●いじめ問題についての表記はない。</p> |
| 廣 あ か つ き | <p>○いじめという直接的な表現を多用することなく、日常生活で起こりうる問題から考えられる教材を選定している。</p> <p>●1年生には情報モラルのページがない。</p> <p>●教材文が児童に考えさせるものになっていない。</p> <p>●「防災」「共生」「情報モラル」について、巻末に注意のような形で掲載してあるが、児童が深く考えられる教材ではない。インターネットを使うときに気を付けることについて投げかけがあるが、節度・節制と両方考えさせるのは難しい。</p> |

(4) 内容の表現・表記 視点⑥ユニバーサルデザインへの配慮
 視点⑦効果的な挿絵・地図・図表等の工夫

| 発行者名 | 意見 (○ 長所 ● 課題) |
|------|--|
| 東書 | ○イラストの挿絵や写真が多く、場面を想像しやすい。 ○5年「星野君の2塁打」が漫画で掲載され、読みやすく考えやすい。 ●目次に内容項目の色分けがされていないため、わかりにくい。 |
| 学図 | ○挿絵がとてもきれいで、人間や動物の表情もわかりやすく、考える支援になりやすい。 ○配色が明るい。 ○内容項目により色分けされ、目次に示されているのでわかりやすい。 ○全ページの配色とデザインに配慮がされている。 ○ユニバーサルデザインフォントが使用され、文字も大きく読みやすい。 |
| 教出 | ○判別しやすい配色やレイアウト、表現方法がされている。文字にユニバーサルデザインフォントが使用され、大きく読みやすい。 ○挿絵が多く考えやすい。 ○内容項目により色分けされ、目次に示されているのでわかりやすい。 |
| 光村 | ○場面が想像しやすい味わいのある挿絵が多い。また、挿絵、文字、写真の量のバランスもよい。 ○挿絵が多く考えやすい。 ○漫画形式の教材、写真やマークなど多様な教材が工夫されている。 ●目次が内容項目により色分けされていないのでわかりにくい。 |
| 日文 | ○教科書の中に学習の手引きを設けており、その中でも「問題解決的な学習方法を用いた手引き」、「体験的な活動を取り入れた学習の手引き」と分かちやすさで考えやすい設定がされている。 ○文字の大きさ、書体、罫線や囲みの使い方、色使いなどレイアウトの工夫があり判読しやすい。 ○挿絵が多く考えやすい。 ○全体的に明るい印象である。 ○内容項目により色分けされ、目次に示されているのでわかりやすい。 ○「道徳のとびら」において、内容項目がわかりやすく表示されている。 ○教材のはじめに、登場人物をイラスト入りで提示している。また、導入となるあらすじが2行ほどあり、話のあらすじを理解しにくい児童にも、内容を把握しやすく興味を持続できる。 |
| 光文 | ○大判サイズの教科書で写真やイラストが引き立つ。 ○挿絵が多く考えやすい。 ○内容項目により色分けされ、目次に示されているのでわかりやすい。 |

| | |
|-------|---|
| 学研 | <p>○大判サイズの教科書で写真やイラストが引き立ち、文字もユニバーサルデザインフォントを使い読みやすい。</p> <p>○挿絵が多く考えやすい。</p> <p>○登場人物の多い「2わのことり」（1年）は、挿絵が多く、考えさせやすい。</p> <p>○内容項目により色分けされ、目次に示されているのでわかりやすい。</p> |
| 廣あかつき | <p>○大判サイズの教科書で写真やイラストが引き立つ。</p> <p>●もう少し挿絵があってもいいと思われる資料もあった。</p> <p>●目次が内容項目により色分けされていないのでわかりにくい。</p> <p>●活字が多い印象で、長文を読みにくい児童には抵抗感がある。</p> |

(5) 言語活動の充実 視点⑧意図的な話し合い活動の設定
 視点⑨記述欄の工夫

| 発行者名 | 意見（ ○ 長所 ● 課題 ） |
|------|---|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「道徳の学習を進めるために」の中に、話し合う活動を示し、「話し合いの約束」として話し合いのポイントを示している。 ● 意図的な話し合い活動の設定が少ない。 ○ 巻末の「学しゅうのまとめ」のページに、「夏休みの前に」「冬休みの前に」「春休みの前に」として、学期ごとの振り返りを書く箇所があり、長期休業中への意識の継続や態度化が期待できる。 ● 各教材の考えを書く記述欄がない。 ● ノートがない。 |
| 学図 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「道徳の学習を始めよう」の中に、話し合いの状況を示している。 ○ 別冊「まなび」に「考えてみよう」のマークがあり、話し合い活動の場面が設定されている。 ○ 別冊「まなび」の巻末に、「まなびのヒント」のページを設け話し方、話し合い方等のポイントを示している。 ● 別冊「まなび」に発問が示され、記述欄が設けられているが、内容項目ごとになっており、教科書の順番とは違っていることや十分なスペースがないことから、記入しにくい。 |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「□年生の道徳の学習が始まるよ」の中で、話し合いの意義や活動について示している。 ○ 体験的な活動の後、感じたことを発表したり交流したりする活動が多く設定してある。 ○ 多くの教材の「やってみよう」の中に「～について話し合いましょう」という具体的な発問が明示してある。 ● 一部、記述する箇所は設けられているが、ほとんど記述できるスペースはない。 ● 「まなびのきろく」を書く欄はあるが、各教材の考えを書く記述欄がない。 ● ノートがない。 |
| 光村 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「道徳の時間は」の中に、「考えよう」というキーワードを用いた学習活動の一環として、話し合いの具体的な状況を示している。 ○ 「話し合ってみましょう」で、登場人物の気持ちを考えることを促している。 ○ 1年「じぶんのかんがえをつたえるとき」2年「くらべながら話し合うとき」3年「くわしくつたえ合うとき」で具体的な発言の仕方について示されている。 ● 意図的な話し合い活動の設定が少ない。 ● 「学びの記録」として記述するページがあるが、教材と離れていることや記述スペースが少ないことなどから使いにくい。 |
| 日本文 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「道徳の学び方」の中に、話し合いの具体的な状況を示している。 ○ 「学習の手引き」の中に、話し合いの流れを示している。 ○ 「がくしゅうのてびき」に活動例がある。 ○ 教材にあわせた「道徳ノート」があり、自分の思いや話し合っ感じたこ |

| | |
|-------|---|
| | <p>となどを記入することができる。</p> <p>○道徳ノートが、1教材1ページ指導の、実践に即した構成となっており、終末の発問については、実態に応じた発問ができるようあえて発問を記載せず、空欄にしてあるため使用しやすい。</p> <p>●1, 2年生のノートには、マス目があり、書きづらい。罫線の方がよい。</p> <p>●下段の記述欄は、ドットでは書きづらい。罫線の方がよい。</p> |
| 光文 | <p>○巻頭の「道徳の時間はこんな時間です」の中の学習の手順に、話し合う活動を提示し、話し合いのポイントを提示している。</p> <p>○「…について話し合いましょう」という明確な発問（指示）が書いてある教材もある。</p> <p>●意図的な話し合い活動の設定が少ない</p> <p>●発問はたくさんあるが、活動の具体例はない。</p> <p>●巻末に「学びの足あと」として記入する箇所があるが、スペースが少なく使用しにくい。</p> |
| 学研 | <p>○巻頭の「道徳の学習が始まるよ」の中に話し合う活動を提示している。</p> <p>○「ふかめよう」や「考えよう」のページに、話し合いの具体例が掲載してある。</p> <p>●「つなげよう」「広げよう」において、記述する箇所が設けられている教材もあるが一部である。</p> <p>●ノートがない。教科書への記述は、評価しづらい。</p> |
| 廣あかつき | <p>○巻頭の「道徳の時間はこんな時間」の中に、学習全体でねらいとする活動や内容を紹介し、話し合いの意義やポイントを示している。</p> <p>○教材の終わりに、「考えよう・話し合おう」として、話し合う学習活動を示している。</p> <p>●道徳ノートはあるが、内容項目ごとにまとめられているため、使用しにくい。また、ノートの中の「学習の記録」においても「感じたことや考えたこと」と示され、授業の流れの中では使用しにくい。</p> |

